

20年のあゆみ



配電盤茨城団地協同組合





目 次

発刊のごあいさつ	配電盤茨城団地協同組合理事長	幸田 秀一……(1)
祝 辞		
	中 小 企 業 庁 長 官	神谷 和男……(2)
	茨 城 県 知 事	竹内 藤男……(3)
	中 小 企 業 事 業 団 理 事 長	斉藤 太一……(4)
	商 工 組 合 中 央 金 庫 理 事 長	影山 衛司……(5)
	全国中小企業団体中央会会長	小山 省二……(6)
	総 和 町 長	青木 保夫……(7)
組合年譜		(8)
組合概況		(18)
配電盤について		(19)
配電盤の製造工程		(20)
現役員紹介		(22)
役員変遷表		(23)
組合の組織図		(25)
統計資料		(26)
福利厚生施設について		(30)
表 彰 状		(31)

組合員の叙位，叙勲，表彰者	(32)
組合員物故者名簿	(33)
創立当時関係者の座談会	(34)
組合設立の経緯	(42)
従業員宿舍土地委員会について	(64)
各委員長の座談会	(68)
随 想 集	(76)

村田 清 間宮正夫 山田 稔 三ヶ尻隆治 中谷俊衛 樋口重蔵 俣 重男

工場長の感想	(89)
団地音頭	(97)
団地への交通略図	(98)
団地内各社配置図	(99)
組合員名簿	(100)
組合員企業紹介	(101)
附録「ふるさとの歴史総和」	矢次 京介.....(122)
あとがき	(147)



ごあいさつ

昭和57年10月9日

配電盤茨城団地協同組合

理事長 幸田 秀一

本日、配電盤茨城団地協同組合の創立20周年式典をあげるに当り多数の御来賓各位の御臨席を賜りましたことは私達一同誠に光栄と存じている次第であります。

顧りみますれば私共東京在住の配電盤関係業者21名が同志的結合を以て工場の集団移転を計画致したのは昭和36年6月のことでございました。早速各地を物色致してありましたところ幸いに茨城県並に総和町の御配慮により当地に工場団地並に社宅用地の御幹旋を戴いた次第であります。

当時は数少なかった助成団地の指定を受け昭和37年度より第一次3ヶ年計画の建設工事に入り幾多の困難なことがございましたが之を克服し、39年無事に完成しました。

この団地の完成は過密都市東京よりの疎開団地としては全国初めてでありまして意義深いものと考えております。

爾後各組合員は東京工場を縮少、乃至閉鎖し団地重点の操業に移行して参りましたが業績の進展に伴い、昭和42年から第2次4ヶ年計画を実施し団地内工場及び家族寮、その他厚生施設を増設し内容を充実して参りました。

この間、労働省からは集団化に伴い昭和46年5月中小企業集団労務改善補助事業の指定を受け5ヶ年間補助金が交附され、更に46年10月には共同福祉施設設置並に運営について労働大臣表彰を賜り、昭和47年3月には46年度中小企業雇用管理近代化モデル集団に指定され厚生施設として体育館の建設を辱う致しました。更に昭和56年11月には通商産業大臣より工場集団化事業に貢献したとのことにより表彰を賜ったことは私共の光栄に存ずる次第であります。

今回、団地創立20周年に当り、創立当初より顧りみまするに経済高度成長期を経て、ドルショック、石油ショックに引続き長期の不況下に於いて、組合は幾多の困難に遭遇してまいりましたが組合は相い助け合い今日に至りました。

因みに、組合員の売上高を見ますに団地へ移転前の昭和38年は53億円であったものが、昭和47年には150億円となり、昭和56年には290億円に達しており、先ず順調に推移し得たものと存じます。之は偏えに中小企業庁、茨城県、中小企業振興事業団、商工組合中央金庫其他関係各団体の温い御指導、御協力の賜物と厚く感謝申し上げる次第であります。

私共はこの20周年を機に団地の先覚者、モデル団地としての自覚を新にし、組合員が団地協同精神を充分理解してお互いに協力し、将来に向かい発展をめざして進むことを決意している次第であります。

今後も厳しい経済情勢下におかれると存じますが何卒従来に倍する御指導、御鞭撻を戴くと共に御支援を賜りますよう御願ひ申し上げます。

祝 辞

昭和57年10月

中小企業庁長官

神 谷 和 男



配電盤茨城団地協同組合が創立20周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

皆様方は、昭和37年4月に組合を結成し、筑波山のふもと配電盤茨城団地を昭和46年6月に完成されて以来、積極的に共同事業を展開してこられました。組合結成から今日までの20年の間、組合員の方々の強い相互扶助精神の下、一致協力し幾多の困難を乗り越えてこられ、高度化の実をあげておられますことに対して深く敬意を表するものであります。

ところで、御承知のように我が国中小企業を取り巻く内外の経済環境の変化は厳しく、資源・エネルギーの制約の高まり、国民ニーズの多様化、発展途上国の追い上げ等、中小企業に新たな対応を迫る多くの要因が生じております。中小企業がこのような厳しい環境変化を克服していくためには、人材、技術、情報といったソフト面での経営資源の充実を含め、各中小企業の体質を強化するとともに、中小企業構造全体の高度化を一層促進することが緊要な課題となっております。この意味におきまして中小企業の方々の自助努力の精神と持前のバイタリティーとがますます重要となっております。政府といたしましても、こうした自主的努力を支援し、事業環境の改善を図るために総合的な中小企業対策を一層強力に展開してまいり所存であります。

配電盤茨城団地協同組合の皆様方は、これまでも積極的に近代化・合理化を進め、種々の問題を解決してこられたところでありますが、今日の激変する経済環境の中にあって、今後とも一致協力し、なお一層の発展を図られることを確信いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。

祝 辞

茨城県知事

竹内 藤 男



配電盤茨城団地協同組合が創立20周年を迎えられたことを、心からお喜び申し上げます。

当工業団地は、昭和37年に国の中小企業工場集団化指定団地となり、約3年の歳月と15億円余の事業費を投入して、土地買収、造成、工場建設がなされたものであります。元々は東京都内の商業地域及び住宅地域等の過密市街地に散在立地していた21社が、企業規模の拡大、環境問題の解決、さらには共同行為による経済合理性の追求を集約化に求めて集団移転されたものであります。

今日までの20年を振り返りますと決して平坦順調な道程ばかりではなかったと思われまします。操業開始後間もなくの不況、48年秋の石油危機等経営の根幹をゆるがす大きな経済環境の変化に次々に直面し、その都度大変な苦労を余儀なくされたのであります。

しかし、幾多の困難を克服し、本県最初の中小企業団地として確固たる経営基盤を築き上げられ、今日めでたく20周年の記念すべき日を迎えられました。これもひとえに理事長さんを中心とした組合員各位の団結とたゆまぬご努力の賜と衷心から敬意を表する次第であります。

現在のわが国の経済環境をみますと、長期にわたる内需の不振、これに加え輸出の増勢も鈍化しております。また、中・長期的にみても、中小企業を取り巻く環境は、消費者ニーズの多様化、技術革新及び情報化の急速な進展、エネルギー情勢の不安定化、発展途上国の追い上げ等、内外の要因の変化により依然厳しい状況が続くものと見込まれています。

このような厳しい経営環境のもとで、一層の発展をめざすために理事長さんをはじめ、組合員各位が持ちまへの団結力と優れた英知をさらに結集され、一段と積極的な事業展開と経営の合理化に努められますよう期待するものであります。

私は、知事就任以来、「県民との対話と参加」を県政運営の基本理念とし、豊かで住みよい地域社会づくりと世界に開かれた茨城づくりに全力を傾けているところであります。

幸い本県におきましては、国際科学技術博覧会の開催、水戸射爆撃場の跡地利用、霞ヶ浦用水事業、常磐自動車道の整備等、県土発展の基盤となる、各種のプロジェクトが着実に進展しており21世紀に向けて県勢の飛躍的な発展が期待されているところであります。

こうしたことから、本県の産業、経済構造は今後大きな変貌を遂げるものと思われまします。このため、今後の中小企業振興施策の展開に当たりましては、長期的視点に立って、真にたくましい中小企業の育成を図るべく、従来にも増して積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

おわりに、配電盤茨城団地協同組合の一層の御発展を祈念いたしまして、お祝の言葉といたします。

祝 辞

中小企業事業団理事長

斎 藤 太 一



このたび、配電盤茨城団地協同組合創立20周年を迎えられるに当たり、心からお祝い申し上げます。

貴組合は、昭和37年東京配電盤工業会の有志の方々の永年の親交により、21名をもって結成され、将来の発展を図るべく茨城県に団地進出を決断し、ここに順調な発展を遂げられ創立20周年を迎えられましたことは、誠に慶ばしい限りであります。

団地建設計画の着手より完成までは約3年を費やし、昭和39年10月に大規模な同業種集団による配電盤の一大団地が完成され、今日その成果は、集団化の推進役、工場団地の模範として全国的にその名声を高められており、関係者の一人として慶びにたえない次第であります。

貴工場団地が完成した昭和39年は、高度成長期の初期でありましたが、その後は発展途上国の追い上げ、円相場の変動、第一次、第二次の石油ショックなど、わが国の経済環境は大きく変化し、中小企業も又、厳しい試練に直面して参りました。

貴組合が、このような環境の激しい変化を乗り越えて、立派な集団化の成果をあげてこられましたことは、組合幹部の強力なリーダーシップはもとより組合員の皆様方の固い団結と組合運営に対する御努力の賜と深く敬意を表する次第であります。

今後の日本経済は安定成長の定着化が進むなかで、その対応の“鍵”は、より専門的な技術力、ないしは技術を含めた情報力の強化と活用にあるといわれております。今後の中小企業をとりまく経済環境は、更に一層の厳しさを増すものと予測されますが、貴組合がこれまで20年間にわたり蓄積された経験と団結力を十分に生かして今後、更に発展されんことを祈念いたしまして私の祝辞といたします。

祝 辞

商工組合中央金庫理事長

影 山 衛 司



このたび配電盤茨城団地協同組合が創立20周年を迎えられましたことは誠に喜ばしく心からお祝い申し上げます。

貴組合におかれましては、昭和36年中小企業近代化資金助成法の成立を契機に、都内の配電盤製造業ならびに関連業界の方々による工場の集団移転にいち早く着手され、昭和37年現在地に完成をみたわけであります。

以来20年間、貴組合は高度化事業の先駆者として集団化による共同のメリットを追求すべく相互扶助の組合理念に則り努力を続けてこられたのでありまして、その足跡は誠に見事というほかありません。

その結果、今日では全国工場団地の模範としての地歩を築かれ、ますます発展の一途を辿っておられますことは、組織金融に携わる当金庫と致しましても誠にご同慶にたえないところであります。

これは、幸田理事長以下各役員の卓越した指導力と組合員の皆様の団結の賜物でありまして、特に幸田理事長には全国工場団地協同組合連合会会長として、常々全国の工場団地運営に強力なリーダーシップを発揮され、業界から厚い信頼を得ておられるのを拝見いたしましたとしても、その先見性と指導力に対し深く敬意を表する次第であります。

さて、不透明な変動の時代を迎え、わが国経済はこのところ停滞気味に推移しており、中小企業にとっても引き続き厳しい環境が続くものと思われれます。

このような低成長時代にあつては、中小企業の組織化が果す役割は従来にも増して重要になっており、技術開発や情報収集などソフト面の共同事業を強化したり、異業種間における組織活動の強化を図っていくことが不可欠であると存じます。

貴組合におかれましては、この輝かしい20周年を契機に、組織化活動の原点に立ちかえり、更に新しい時代のニーズに適合した対応を図られ、“魅力ある組合活動”の一層の展開を実現されますよう期待してやみません。

私ども商工中金といたしましても、組織金融の専門機関として従来にも増して皆様方との連携を密にし、一步一步着実に進歩発展するよう“Progress Together”の精神で中小企業の諸問題に挑戦し、その解決に努力してまいりたいとお願いいたしております。

栄えある20周年記念にあたり、貴組合ならびに組合員の皆様の一層のご発展、ご繁栄を祈念いたしまして祝辞といたします。

祝 辞

全国中小企業団体中央会会長

小 山 省 二



配電盤茨城団地協同組合がここにめでたく創立20周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

ご承知のとおり近年の我が国の経済情勢は、個人消費の伸び悩み、民間投資、公共投資の停滞が見られ依然として景気の低迷が続いております。特に中小企業では販売の不振等により倒産が多発し、その経営は極めて不安定なものとなっております。

このような厳しい環境のもとにおいて企業を維持・発展させていくためにはコストの低減・商品・サービスの高付加価値等をより積極的に推進していく必要があります。

その為には、企業みずからがいわゆるソフトな経営資源の充実を支柱に総合的な経営力強化を図ることは言う迄ありませんが何よりも相互扶助の精神に基づいた協同の力で諸問題を解決していくことが必要であります。

工場団地は昭和36年中小企業振興資金等助成法の改正により産声をあげ、以来20余年中小企業工場の集団化、事業の共同化に大きな役割を果し続けております。

貴組合におかれましては、制度発足間もない昭和37年に設立されて以来、今日に至るまで一貫して全国の数ある工場団地協同組合の中でリーダー的役割を果し続けておられることには深く敬意を表するものであります。

工場団地制度の重要性は、今後も増大していくと思われます。貴組合におかれましても本年、20周年を迎えられたことを機に更に団結を強固のものとして、団地の一層の安定と傘下中小企業のますますの発展を実現されますことを切に希望いたしましてお祝いのご挨拶といたします。

祝 辞

総 和 町 長

青 木 保 夫



配電盤茨城団地協同組合創立20周年に当たり、一言ごあいさつを申し上げます。

顧みますれば、配電盤茨城団地協同組合は、関連企業の皆様が大同団結して工場の集団化による企業の協同化及び近代化を促進するとの目的のもとに当町への進出を計画され、全国のモデルオープン団地として設立されたのであります。

以来今日まで20年の長きにわたり、組合員の力強い結束のもと、当町企業の中核としてゆるぎない地位を築かれ、町政の発展に多大の貢献をしておられることに対し、まことに敬服のほかありません。

さて、今日の社会経済情勢は、混迷する国際環境を背景に、資源・エネルギー制約の顕在化、経済の停滞、貿易摩擦の深刻化等が進行いたしております。

このような厳しい状況の中で、団地企業の皆様におかれましては幾多の試練に直面しながらも深い洞察力と的確な判断に基づいての経営努力がなされているものと存じ、心から敬意を表する次第であります。当町といたしましても、豊かで住みよい未来に誇れる町づくりを目ざし、行政が社会の変化に対応し、新しい時代の要請に十分に応えられるよう、その基盤づくりを積極的に進めているところであります。特に、雇用や財政面で大きな役割を果たしている工業の振興については、行政の重点施策の一つとして取り組んでおり、工業会並びに商工会と連携を保ちながら、生産性・技術水準の向上、経営の近代化と体質の強化等総合的な施策を展開しているところであります。

どうか組合員各社におかれましては、この20周年を契機に、更に組合員各社一致団結し、強固な企業体として邁進され、日本経済の成長と産業の近代化を支える配電盤茨城団地協同組合として発展されますことを願ってやみません。

終わりに、貴組合並びに組合員各社、従業員皆様のますますのご繁栄を祈念いたしまして、私のお祝いのことばといたします。

組合年譜 20年のあゆみ

1. 昭和36年5月東京配電盤工業会会長幸田秀一、副会長宇賀神金四郎外幹部役員を中心に工場団地建設計画を企画し同年7月より茨城県猿島郡総和町長に土地買収方交渉開始、土地確保に着手。
1. 昭和36年11月15日、茨城県に出頭し集団化援助を要望し、同年12月、工場集団化貸付金特別会計予算の配慮を願出た。
1. 昭和37年3月26日東産認協第514号を以て組合設立認可を受く。
1. 組合員 21名 出資金540万円を以て組合設立、理事長幸田秀一、常務理事宇賀神金四郎、樋口重蔵、白川一郎、理事久保田正、大口慶次郎、田原一郎、宮田優、武藤任、監事中谷俊衛、渡辺勝次郎、遠藤てる、就任、昭和37年4月6日設立登記完了。



1. 工場用地買収を総和町開発公社に依頼買収に着手し昭和36年8月26日工場用地140,644㎡(公簿)の買収契約成立、契約金として41,962千円支払昭和37年2月27日代金完済。
1. 昭和37年1月団地造成を決議し工場等集団化事業実施計画書を茨城県へ提出、

三ヶ年計画として下記実施を決定

- 初年度 土地造成、各社工場21棟、受電、給排水、消火設備
- 二年度 組合事務所、診療所、食堂、日用品及資材マーケット、試験室等の建物、従業員宿舎、道路舗装
- 三年度 塵埃処理場、マイクロバス、防火貯水槽、境界、研修会議室、防犯灯等

予算合計 820,479千円

1. 昭和37年6月 組合の総力を結集して建設に当ることを議決し下記委員会を設置して団地建設を分担して着手した。

総務委員会＝諸計画を企画担当

委員長 幸田理事長

造成委員会＝土地造成を担当

委員長 田原理事

建設委員会＝工場建物建設を担当

委員長 久保田理事

金融委員会＝建設資金の調達を担当

委員長 大口理事

土地委員会＝住宅用地買収を担当

委員長 宮田理事

住宅建設委員会＝従業員宿舎建設を担当

委員長 宮田理事

1. 昭和37年6月 農地転用事前審査申請
同年12月承認、38年6月農地転用本申請、
同年8月29日承認許可を受く。
1. 昭和37年7月 茨城県知事より団地指定の通知を受け、建設診断開始。
1. 昭和37年7月 山下寿郎設計事務所に建設設計を依頼。
1. 昭和37年12月1日 鹿島建設㈱との間に

初年度工事契約締結，同年12月13日地鎮祭挙行し工事着手。



1. 昭和38年2月8日 茨城県へ初年度工事に対する中小企業近代化資金交附申請提出，同年2月20日承認決定，2月22日7,100万円借入を受く。
1. 昭和38年6月28日 初年度工事に対する中小企業金融公庫並に商工組合中央金庫の協調融資各5,000万円宛の融資を受く。
1. 昭和38年2月より工場用地所有権移転登記，同年9月完了。
1. 昭和38年5月 定時総会開催第1期決算を承認，役員改選の結果，理事全員重任，監事1名減の2名とし中谷，渡辺両氏重任，代表理事に幸田秀一重任した。
1. 昭和38年12月 第2年度建設に係る事務所外共同施設設置の具体案を決定，鹿島建設㈱と工事契約締結し，茨城県へ昭和38年度中小企業近代化資金貸付申請，昭和39年3月4,652万円の貸付を受く。
1. 昭和38年12月 第一次従業員宿舍建設につき鹿島建設㈱と契約，工事着手，昭和39年3月商工中金より年金福祉事業団代理貸付金7,980万円の融資を仰ぎ鉄筋コンクリート造独身寮9棟，木造一戸建住宅81棟を建設，同年9月竣工。
1. 昭和39年5月 第2年度建設工事に対する商工中金並に中小企業金融公庫の協調

融資各4,150万円の融資を受け工事順調に進行，同時に工場設備機械の購入資金として商工中金より3,650万円，中小企業金融公庫より3,475万円の融資を受け夫々組合員に転貸実施す。

1. 昭和39年7月 工場完成による移転操業開始に伴い爾後の団地運営を円滑にする為下記各委員会組織の設置を決議し発足した。

総務委員会＝団地運営の基本的企画を担当

委員長 幸田理事長 副 宇賀神理事
財務金融委員会＝組合並に組合員の金融を担当

委員長 大口理事 副 樋口理事
文化厚生委員会＝従業員の福利厚生事業担当

委員長 白川理事 副 田原理事
労務委員会＝募集，給与の統一，労務規定其他全般

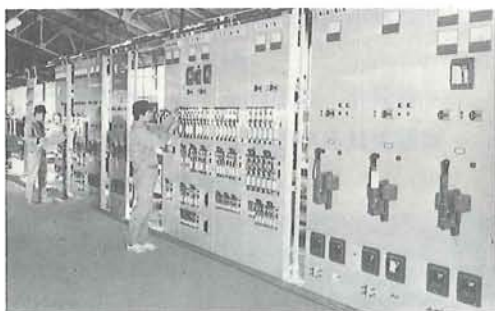
委員長 宮田理事 副 幸田秀男
技術委員会＝製品規格技術の研究向上を計る

委員長 久保田理事 副 久保田吉男
施設運営委員会＝共同施設の運営建設を担当

委員長 古川社長 副 中谷監事
業務委員会＝配電盤の共同受注，共同購入配電盤業者の輪番制



1. 昭和39年10月3日 初年度及び第2年度工事並に第一期従業員宿舍工事完了、団地施設大方竣工したので関係官庁、金融機関の参列を得て落成式挙行。
1. 昭和39年12月 第3年度事業計画について承認を受け工事実施し、茨城県より中小企業近代化資金2,154万円の貸付を受く。
1. 昭和40年2月 団地並に各社工場の運営を円滑ならしめる為、1日理事長制実施を議決3月より実施。
1. 昭和40年3月 臨時総会開催、中小企業庁担当官、田村公認会計士の臨席を得て団地建設に伴う経理処理の基本線を下記の通り整理のことに決定す。



- (イ) 共同施設は総て組合の資産とする。
- (ロ) 各社の工場は各社の所有物として経理処理する。
- (ハ) 共同施設に対する諸経費は賦課金により元本償還は出資徴収による。

- (ニ) 建設用土地及び道路用地は組合所有としその醸出金は出資に充当する。
- (ホ) 共同施設に対する不足金を各社醸出の建設資金の内から増資に充当、出資総額1,970万円となる。

1. 昭和40年3月 事業部を設置、事業部運営規定を制定して共同受託事業開始。
1. 昭和40年5月 定時総会開催、第3期決算、第4期決算承認、役員改選の結果、理事監事全員重任、理事1名増員古川氏就任。



1. 昭和40年5月 労働省より中小企業集団労務改善補助事業の指定を受け、改善実施計画を樹立5ヶ年間補助金を受けて実施。
1. 昭和40年6月 臨時総会開催、組合借入限度7億円とすること、及び季節資金として中元並に年末融資取扱の方針決定。商工中金より中元資金の融資を受けて転貸実施。
1. 昭和40年6月 第3年度建設事業に対する商工中金並に中小企業金融公庫の協調融資各1,250万円の借入を受け事業完成。
1. 昭和40年6月 労務委員会起草に依る団地共通の就業規則制定、実施を議決。
1. 同年同月 茨城県の指名業者の指定を受け県関係の配電盤共同受託の積極化を計ることとなった。尚、政府の中小企業に

対する官公需発注の促進に伴い昭和41年3月古河自衛隊、42年3月には建設省の指定業者の指名を受けた。

1. 昭和40年8月 組金融規定、金融財務委員会規定制定、組合私設水道料、交換台利用電話料金徴収を議決実施した。
1. 昭和40年8月より労務委員会提案の従業員に対する労務管理、監督者訓練の講習会開始、以後継続実施のことを議決。
1. 昭和40年9月 第一次建設に伴う自己資金充実を計る為、出資金1,260万円の増資を決定、併て組合員に対して長期運転資金を商工中金から1億2千万円借入れ全員に転貸し業務の円滑を計らしめた。
1. 昭和40年9月 茨城県の団地運営診断開始され翌41年3月報告会開催さる。



1. 昭和40年10月 第2次住宅建設資金3,290万円を借入れ、鉄筋コンクリート造独身寮4棟、木造1戸建家族宿舍24棟を完成、これを以って第一次建設を完了、初年度来の総工費並に機械代等合計11億2,347万円となった。



1. 昭和40年10月 共同食堂を委託経営より自営に切換え独立採算性を議決し実施。
1. 昭和40年12月 共同施設に対する特別賦課金制度を償却費、金利其他直接経費を賄う特別会計として賃貸料徴収に変更実施。
1. 昭和41年2月 組合員の金融補充の為、自己資金1,000万円を原資とした小口金融制度を議決し、3月より1社300万円を限度として実施。
1. 昭和41年3月 本年度より新入社員に対する基礎知識教育訓練を県立職訓校に委嘱実施。
1. 昭和41年6月 事業部木戸営業所開設を決議し、同年8月披露宴開催進出。

1. 昭和41年6月 中小企業庁計画部振興課、助成課及び下請企業課と官公需確保に対する説明会並に対策打合せ会開催。
1. 昭和41年7月 助成金の償還条件、7ヶ年に緩和さる。
1. 昭和41年10月 創立記念日に文化・体育祭開催を決定実施。
1. 昭和41年11月 商工中金並に中小企業金融公庫借入金額を向う2年間半額に減額の条件変更承認さる。
1. 昭和41年11月 事業部水戸出張所を一時閉鎖、出張活動によることに切換え。
1. 昭和41年12月 茨城県商工労働部工業課と(1)共同受託、(2)技術開発、(3)講習会及び研究会に就ての座談会開催。



1. 昭和42年5月 第一次建設のうち繰延への工場建設を43年度以降3ヶ年計画にて実施することに決定。
1. 昭和42年5月 通常総会に於て第5期、決算承認、理事増員に関する定款変更を議決、役員改選並に互選の結果、理事長幸田秀一、専務理事伊牟田繁、常務理事

宇賀神金四郎、樋口重蔵、白川一郎、久保田正、理事大口慶次郎、田原一郎、宮田 優、古川高光、中谷俊衛、渡辺勝次郎、北川末二、監事大矢武雄、藤岡雄吾、以上13名、監事2名就任。

1. 昭和43年1月 増資540万円実施を議決、5月払込終了登記出資金3,770万円となる。
1. 昭和43年3月 茨城県より高度化資金1,210万円商工中金より550万円の貸付を受け西独製ニブリングマシン外共同板金作業機械設置。
1. 昭和43年5月より第二次計画による43年度工場増設に着手、茨城県より43年9月及び12月計4,204万円の高度化資金、商工中金より44年5月880万円の貸付を受け、港工業所外4社の工場増設完了。
1. 昭和43年7月 二次建設に伴う家族宿舎として鉄筋コンクリート式階建1棟建設、年金福祉事業団代理貸1,270万円を受く。
1. 昭和43年8月 組合員社長後継者(所謂二世)の会を結成、組合に新風を吹込む理想の下に新風会と命名して発足、先ず相互間の親睦を計り、次に毎月上旬に勉強会開催、各会員輪番に幹事となり運営することに決した。
1. 昭和44年5月 通常総会開催、第7期決算、第8期予算承認可決、役員任期満了改選の件は監事藤岡雄吾辞退。代って大條駒雄就任、その他の役員は理事長以下全員重任す。
1. 昭和44年6月 団地の実情をPRし求人活動を容易且つ積極化する為学校、家庭向に映画「若者のくに」を製作、8mm及び12mmフィルム各2本を製作(費用200万円)した。

1. 昭和44年6月 新製品開発の一手段として広くアイデア募集することを議決し白川一郎、久保田正世話人として新聞等に広告する等活動することを決定。
1. 昭和45年1月 第二次計画による44年度資金として茨城県より高度化資金1,831万円、同年3月商工中金協調融資550万円の貸付を受け宇賀神電機外1件の工場増設完了。
1. 昭和45年2月 全体会議に於て共同板金作業所を協業化法人に改組、株主に配電盤業者11社、板金3社が加盟して積極的に運営することを議決。
1. 昭和45年6月 560万円増資払込、出資金4,330万円となる。
1. 昭和45年8月 臨時総会開催、組合員脱退時の出資払戻金を出資払込金の範囲に於て払戻を行うことに定款変更の件を可決。
1. 昭和45年9月 取引高の拡大に伴い金融規定中運転資金の転貸限度を倍額迄拡大を決定。
1. 昭和46年1月 第二次計画45年度分に対する建設診断実施され同年5月茨城県より高度化資金4,963万円、7月商工中金協調融資1,150万円の貸付を受け幸田電機ほか4件の工場増設完成、二次計画終了。
1. 昭和46年1月 柳橋住宅地が調整区域に編入の告示あり、同年7月従業員宿舍用地として開発行為の申請を茨城県へ提出、昭和47年5月知事の許可を得て整備に着手、道路及び排水工事費550万円にて完成。
1. 昭和46年3月 事業部共同受託の拡大を計画、旭日電機を幹事会社として水戸営業所を再開設、白川事業部長の下各社営業責任者の協力体制を強化して、東京営

業所と共に各独立活動開始。

1. 昭和46年5月 工場団地全国連合会通常総会に於て組合事業に貢献した功績により中谷理事表彰さる。
1. 昭和46年5月 通常総会開催、第9期決算及び第10期予算承認、役員任期满了に伴う改選の結果全員重任、46年度共同施設に対する借入償還金増大に伴い償還補充資金として増資1,100万円を議決し、8月より分割払込、47年4月払込完了により登記す。
出資合計5,430万円となる。
1. 昭和46年6月 組合運営委員会メンバー交代を議決、下記委員長、委員を委嘱。
財務金融委員会
委員長 宇賀神常務理事
副 大口理事
業務委員会
委員長 幸田理事長
副 白川常務理事
技術委員会
委員長 田原理事
副 樋口常務理事
文化厚生委員会
委員長 久保田常務理事
副 宮田理事
労務委員会
委員長 白川常務理事
副 古川理事
施設運営委員会
委員長 中谷理事
副 渡辺
1. 昭和46年8月 第二次建設完了に付き竣工式挙行。
1. 昭和46年9月 ニクソンショックに対処する心構に就いて商工中金調査部、米沢次長を講師として時局講演会開催、終了

後懇談会開催。

1. 昭和46年10月 共同福祉施設設置、並に運営優秀につき労働大臣表彰を受く。
1. 昭和46年12月 第二次建設完了に伴い長期運転資金として商工中金より5,300万円の融資を受け第二次工場増設者幸田電機ほか8社へ転貸。
1. 新風会の勉強会を毎月7日に開催することを決め7日会と称して田村先生を講師とし財務分析、原価計算テキストを購入、継続して講習実施することを決議。
1. 昭和47年3月 46年度中小企業雇用管理近代化モデル集団の指定を受く、同年4月雇用促進事業団主催の室内体育館建設に関するヒヤリング開催され出席す。
1. 同年同月 日用品マーケット兼従業員クラブ建設を決議、団地内に室内体育館建設決定による計画協議、既設団地見学を決定、6月5日岐阜機械、6月26日静岡金属団地見学。
1. 昭和47年4月 組合従業員退職給与規定制定。
1. 昭和47年5月 雇用管理近代化計画策定の為白川理事を長とする推進委員会結成、同年8月計画書を茨城県へ提出承認さる。
1. 昭和47年6月 夏季中（自7月22日至8月26日）団地内は毎土曜半休制とすることを議決、実施。
1. 同年同月 事業部活動を円滑化する為事業部規約改正。
1. 昭和47年6月 室内体育館、規模並に自己資金調達計画を検討の結果、労働省予算内に於て建築願うことに議決。其の線にて雇用促進事業団並に設計事務所と接渉、仕様書決定。
1. 昭和47年8月 前期同様出資1,100万円

増資の件を議決し9月より分割払込のこととし、48年4月に払込済に付き登記す。出資総額6,530万円となる。

1. 昭和47年11月 室内体育館の設備、完成後の運営、管理を担当する体育館運営委員会設立を議決し、委員は新風会員及び工場長を主体とする13名とし、委員長に渡辺義男を委嘱。
1. 同年11月 雇用促進事業団に於て体育館工事入札実施、鶴見建設落札、同月工事着手、48年5月末完成、落成式挙行。
1. 昭和47年12月 事業部活動を休止し、東京及び水戸営業所共に閉鎖、48年1月末迄残務整理のことに決定。
1. 昭和48年1月 日用品マーケット兼従業員クラブ及び塵埃処理場等共同施設に対する建設診断実施され、同年4月中小企業高度化資金貸付申請書を茨城県へ提出。
1. 昭和48年3月～7月 日用品マーケット兼従業員クラブの建屋を板東工業㈱、塵埃処理場は光商工㈱、冷暖房設備は幸田電機商事㈱と工事契約締結、夫々竣工日を9月末として工事着手。
1. 昭和48年3月 団地の面する県道拡幅工事の為、団地用地166.94㎡及び日用品マーケット敷地39.1㎡県に買収されることとなった。
1. 昭和48年5月 通常総会開催第11期決算、第12期予算承認、役員任期満了による改選の結果全員重任、昭和50年度に週休2日完全実施を目標に本年度より週休2日制（毎月第一土曜）採用を議決、7月から実施のこととした。
1. 昭和48年6月 室内体育館運動設備及び設備予算編成会議開催、体育館運営並に管理規定を制定利用計画、管理要領を検

討協議す。



1. 昭和48年10月 団地創立10周年行事を団地内にて行う。団地事務所前に築山を作り、正門より事務所前迄の処に植樹。
1. 昭和49年 5月 厚生施設として、テニスコートを一面建設。
1. 昭和49年 7月 1,650万円の増資を行い、出資総額8,180万円となる。
1. 昭和49年 8月 厚生施設として、日用品マーケットを開設し「だるまや」に委託経営せしめることにした。
1. 昭和50年 1月 創立10周年事業である、理事長の胸像が完成し団地事務所前に建立した。
1. 昭和50年 '1月 団地内企業は週休2日制を実施する。
1. 昭和50年 5月 通常総会開催、役員任期満了により改選の結果、全員重任と決定した。
1. 昭和50年11月 臨時総会に於て常務理事宇賀神金四郎氏死亡並に理事渡辺勝次郎氏辞任の申出に伴う後任補充の結果、宇賀神正氏及び渡辺義男氏が選任された。
1. 昭和51年 2月 柳橋住宅地の所有者名義を組合より組合員に移す。
1. 昭和51年 9月 組合員社長を対象とする長寿祝金制度を創設。
1. 昭和52年 1月 組合各種委員会の委員長

及び副委員長の変更を一部行い次のように委嘱した。

総務企画委員会

委員長 幸田理事長

副 村田 清

財務金融委員会

委員長 久保田常務理事

副 白川常務理事

業務委員会

委員長 白川常務理事

副 宇賀神理事

文化厚生委員会

委員長 渡辺理事

副 宮田理事

労務委員会

委員長 幸田秀男理事

副 白川節太郎

技術委員会

委員長 宇賀神理事

副 田原 博

施設運営委員会

委員長 中谷理事

副 北川理事

長期計画策定委員会

委員長 白川常務理事

副 久保田常務理事

1. 昭和52年 4月 1組合員に対する短期貸付金5百万円迄について専務理事の専決とした。
1. 昭和52年 5月 田原、大口両理事死亡に伴う後任理事として、村田清、幸田秀男両氏を理事に選任。
1. 昭和52年 5月 定款を一部変更し、新たに副理事長制を設け、白川、久保田両氏を副理事長に選任。
本措置に伴い常務理事制は廃止。
1. 昭和53年 1月 1組合員に対する季節資

金の貸出限度を2千万円より4千万円に引上。

1. 昭和53年5月 第16回総会にて役員の改選を行い、健康上の理由にて伊牟田繁専務理事が退任し、後任に藤沢右門が就任し、外全員重任。
1. 昭和53年7月 団地敷地の一部を三四物産株式会社に貸与しガソリンスタンドを開設。
1. 昭和53年10月 団地完成15周年記念式典並びに運動会を団地にて行う。



1. 昭和53年10月 久能住宅団地の所有名義を組合より組合員に移す。
1. 昭和54年3月 組合各種委員会の正副委員長を一部変更し、次のように委嘱した。

総務企画委員会

委員長 幸田理事長

副 渡辺理事

業務委員会

委員長 宇賀神理事

副 幸田理事

財務金融委員会

委員長 久保田副理事長

副 白川副理事長

文化厚生委員会

委員長 渡辺理事

副 藤岡康太郎

労務委員会

委員長 幸田理事

副 白川節太郎

技術委員会

委員長 白川節太郎

副 田原 博

施設運営委員会

委員長 大矢英男

副 中谷俊衛

1. 昭和54年4月 組合の経理組織を部門別独立採算制に変更。
1. 昭和54年4月 久能住宅団地内の組合所有私道を総和町へ寄附。
1. 昭和55年3月 組合より組合員日光工業株式会社が脱退し、出資持分、不動産の一切を組合員株式会社日幸電機製作所へ譲渡。
1. 昭和55年3月 組合員鷺宮ユニコントロール株式会社が脱退し、鷺宮ジョンソン・コントロールズ株式会社がその出資持分、不動産の譲渡を受け組合に加入した。
1. 昭和55年8月 1組合員に対する季節融資の貸出限度を4千万円より6千万円に割引手形の最高限度2億円を3億円に各々引上。
1. 昭和55年10月 組合の旅費の全面改正及び慶弔並に団体保険加入取扱規程の制定をした。

1. 昭和56年5月 第19回総会に於て役員改選を行い重任を辞退した樋口重蔵氏を除き全員重任。

1. 昭和56年5月 組合専従職員の停年男子55才、女子45才を一率に60才に延長する。

1. 昭和56年6月 久保田正副理事長逝去に伴う後任の副理事長として渡辺義男理事を選任。

1. 昭和56年5月 団地設立20周年誌編纂委員会が編成された。

委員長 宮田 優

委員 寺内庄一郎、白川 昇

藤沢右門、中村宣夫

1. 昭和56年6月 組合の給与規程を全面改正定。

1. 昭和56年7月 組合内各種委員会の内、下記委員会の正副委員長を変更する。

総務企画委員会

委員長 白川副理事長

副 渡辺副理事長

財務金融委員会

委員長 渡辺副理事長

副 白川副理事長

1. 昭和56年6月 組合の給与規程を全面改正定。

1. 昭和56年7月 組合の休職規程を制定。

1. 昭和56年7月 組合にて共同生産を行う函の取扱要項制定。

1. 昭和57年1月 団地創立20周年行事实行委員会が編成された。

委員長 渡辺義男

副 宇賀神正、幸田秀男

委員 宮田 優、大矢英男、藤

岡康太郎、村田光章、白

川節太郎、北川 真

1. 昭和57年2月 1組合員に対する単名資金の貸出最高限度は団地内所有土地㎡当

り2万円とし、之に所有土地の㎡数を掛けた数字とすることに改正。

1. 昭和57年5月 大矢武雄監事死亡に伴う後任監事として大矢英男氏を選任。

1. 昭和57年8月 1組合に対する商手割引枠の限度を1社最高3億円とあるのを1社最高5億円に改正。

1. 昭和57年10月 団地設立20周年記念式典並にカラオケ大会を団地にて行う。



組 合 概 況

1. 設 立 年 月 日 昭和37年 4 月 6 日
2. 所 在 地 東京事務局 東京都港区芝大門 2 丁目11番 1 号
〒105 電 話 03 434 1305
団 地 茨城県猿島郡総和町大字下大野字丸山2000番地
〒306-02 電 話 0280 92 1811
3. 出 資 金 8,180万円
4. 役 員 理 事 10名 監 事 2 名
理 事 長 幸田秀一, 副理事長 白川一郎
副理事長 渡辺義男, 専務理事 藤澤右門
5. 組 合 員 21社 (企業形態は全部, 株式会社)
業種別 配電盤製造業 11社
部品製造業 5 社
加工業者 5 社
6. 組合員生産販売高 290億円 (昭和56年度)
7. 組合員従業員 総 数 2,415名 (男子 1,807名 女子 608名)
団地勤務者 768名 (男子 557名 女子 211名)
8. 組合専従役職員 15名
9. 団 地 面 積 敷 地 面 積 146,847㎡ 共同施設敷地 16,602㎡
構 内 道 路 18,044㎡ 工 場 敷 地 112,200㎡
10. 工 場 建 家 面 積 26棟 17,420㎡
11. 共 同 施 設 面 積 組合事務所 (2 階建) 延698㎡
体 育 館 746㎡ 診 療 所 152㎡
自 動 車 車 庫 183㎡ 資材マーケット 307㎡
食 堂 691㎡ 守 衛 所 36㎡
野 球 場 6,600㎡ テニスコート 1,650㎡
プ ー ル 330㎡ 更 衣 室 165㎡
給 水 塔 66㎡ 塵 埃 処 理 場 99㎡
日用品マーケット 307㎡

配電盤について

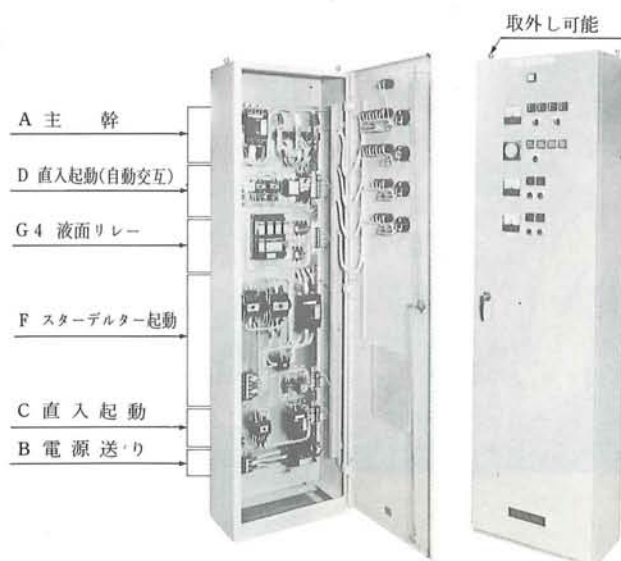
配電盤、分電盤、自動制御盤機器は発電機より生ずる電力を、需要に応じて送電、変電すると共に電圧の調整、遮断、開閉さらに保護とそれぞれを制御し、然も監視が瞬時に総括的、系統的、かつ安全に行なわなければなりません。人体にたとえれば、神経系統の中核、“頭脳”に似た機種ともいえます。

これら配電盤機種はすべて“受託生産”で一機種ごとに設計の異なるのが特徴であります。最近における“配電盤機種”はこれが持つ機能の外に建築美を構成する電気設備の一

環として、デザイン、色彩が極めて美化され、かつ小型化されて来ました。

これは配電盤機種の占有面積を縮小させ、かつ美観を求めるための要求であることは、特に最近のビル建築にみられる特徴であります。さらに時代の要求に伴い、高度技術を必要とするコントロールセンター、電子制御盤などの台頭によりその製品品種並びに生産技術は日進月歩の勢を示し、技術的にみて欧米諸国の水準に何ら遜色ないまで発展しております。

動力制御盤



ビル監視盤

配電盤の製造工程について

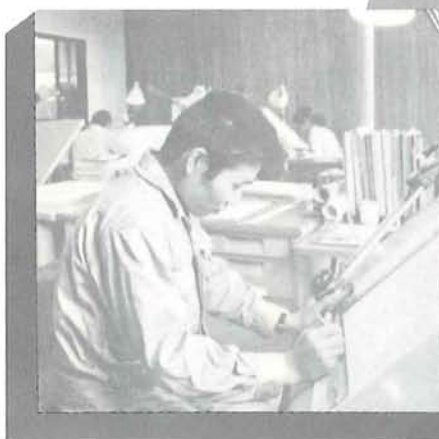
機 器

当団地は、配電盤製造並びに関連部品加工業者をもって結成されている工業団地で、この体制は集団化本来の目的であります集中生産方式を以って経費の節減、品質の統一化を推進し事実上のコストダウンを図るとともに、全企業の技術を以って優秀製品の生産に鋭意努力しております。又、主な作業内容は配電盤、分電盤、自動制御盤の配線組立。計器組立。継電器組立。変圧器、変流器組立。開閉器、ノーヒューズブレーカ組立。表示灯、端子台等電気部品組立。パーカーライジング加工、塗装仕上。配・分電盤用筐体板金加工、プレス加工、溶接等の作業。



生産

設 計



板 金 プ レ ス

板金・プレス

板金・プレス加工の設備は、配電盤の構造上近代的な高精度の機械設備によって、精密板金をモットーとしています。





機器

機器（計測器・継電器・ブレーカー・計器用変成器・表示灯等）の製品は熟練した作業員の手で一つ一つ又はベルトコンベアによって組立てられます。

工程の流れ

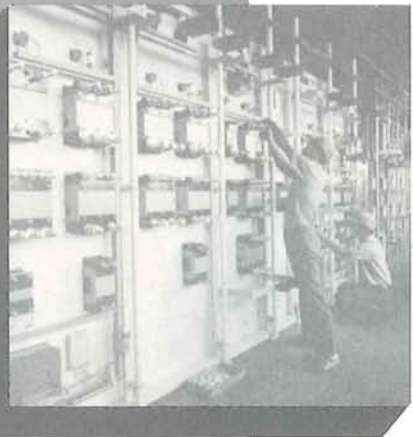
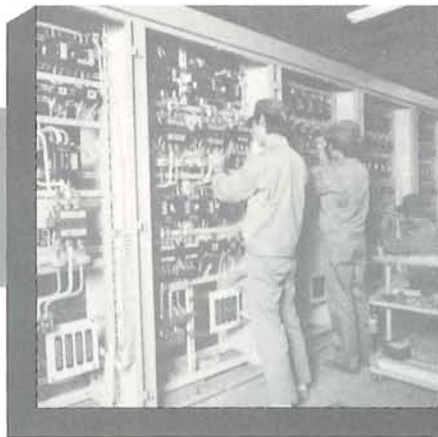
組立配線

組立・配線

最終工程である配電盤自動制御盤等の組立は、各機器の取付け配線組立を行ない試験し完全なる製品が生産されております。



完成品



塗装



塗装

パーカーライジング処理によって鋼材の表面に酸化被膜を施し、塗装後の永久防錆のための完全な処理設備をそなえております。

現役員紹介



理事長 幸田 秀一
ハイデン工業㈱社長
㈱幸田電機製作所会長



副理事長 白川 一郎
㈱白川電機製作所会長



副理事長 渡辺 義男
㈱渡辺製作所社長



専務理事 藤澤 右門
員 外



理 事 宮田 優
宮田電機㈱社長



理 事 古川 高光
㈱旭日電機製作所社長



理 事 北川 末二
三邦電機工業㈱社長



理 事 中谷 俊衛
㈱港工業所社長



理 事 宇賀神 正
宇賀神電機㈱社長



理 事 幸田 秀男
㈱幸田電機製作所社長



監 事 大條 駒雄
㈱日幸電機製作所社長



監 事 大矢 英男
大矢化学工業㈱社長

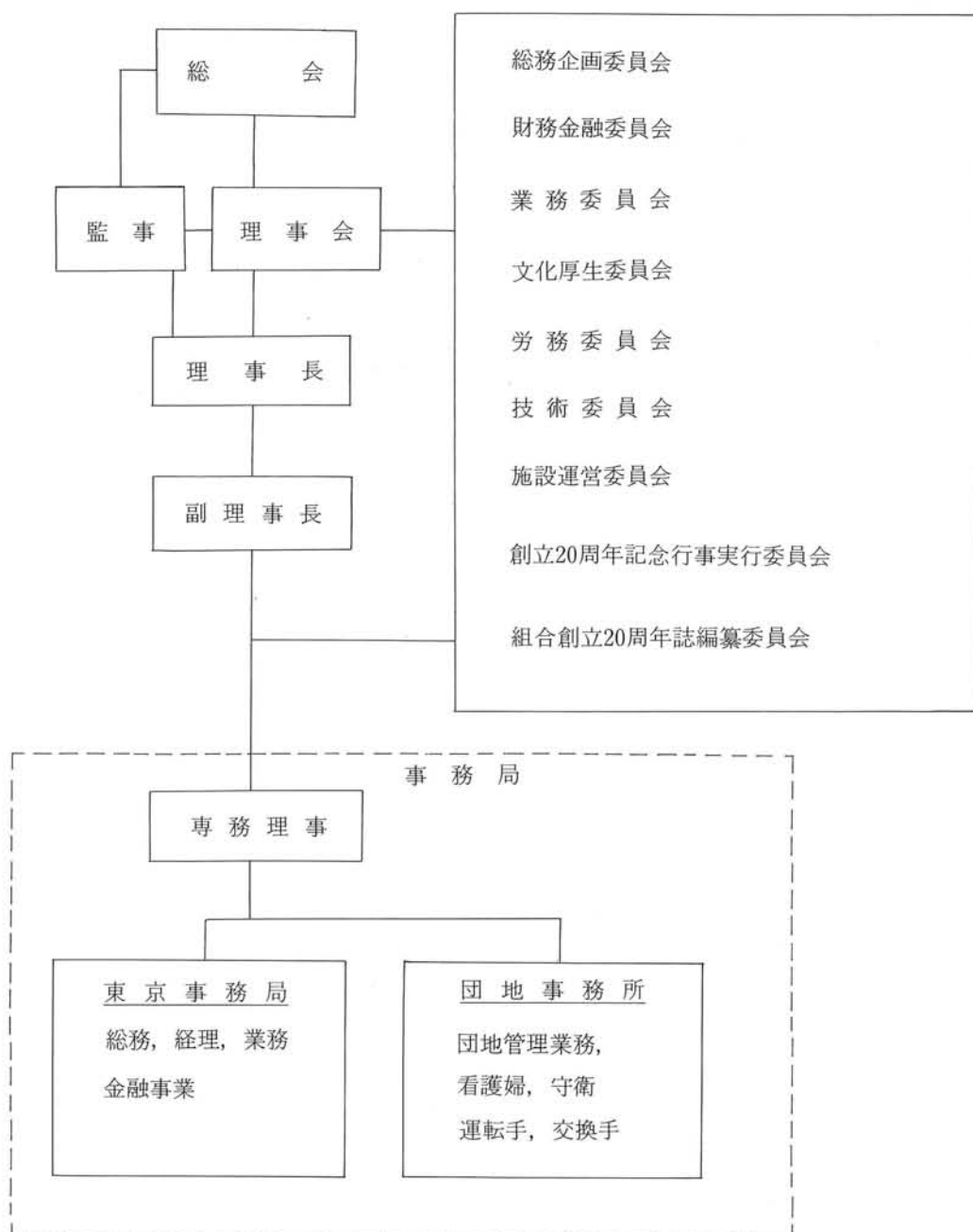
役 員 変 遷 表

昭和57年 9 月20日現在

幸 田 秀 一	理 事 長	昭和37年 4 月	現 在
白 川 一 郎	常 務 理 事 長	昭和37年 4 月 昭和52年 5 月	昭和52年 5 月 現 在
(故)久 保 田 正	理 事 長	昭和37年 5 月 昭和42年 5 月 昭和52年 5 月	昭和42年 5 月 昭和52年 5 月 昭和56年 5 月
渡 辺 義 男	副 理 事 長	昭和50年11月 昭和56年 6 月	昭和56年 6 月 現 在
伊 牟 田 繁	専 務 理 事	昭和39年11月	昭和53年 5 月
藤 澤 右 門	専 務 理 事	昭和53年 5 月	現 在
樋 口 重 蔵	常 務 理 事	昭和37年 4 月 昭和52年 5 月	昭和52年 5 月 昭和56年 5 月
(故)宇 賀 神 金 四 郎	常 務 理 事	昭和37年 4 月	昭和50年10月
(故)田 原 一 郎	理 事	昭和37年 4 月	昭和48年 4 月
武 藤 任	理 事	昭和37年 4 月	昭和42年 5 月
宮 田 優	理 事	昭和37年 4 月	現 在
(故)大 口 慶 次 郎	理 事	昭和37年 4 月	昭和52年 3 月
古 川 高 光	理 事	昭和40年 5 月	現 在
北 川 末 二	理 事	昭和42年 5 月	現 在
中 谷 俊 衛	監 理 事	昭和37年 5 月 昭和42年 5 月	昭和42年 5 月 現 在
宇 賀 神 正	理 事	昭和50年11月	現 在
幸 田 秀 男	理 事	昭和52年 5 月	現 在
村 田 清	理 事	昭和52年 5 月	昭和53年 5 月

渡	辺	勝次郎	監	事	昭和37年4月	昭和42年5月
遠	藤	てる	監	事	昭和37年4月	昭和37年11月
(故)大	矢	武雄	監	事	昭和42年5月	昭和57年3月
藤	岡	成吉	監	事	昭和42年5月	昭和43年5月
大	條	駒雄	監	事	昭和43年5月	現 在
大	矢	英男	監	事	昭和57年5月	現 在

組合の組織図



年度別組合事業費並に事業収入

(単位：千円)

年 度	組合事業費	共同受注高	食 堂 売 上	煙 草 売 上	運 動 施 設
37	1,777				
38	2,510				
39	4,391			342	
40	7,390		4,057	875	
41	8,130	505	11,439	834	
42	119,348	44,083	13,972		
43	80,401	34,840	15,378		
44	85,348	67,978	17,030		
45	88,835	36,630	19,926	928	
46	93,566	68,908	21,063	1,363	
47	87,041	63,298	11,386	1,567	
48	113,426		23,176	1,804	
49	168,681		22,492	1,978	
50	204,010		25,683	2,319	
51	215,133		26,682	2,674	
52	254,997	66,958	28,905	2,894	
53	259,767	48,857	25,359	2,881	
54	319,006	34,400	31,630	3,991	376
55	351,776	19,900	31,957	3,502	415
56	371,530	31,906	37,464	4,003	433

年 度	マイクロバス	塵埃焼却	体 育 館	水 道 料	地代家賃
54	2,208	212	488	3,140	5,623
55	3,582	454	674	8,021	11,559
56	3,237	1,342	590	8,449	12,447

年度別金融事業実績

(単位：百万円)

年 度	短期貸取扱高	商手割引取扱高	長期転貸取扱高	転 貸 金 残 高
39			268.1	260.2
40	62.0	46.4	155.9	387.0
41	67.5	14.9	15.0	389.3
42	82.7	112.1	7.0	427.5
43	105.2	189.6	26.4	521.5
44	124.6	179.3	86.9	467.8
45	135.3	314.3	24.8	515.2
46	132.7	248.3	61.1	565.3
47	149.7	101.0	42.0	846.5
48	381.4	272.1	219.0	846.3
49	599.6	989.9	41.0	1,040.0
50	395.0	894.2	492.5	1,388.2
51	1,071.7	612.4	525.0	1,707.6
52	706.0	1,216.3	171.0	1,875.8
53	1,142.0	1,500.2	55.0	1,864.5
54	995.5	1,807.6	25.0	1,673.6
55	734.1	2,496.3	120.0	1,937.7
56	1,057.8	2,357.5	343.5	2,020.8

組 合 員 年 度 別

年度別	配 電 盤 業	(11社)		部 品 メーカー	(5 社)	
	生 産 販 売 高	指 数	前年比%	生 産 販 売 高	指 数	前年比%
38	1,947,274	100		3,072,600	100	
39	2,516,343	129.2	129.2	3,933,489	128.0	128.0
40	2,270,330	116.6	90.3	3,646,391	118.7	92.7
41	2,190,267	112.5	96.5	4,194,130	136.5	115.1
42	2,770,654	142.3	126.5	5,029,492	163.7	120.0
43	3,164,098	162.5	114.2	6,748,794	219.6	134.2
44	3,655,179	187.7	115.6	8,087,698	263.2	119.9
45	4,121,945	211.7	112.8	8,570,596	278.9	106.0
46	4,130,441	212.1	100.2	8,400,198	273.4	98.1
47	4,229,149	217.2	102.4	9,896,875	322.1	117.8
48	5,453,280	280.0	128.9	13,493,440	439.1	136.3
49	7,101,945	364.7	130.2	14,371,475	467.7	106.5
50	5,547,348	284.9	78.1	11,112,834	361.7	77.3
51	5,442,348	279.5	98.1	12,251,232	398.7	110.2
52	6,041,700	310.3	111.0	12,699,288	413.3	103.7
53	7,321,817	376.0	121.1	13,800,890	449.2	108.6
54	8,031,939	412.5	109.6	15,854,048	515.9	114.8
55	9,017,437	463.0	112.2	18,492,448	601.9	116.6
56	8,887,012	456.4	98.5	18,281,130	601.8	98.8

生産販売高調べ

(単位：千円)

加工業	(4～5社)		合 計		
生産販売高	指 数	前年比%	生産販売高	指 数	前年比%
330,026	100		5,349,900	100	
369,944	112.1	112.1	6,819,776	127.5	127.5
325,638	98.7	88.1	6,242,359	116.7	91.5
361,902	109.7	111.2	6,746,299	126.1	108.1
474,200	143.7	131.1	8,274,346	156.6	124.2
611,036	185.2	128.9	10,523,928	196.7	125.6
714,708	216.6	117.0	12,457,585	232.9	118.4
835,110	253.0	116.9	13,527,651	252.9	108.6
737,250	223.4	88.3	13,267,892	248.0	98.1
848,935	257.2	115.1	14,974,959	279.9	112.9
1,291,396	391.3	152.1	20,238,116	378.3	135.2
1,345,828	407.8	104.2	22,819,243	426.5	112.7
968,270	293.4	71.9	17,628,425	329.5	77.3
1,200,468	363.8	123.8	18,894,048	353.2	107.2
1,344,532	404.4	111.2	20,075,520	375.0	106.3
1,539,110	466.3	114.5	22,661,817	423.6	112.8
1,796,286	544.3	116.7	25,682,273	480.0	113.3
1,813,993	549.4	100.9	29,323,878	548.1	114.1
1,879,873	559.6	103.6	29,048,015	543	99

福利厚生施設について

厚生施設は働くものの憩いの場でもあり体力の増強、ストレスの解消、お互いの心の交流をはかる場でもあります。施設は完備され、食堂、社員クラブ、プール、野球場、マーケット、診療所、庭球場、室内体育館等があります。



室内体育館



日用品マーケット



社員クラブ

室内体育館

バレー・バスケットの公認コートで従業員の体力向上親睦のため昼夜開放されております。

日用品マーケット・社員クラブ

久能住宅に食料品、日用雑貨のスーパーマーケット並びに憩いの場としての社員クラブがあります。

食堂

工場団地内に給食能力1,500食の共同大食堂があります。昼食は勿論、独身者のため朝・夕食も供給しています。

診療所

日赤病院より医師が毎週1～2回きて診療し、専属看護婦1名が常備し従業員および家族を対象として治療を行なっています。



大食堂



診療所

宿舍の概要

土地 久能住宅敷地面積 66,000㎡
柳橋住宅敷地面積 33,000㎡
建物 独身寮設備があります。鉄筋

コンクリート造。14棟1室6畳間、延べ195室あり各棟娯楽休養室、風呂、水洗便所等があります。世帯持

には1戸建世帯持住宅があります。6畳2間、台所、風呂、水洗便所付、木造106戸、鉄筋造10戸があります。



社宅群（家族寮）



社宅（独身寮）

表彰状

配電盤茨城団地協同組合

貴団体は共同福祉事業を
適正に運営し労働者の福祉
向上に寄与されました
よつてここに表彰します

昭和四十六年九月二十八日

労働大臣 原健三郎



表彰状

配電盤茨城団地協同組合殿

貴組合は強固な結束のもとに永年に
わたり他の模範として工場等集団化
事業を推進されもつて中小企業構造の
高度化に著しく貢献されました
よつてここに表彰します

昭和五十六年十一月二十七日

通商産業大臣 田中六助



組合関係国家褒章授章者名簿

幸 田 秀 一	勲四等瑞宝章 (42年)
	黄綬褒章 (40年)
	紺綬褒章 (37年)
宇 賀 神 金 四 郎(故)	従五位 (50年)
	勲四等瑞宝章 (48年)
	藍綬褒章 (42年)
村 田 清	勲三等瑞宝章 (55年)
	藍綬褒章 (49年)
	紫綬褒章 (37年)

組合関係機関よりの表彰者名簿

中小企業庁表彰	幸 田 秀 一 (44年度)
中小企業事業団理事長表彰	白 川 一 郎 (56年度)
全国工場団地協同組合連合会会長表彰	
中 谷 俊 衛 (46年度)	白 川 一 郎 (55年度)
伊牟田 繁 (51年度)	宮 田 優 (56年度)
古 川 高 光 (54年度)	
東京都中小企業団体中央会会長表彰	
樋 口 重 蔵 (49年度)	中 村 宣 夫 (50年度)
白 川 一 郎 (")	岩 瀬 清 (")
久保田 正 (50年度)	古 川 高 光 (51年度)
大 口 慶次郎 (")	渡 辺 勝次郎 (")
宮 田 優 (")	北 川 末 二 (54年度)
中 谷 俊 衛 (")	大 矢 武 雄 (55年度)
伊牟田 繁 (")	

社団法人日本電気協会会長表彰

幸 田 秀 一 (53年度)

全国中小企業団体総連合会会長表彰 全国中小企業団体中央会会長表彰

幸 田 秀 一 (41年度)

幸 田 秀 一 (54年度)

組合員物故者名簿

氏 名	会 社 名	逝 去 日
田 原 一 郎	(田 原 電 機 株 式 会 社)	昭林48年 4 月 3 日
宇 賀 神 金 四 郎	(宇 賀 神 電 機 株 式 会 社)	昭和50年10月11日
大 口 慶 次 郎	(蠶大口電気計器製作所)	昭和52年 3 月25日
羽 田 伝 一	(三 国 工 業 株 式 会 社)	昭和54年 7 月14日
久 保 田 正	(荏 原 電 機 株 式 会 社)	昭和55年 5 月18日
大 矢 武 男	(大 矢 化 学 工 業 株 式 会 社)	昭和57年 3 月25日

創立当時を顧りみて

出席者

県側	鹿島都市開発株式会社	常務取締役	郡司正	要
			(元茨城県商工労働部工業課長)	
	茨城県県南地方総合事務所	生活商工課長	大津	富
団地側	配電盤茨城団地協同組合	理事長	幸田	秀一
		副理事長	白川	一郎
		理事	宮田	優
司会	配電盤茨城団地協同組合	所長	中村	宣夫
場所	茨城県鹿島郡神栖町 鹿島セントラルビル会議室にて			

本日は郡司さんの御厚意により当セントラルビルの重役室をお借りし、団地創設時代の苦勞談、思い出話を座談して戴き度く、これを20年誌に掲載いたしたいと存じますので忌憚のない御意見を拝聴致したいと存じますので宣敷くお願い致します。

郡司 団地作りにはお互に苦勞しましたね、何んて言っても計画書作成には大津さん中村さんが大変だったね、それで計画書が出て集団化資金が決まってから担保を取る取らないで大変だったよ。

大津 担保の件では庁内で再三検討し、課長さんや郡司さん私等しょっちゅう軍司部長に呼ばれ討議していた。

たまたま萩原課長が来客で不在のときに部長より呼出しがあり大変だった。

大津 大事なことをやっているのに酒を飲んでるとは何ごとだ！ すぐ呼んでこいという訳で。

郡司 すぐ呼びに行った。

白川 酒を飲んでいるってどうして。

郡司 本省からお客様が来て接待していた、千波湖の上にある湖楽で一ばいやっていた。

大津 私と郡司さんは今の話の様に担保を取らなくとも資産内容はいいしと言ったらお前等は何人部長が首になったと思ってるんだ、今まで或るデパートのことなど辞表を書いたというような問題があって又汚職だなんだあって、お前等は後の担当者がかわいそうな状態になるから自覚しなければだめだ、ところで萩原課長どうしてるんだと目から火

が出る程おこられた。それで私も電話を廻して、その時は世田谷に住んでいた、おれが
変わるからと部長が話した。後、明日中小企業庁へ行って話してこようということになっ
た。

郡司 翌日中小企業庁長官のところへ行き、説明して茨城でそうやるんなら結構でしょう
と言われ、それ見ろいいですよと云ったではないかと帰り汽車の中でさんざんおこられ
た、お前は何をやっているんだいつもへまばかりやっている。俺が行けば全部片付くだ
ろうといわれた。

あの頃は担保はどこも取ってなかった、茨城丈が取っていた。

企業庁からもめずらしいといわれ、何んで茨城だけ担保を取った。そしたら軍司部長
はガンとしてきかない。

そのころ茨城県内では、設備近代化資金や集団化資金の外でやっていたから、みな担
保を取っていた。

団地の皆さん方は、ほんとうから言ふと優秀な企業かも知れないけれど東京から茨城
へ来ると事業内容がわからないんだ、わからない企業に最初から何千万円と金を出すん
だから担保を取るのは普通だ。どうだそれは国の方針かも知れないけれどだめだ、いっ
たいどうなんだとずいぶん県庁内でもやったわけですよ。

種々そういう国からの指示が来てるなら俺が行って話をつけるといって私が軍司部長
さんのカバンを持って行き、会ったところがまた茨城には茨城の方針があるでしょうか
ら結構でございます。それで担保を取ることにになった。

大津 早かったんですよ前日、幸田理事長と電話でやりあったんですが、その次の日に
郡司さん達が行ったんですよ。

たまたま向うに居たもんだからちょうど貸し出す時ですから38年の2月から3月頃で
したよ、3月15日の起案ですからね今でも残ってますよ。

郡司 あれは決定するまでは、ずいぶんごたごたやったんですよ、半年ぐらいやりました
ね。通産局へ行って聞いて見たり、企業庁へ行って聞いて見たりして軍司部長は全々行
かないんだ、俺が行って聞いて来れば、皆な取るな！取るなと言うしこっちへ来ればお
前は何をやってんだと言われたよ。

大津 国の方の言分もあったんですよ。あの時は対象設備の50%で全部ならして3分の
1位しか貸さない、50%の金は茨城の補助金にしてある、だから国の金じゃないか、も
ともとは県がこげついたって県は1銭も損はしないだろう全部財源は国からだから担保
が無くても県ではかんじないだろう、だからその方向でと国の方の言分もあったんでし

ょう。

郡司 その時金融機関、商工中金が同時に担保を入れたので、じゃ県もおりようということで金融機関から金が借りられないとすれば同時担保に入れようと、どちらも同順位1位にあったんですよ。

白川 結果的にはどうなったんですか。

大津 県の方が3番まで落ちたんです。

郡司 最初は取ったんだ、それが何んでかと言ったら、段々信用もついて東京から来た立派な企業だからと3番になった。

大津 それで返済もしてくるし、財産も土地坪千円位のが上昇して行ったし、担保能力があるからいいのではないかなった。

郡司 あれ千円で買ったんだからあの頃は高いんだ、ところがイツちゃん（白川副理事長）は二世のために買うんだからっていったんだよ、あれは俺のためじゃないんだよ二世のために買うんだから高くても買って置くよと言ってた、あの頃ちょっといい値だったよ。

理事長 それとね、うちの団地は特別だった。全部国の資金使った訳じゃない、貸付が3分の1じゃ土地などほとんど買えない、土地は全部自己資金なんだから。

大津 土地は対象外で土地は手当してあったから全事業費の3割位だったと思う。

理事長 それでこちらと、そういう担保の問題があって、それと同時に他の全国の団地もやっぱりそういう問題が出てきた。その話題が出まして結局最後は共同担保にした。商工中金と大阪府あたりは絶対お前等だけ担保を取らないというわけにはいかんという、今だにそういう補助が国から来たっていったん県に入れば県に責任がある、国から助成したって県だって助成しているんだから。

大津 今は65分の23は県の金で42が国です。

理事長 今はねそうになっているが、その時に我々が要求したのは、これじゃ建設がなかなか大変だから担保も出すから100%出してもらえないだろうかとお願ひして、そうだと云って段々って65%になったという訳だよ。

郡司 やっぱり単価の査定に上限があった、いくら高くてもここまでという限界があった。

大津 土地は坪いくらまで、建物はいくらまで等。

郡司 それ以上やるから実際は貸付額はずうっと少なくなってしまう総体的からいうと、自己調達も相当ある。

大津 それから38年度半年ぐらいしてから会計検査員が来まして斉藤班長の随行で局の緑

川さんが来まして会計検査員も請負が鹿島建設ですからまあよくやっていますねと云われたことをおぼえております。

白川 それと同時に段々東京の企業の実力もわかってきて又幸田理事長の政治的な力がわかって来たんだよ、それまで全々知らないから。

郡司 結局あの頃の工場の集団化はあまりやってないんだよ、第1号だから、それでね中小企業庁としてもモデルケースみたいなもので、だからそんな時に担保を取るとなるとみんな取らなくてはならなくなるから最初は企業庁も反撥したんですよ。

理事長 こちらからも担保を出しましょう。出すかわりに、掛っただけ企業側が負担が少なくするように又むりに県から頂かなくとも結構ですから国がだせと、それで我々は当初はね、県が担保とられた後、商工中金が二番担保になると協調融資は出ない少なくなる、それはこまるから金融機関を先づ重点的に考えて下さいと、そうでなかったらもう少し国はだして下さいということで両天秤にかけたんです。

郡司 それで段々県は折れて来たんですよ。

理事長 うん折れてきたよ。

大津 今はなくなっちゃったでしょう、まだ入ってるかね。

理事長 もうないよ、償還終わってるから全部終わってますよ、15年だもの。

郡司 6年じゃなかったかね。

白川 償還が段々延びたもの、最初は短かったもの。

理事長 だって最初はね、1年据置3年で返せ、3年で団地建設しろって云う、借金して返済するのかって、文句云って6年にしそれから8年、13年、最後に15年返済になった、だから今団地を作る人はいいですよ、この間、起工式をやった春日部の団地などは先行取得をやり、取得している土地の地価が上がるから、国では先に土地だけを契約したら土地代だけは先行投資して下さいと、それはとおったよ。

大津 今はね工場団地てのは少なくなりましたね。土地が高いから、総投資額の60~70%が土地代ですよ。

理事長 今中小企業は何万て金だして土地買ってやったんでは、この業界からの状態からいったら駄目ですよ。

郡司 だけどあの頃で、総和の山の中で千円とは高いんじゃないかという話もあったんだよ。

白川 後で聞いたんですが、あの当時の少し昔、とにかく1升付けるからもらってくれと言ったんだってさ、そんなの聞いちゃって、やまかけられたかと思ったよ。

大津 その後私が鹿島へ転勤になり、38年11月に鹿島へ来たところ何もなくて、みわたす限り松林で、坪当り70円、反当り2万円です。それを15倍で70円の土地を1,000円で買収したんですから十何倍で、土地は砂原ですが、39年の2、3、4月の3ヶ月で220万坪買いましたよ。

郡司 あの頃団地のそばにマルト化成の工場しかなかったし、土地買収の問題になった入口近くの一軒家は怎么样了かね。

理事長 家は買えないでフェンスの外に一軒建っています。

宮田 団地入口のところがせまく後から買収し現在の道路の広さになっている。

所長 それは問題の一軒家があって、団地北側の土地と団地入口西側の土地と交換して現在の入口道路を広くしたのです。

理事長 土地買収問題では宮田君はよくやってくれました。

郡司 又、あの時は総和村の高橋村長がよくやってくれたし、つい最近まで助役をしていた亀田さんもよくやってくれた。

大津 その頃の助役が宇都木さんでしたね。

郡司 あの時総和村で誘致条件が作ってあって適用されたのではなかったかね。

所長 うちの団地は、国と県の指導による3年計画で造成建設しなくてはならないので、村の条例では1年以内に全部建設しなければだめだということで適用にならなかったのです。

理事長 だって国の制度が3年で建設しろということになっていたのです。

郡司 あれは適用にならなかったのか、それから排水路なんかはどうだったんだっけ。

所長 あれは郡司さんにお骨折り頂いて排水路を付けてもらうことになりましたが、あの頃役場が首都圏整備の指定地域であることがよくわからずにいたのです。

郡司 どこえ排水をやるのか決まらないうちにはできないとのことで、だけどこれだけの団地ができていのに水も流せなければ困ると思って役場へ交渉して現在の水路を作らせたのだよね、排水問題が一番よく覚えているんだよ、役場に作らせたから。

所長 それで強引に町に補助をつけてもらったんです。

郡司 だけど役場もほんとに協力してくれたよ、その頃我々は総和へ行けば帰りは遅くほとんど最終列車だから、小山から水戸線でトコトコくるんだから茨城県庁へ来るよりは栃木県庁の方が近いんだよ、古河の場合は、そんな所だよ。

で又県の行政面としてはやっぱり鬼怒川を越えた向うはあんまりなく鬼怒川の手前にしか主力を置かなかった。

大津 あの頃はチベットだったから。

郡司 古河ってのは離島のように行政がないもんで岩上知事さんのとき、そういう問題がでた、こういうものを造り始まったので積極的に考えようかっていう時に、軍司部長がでてきて、それもこれも駄目だもう何もかも駄目だから信用おけないから、信用のおける政策でやれという命令だから、これはいやおうなしだよ、親方の命令だからね。

白川 私が東京の商工会議所へ行った時、総和村の話がでたということは県から商工会議所の方へ話を出しておいたのかしら。

郡司 通産適地がずうっとあったのでその時古河の商工会議所の鶴見氏が窓口で受けてくれたのだよ。

白川 その人が東京の商工会議所へリストを出してくれてそこへ僕達が行ったのかな。

郡司 あの頃指導員だったが今専務理事をやっています。非常に優秀な熱心な男でようやってくれた。僕もずいぶん彼がいてくれたので助かった。

白川 あの時三和が約450円で総和が約750円とで言っていたので高橋村長に話してあんまり高いことを言うなら三和に行くか、そうしたら三和はまだ大分奥だからここにしないよと言われたことがある。

理事長 今の北利根のところも案内してくれて大きな原野があつてね。

郡司 あの頃配電盤ができたので総和が工業団地になったのだよね。

大津 配電盤団地が起爆剤になったんですね。

郡司 高橋村長がここ配電盤を起点にすると言ってたがほんとにまわりにできたからえらいよ。

白川 始めの発想は国の助成に乗せることは知らず、理事長が茨城県の総和村、三和村で工場誘地をしているという話を持って来たので、始めはあの近辺の土地を買ってだんだん地価も高くなるから半分位売って工場を建てれば建築費ぐらい出るのではないかと考えていたところその内理事長はそのことを知っているのでこの制度に乗せようと話が変ったのです。

大津 団地の住宅地あれはたいした財産でしょう。

理事長 住宅地もあの廻りに村会議員をやっていた人達が不動産業をして建売り住宅を作っているんだろう、ほんとうに頭が痛いんですよ、団地でも二社程売ってしまったよね。

郡司 今はもう代も変って前の人達は東京から来たとは言え、ゆうもあに富んだ、なごやかな形で行ったからよ。

大津 今は亡くなった方は誰々ですか。

所長 田原さん、宇賀神さん、大口さん、羽田さん、久保田さん、大矢さんの6人です。

郡司 昔東京の各工場を見に行っただけど皆な特徴があったよね。

所長 郡司さんと大津さんは企業診断でいっしに全企業見て廻りました。

郡司 軍司部長が廻るときはできるだけ大きなところを見せて廻った。俺も係長になって配電盤は最初だった。

理事長 集団化ができてその年ですからね。

郡司 国だって36年にできて新しいんだからわからないよ。

理事長 この制度の窓口が企業庁ちゃだめだと41年に田中さんの地盤の新潟の柏崎の団地の理事長と3回ぐらい目白の田中大蔵大臣のところへ行き事業団でも公社でもいいから中小企業近代化の育成のために専門の役所を作ってほしいと陳情した。最初はおこられたよ、佐藤総理のとき、公社公団の新設はまかりならぬと出たときで、そんなこと云われたってこうゆうことを国会で言ってること知ってるだろうとおどかされて、これはもう駄目かなと思った、そしたら関矢理事長が幸田さん大丈夫、陳情書に赤鉛筆でサインしたの秘書が持って行ったから。

大津 団地の農地が転用許可をもらうのにがたがたしたよね、農林大臣許可なので。

理事長 それで九段下の農政局へおわびにビールを持って行ったらどなられて持って帰って来たよ。

宮田 役所でしょっちゅうおこられるからビールを持って行ってお世辞使おうと小倉さんと中村所長と3人で暑いですからと持って行くと、なにビールこんなビール飲めるか!とどなられた。持って帰るわけには行かないので置いては来たけれど農転許可がおりてないのに造成したんだからお前んとこ通産省の許可があれば農転できるんだらう通産省へ行って許可もらって来い、いやまいった。

所長 最後に始末書取られました。

白川 やった時は知らなかったの。

所長 あれは農転の申請を出して1年半掛ってるので一方助成金は造成工事を行わないと出さぬと県から言われ、鹿島と内緒でやりました。そうしないといつまでも基礎工事何もできないからと、そしたら農林省が総和の方に視察か何かで来た時に現地を見て行ってるんですよ。

大津 又抵当権設定等で中村さんと一緒に古河の法務局へ2～3回行った。何か書類に不備があり帰って来て又行かなければならないと云ったら、郡司さんにこっぴどくおこられて、いい年して何返行ったり来たりしてんだ、しょうがなくて私は休暇をもらって自

腹切って行った、帰って来て大変だったろう、今度はうまく行ったかと言って出張命令を書いてくれた、そういう上役がいまして私もおっちょこちょいですが義理人情はわきまえてますからほろっとしますよ。

理事長 県もよくやってくれたよな。今あんなに腹をくくってやってくれる役人が少なくなっただけな気がする。

司会 まだ種々語り足りない事があるかもしれませんがここで一旦終らせていただき又別席でゆっくりお話を伺いたと思います、ありがとうございました。

組合設立前後の経緯

宮 田 優

昭和36年（胎動）

2年前より続いた岩戸景気もかげりを見せ始め、大阪釜ヶ崎では2,000人の群衆が暴動を起したり、第2室戸台風で死者行方不明者189名も出た等、いささか暗いニュースが多い年であった。

だが吾々の業界は39年に行われる東京オリンピック用施設の建設が始まり、さほど苦しさは感ぜられなかった。

当時吾々配電盤業界で作業工程上一番のネックになっていた板金工場を共同で作ったと言う考えが住宅配電盤協同組合の理事者の間に持上り、白川理事長（現白川電機会長）小倉事務局長等の発案で相模原地区の視察が行われたが交通不便な所でも坪単価3万円もするので見合せた。（参考。当時の大卒初任給1万5千円位であった。）

又その当時東京配電盤機器工業会の幸田会長（現幸田電機会長）が富士電機製造（株）川崎工場下請協同組合の理事長もしておられ、川崎工場の一部を千葉県五井埋立地へ移設することが決り、用地取得がなされた。それで下請工場にも共に移設する様すゝめられたが、幸田理事長は下請工場用地を、富士電機の取得した用地を無償貸与をする様要請したが拒否された。

幸田東配工会長の考えと白川住配理事長の考え方がドッキングし、それなら都外へ割安の適地を見つけようと云う事で意見が一致した。それで探しあてた適地が現在地であった。だが参加者の中には既にその当時から芽生えていた土地投機の考えがあり、余計に買って4、5年経って土地値上り益で半分を売り残り半分へ工場を建てる事を主張する人々もいた。

その当時政府及び各政党の間に中小企業基本法制定の機運があり、又中小企業にも高度成長の足なみにあわせて経営規模の拡大を計る必要があった。それに符節を合わせる様に中小企業振興資金助成制度が発足し、狭隘な市街地から郊外へ集団移転し、中小企業集団化の助成対象に指定された10組合がある。

幸田会長はこれに着目した。そして又長女の嫁ぎ先が当時通産省石炭局長をしておられた中川理一郎氏であり、何かと助言を戴き乍ら団地協組の組織化を進められた。

又その推進助手の1人として東配工事務局長小倉敏秀氏があり、その軽妙な交渉と熱心な行動があった。

6月27日 樋口製作社長、白川電機社長、小倉東配工事務局長が東京商工会議所へ伺候、工場適地の相談の結果茨城県総和村と三和村が工場誘致をしている旨聴取し幸田会長に報告

7月4日 幸田、樋口、白川、小倉の4氏が同行現地調査に赴く。先づ近い総和村役場で高橋欣一郎村長に会い候補地3ヶ所提示され、先づ現在の下大野原山地区を案内され平地林なので大変気に入る、単価をきくと1段歩(300坪)23万~24万位ときかされた。(坪当たり700円~800円位)。

7月31日 東配工会員にその旨文書をもって知らせ、現地見学希望者を募る。

8月12日 希望者現地見学

参加者 幸田電機、樋口製作、白川電機、杉生電機、宇賀神電機、旭日電機、田原電機、東京大田電機、渡辺製作所、宮田電機、三邦電機、大石電機、岩崎電機工業、ニチコン販売、港板金、アカツキ電機、土井電機

集合場所 上野駅

時 間 上野発9時21分小山行

交通費各自負担、古河駅よりハイヤー(当時東京~古河間170円。41年迄つく)

8月14日 希望者に希望坪数に関係なく一社当たり100万円の手付金を集める。メ切8月17日。

8月18日午後6時 レストランゴルファー。土地契約について緊急会議を開く、会費500円。この席上で土地価格一段当たり28万~29万(坪930円~970円位)を提示された旨知らされる。工場団地委員会を結成

8月19日 総和村と土地買収について調印(下大野字原山約4万4千坪)幸田、樋口、白川、小倉

8月21日 工場団地建設について通産省中小企業庁へ赴き、中小企業の地方進出に際しての助成等につき役所の意向を伺いに行く。幸田、樋口、白川、宇賀神、小倉

8月25日 総和村商工課及び開発公社係員立会いの下に第一回内金を支払う。樋口、宇賀神、白川、小倉

9月26日 東配工事務所で見取図作成について打合せ。白川、小倉、設計者

9月26日午後5時レストランゴルファー工場団地協同組合結成の素案の審議

出席者 幸田電機、白川電機、樋口製作、宇賀神電機、田原電機、旭日電機、遠藤電機、渡辺製作、宮田電機、東富電機、三邦電機、大石電機、土井電機

10月9日 総和村役場にて第二回内金支払い。幸田、白川、小倉

10月26日 首都圏整備局へ伺候。工場疎開についての助成等について、茨城県商工課長来訪国鉄会議室にて面談幸田、白川、小倉

11月1日 茨城県庁へ伺候。団地協組を作り中小企業への助成等につき意見を伺う。幸田、白川、小倉

11月6日 東配工事務所にて団地建設費の算出を行う。幸田、樋口、白川、小倉、設計者

11月9日 団地建設予算3億8270万を持って県庁伺候。助成金予算への繰入をお願いする。樋口、白川、小倉

11月17日 茨城県庁より助成金申請した旨来信。

11月20日 団地委員会レストランマリコン。助成金申請の報告。協組結成について協議参加者 幸田電機、白川電機、樋口製作、宇賀神電機、田原電機、旭日電機、遠藤電機、渡辺製作、宮田電機、東富電機、東京大田電機、平井電機、佐藤電機、大口電機、キムラ電機、港工業、神奈川大理石、光商工、呼びかけて欠席した人。三邦電機、大石電機、三ヶ尻工業、深沢製作、港板金、岩崎電機工業

11月下旬より12月中旬

団地建設の素案をまとめる。小倉、中村

- (1) 土地茨城県猿島郡総和村下大野
- (2) 面積 42.294坪単価1,000円全面積の4割払込済み。
- (3) 資金 土地各社自己負担、工場建物従業員宿舍、共同施設は助成金、商工中金、市中銀行借入及び自己負担とす。
- (4) 団地協組結成、助成金を対象とするため団地協組法による協組を結成する。組合員20社以上、配電盤とその関連業者。
- (5) 土地の分割、申込をA、B、Cの三種とし、(A)2,000坪(2,600坪)(B)1,000坪(1,300坪)(C)500坪(650坪)とし()内の坪数との差を組合公共用地として據出する。
- (6) 着工及び完成、昭和37、38、39年の3ヶ年計画とす。
- (7) 助成金、中小企業振興資金助成法による。附記この頃の基本計画では工場敷地の外端に従業員宿舍及び管理人宿舍を併設する案で企画された。

12月25日 郵政会館

但しこの席上平井電機、佐藤電機両社より不参加の表明あり、下記の案を討議。

設置施設の内容並びに所要資金額（概算）

— 45 —

	土 地	作 業 所	従業員宿舎	管理人宿舎	共 同 施 設	厚生施設	計
A合計	2,600,000	13,000,000	4,900,000	2,400,000	6,332,000	2,153,500	31,385,500
B合計	1,300,000	6,800,000	2,800,000	1,600,000	6,332,000	2,153,500	20,985,500
C合計	650,000	5,200,000	2,100,000	1,200,000	6,332,000	2,153,500	17,635,500

工場施設設置計画

主たる施設名	面 積	建 築 費	設 置 年 月 日
工場、倉庫、事務所 (車庫を含む)	(A) 230坪 (B) 170〃 (C) 100〃	坪当り 55,000円	昭和37年〇月〇日
従業員宿舎	(A) 70〃 (B) 40〃 (C) 30〃	60,000円	〃 〃 〃 〃
管理人宿舎	(A) 30〃 (B) 20〃 (C) 15〃	80,000円	〃 〃 〃 〃

昭和37年（誕生）

この年は南極昭和基地の閉鎖，常磐線三河島駅の三重衝突等あり，経済も綿紡，鉄，紙，パルプ等の操短，生産調整も強まり暗い年であった。唯吾々業界は2年後の東京オリンピック用諸施設，ホテル，等の新增設で活気が漲っていた。

そして待望の配電盤団地協同組合の誕生の年である。だが最大の難関につきあたる年でもある。下大野地区42,294坪の農地転換問題である。

最初通産省が助成して下さったのだからと，簡単に農転可能と信じ，中小企業庁東京通産局の立地課へ伺候し，工場用地の指定を受けるべく努力したが，42,000余坪のうち大半の山林部分は可能でも11,000余坪の水田，及び畑が農林省関東農政局を通じ農林大臣の許可を要する事が判明する迄2年かかるからである。

それが判明する迄通産局首都圏整備委員会，農林省農地局，県農地部等のお百度参りをして，尚かつ前進の曙光が見えない今年であった。ここには記載しないがその為の会合及びお役所参りは20数回にも及ぶのである。

1月2日～4日 県へ提出書類自宅作成。小倉，中村

1月5日 上記書類を持って県庁伺候。中村

1月9日 県軍司部長外2名上京参加工場視察。幸田電機，宇賀神電機，東京大田電機。

- 1月10日 上記に同じ両日共中村案内。白川電機、樋口製作
- 1月12日 東京通産局訪問団地建設について助成の件懇談。幸田，白川，小倉。
- 1月19日 県庁軍司部長外2名上京通産局へ申請書提出，小倉，中村同行。
- 1月24日 東京通産局訪問。幸田，小倉
- 2月1日 通産局再訪問局長に面会団地支援懇請。幸田，樋口，小倉。
- 2月2日 団地航空測量，セナス機にて，中村。
- 2月5日 県庁へ県知事訪問団地建設に対し支援を懇請。塚田県議同席。幸田，白川，樋口，宇賀神，小倉。
- 2月13日 県庁へ申請書持参，協組結成の件説明。中村。
- 2月14日 東京通産局訪問協組結成について打合せ。小倉，中村。
- 2月15日 レストランマリコン。

配電盤茨城団地協同組合創立総会。

同意出席者

㈱幸田電機製作所	幸 田 秀 一
㈱樋口製作所	樋 口 重 蔵
㈱白川電機製作所	白 川 一 郎
宇賀神電機株式会社	宇賀神 金四郎
㈱田原電機製作所	田 原 一 郎
宮田電機株式会社	宮 田 優
遠藤電機株式会社	遠 藤 て る(代鳥羽)
㈱渡辺製作所	渡 辺 勝次郎
東京大田電機株式会社	武 藤 任(代北見)
荏原電機工業株式会社	久保田 正
㈱旭日電機製作所	古 川 高 光
㈱大石電機製作所	大 石 松 雄
三邦電機工業株式会社	北 川 末 治(欠)
内山電機工業株式会社	内 山 良 子
㈱大口電気計器製作所	大 口 慶次郎
㈱港工業所	中 谷 俊 衛
三ヶ尻工業株式会社	三ヶ尻 隆 治
キムラ電機株式会社	藤 岡 雄 吾

神奈川大理石工業株式会社 重 原 光 貴

光商工株式会社 村 田 清

㈱富士製作所 小 杉 長太郎

以上21名但し内山電機工業㈱より一時保留の旨申出あり。互選で理事監事を選出，又選出された理事の協議で下記の如く決定。

理 事 長 幸 田 秀 一

常任理事 宇賀神 金四郎

〃 樋 口 重 蔵

〃 白 川 一 郎

理 事 田 原 一 郎

〃 宮 田 優

〃 武 藤 任

〃 久保田 正

〃 大 口 慶次郎

監 事 遠 藤 て る

〃 渡 辺 勝次郎

〃 中 谷 俊 衛

出 資 金 540万円

以上を決定し協同組合結成を登記申請することを承認。

2月17日 集団化実施計画書県へ提出。

2月21日 県郡司係長来所計画訂正打合せ。

2月24、25日 県大津主事来所計画訂正の件で1泊指導して下さる。

2月27日 総和村役場土地代金残額支払完了。幸田、白川、小倉、中村。

2月28日 組合設立認可申請。

3月1日 県へ計画書再提出。

3月2日 通産局計画書打合せ及組合認可申請書提出。

3月4日 県黒沢課長外3名来所書類審査下打合せ。

3月5日 中小企業庁会議室にてヒヤリング及び企業庁通産局県庁との打合せ。

3月6日 茨城県知事岩上二郎殿より東京配電盤機器工業会長幸田秀一宛33秘収第139号の文書を以って下記の如き通達あり。

配電盤茨城団地の建設援助方について。

あなたから陳情がありました上のことについて下記の通り回答いたします。

記

配電盤団地につきましては中小企業振興資金助成法に基づく補助対象団地となるための申請を行うとともに貸付金の予算化を講じてあり県としてはこれから完成のため全面的に支援したいと思います。

3月9日 県庁伺候通産局皆川、緑川両係官と同行県庁担当官と三者打合せ。小倉、中村。

3月12日 計画書作成に通産局緑川氏の指導を受ける。企業庁中条氏、通産局皆川氏も来所、打合せ。

3月19日 団地視察会。全員参加、村役場伺候。東京駅降車口集合、出発9時15分東京駅～千住～日光街道～古河～団地、会費貸切バス代及弁当代共1人500円1社2名程度。

3月26日 組合設立認可さる。

4月2日 組合設立の登記申請。

4月6日 登記認可。

4月7日 県庁伺候産労住宅の件相談、小倉。

4月12日 住宅金融公庫伺候産労住宅の件で配置図打合せ。小倉、中村。

4月25日 通産局伺候組合成立届提出。皆川、緑川両係官と同行農政局訪問。中村。

5月4日 県黒沢課長来所農転の件につき企業庁訪問打合せ。

6月7日 農転事前審査申出書提出。

6月8日午後1時虎ノ門電気ビル。

第一回団地協組協議会

出席者 幸田電機、樋口製作、白川電機、宇賀神電機、田原電機、宮田電機、遠藤電機、渡辺製作、東京大田、荏原電機工業、旭日電機、三邦電機、大矢化学工業、大口電気計器、港工業、キムラ電機、神奈川大理石、光商工、富士製作、欠席 大石電機、三ヶ尻工業。

議題 (1) 創立総会後の経過報告。

(2) 従来工場団地内に従業員宿舎を設ける予定であったが産労住宅及び県の指導で工場団地外に専用宿舎用地を取得の必要に迫られた。

(3) 東京通産局管内団地協議会結成について、又事務局を東配工内に置く。

(4) 団地建設について各社の役割分担

企画金融委員会 委員長 幸田。

委員 樋口, 宇賀神, 白川, 大口

造成委員会 委員長 田原

委員 渡辺, 武藤, 大石, 大矢, 重原

建設委員会 委員長 久保田

委員 古川, 北川, 中谷, 三ヶ尻, 村田, 小杉

従業員土地委員会 委員長 宮田

委員 鳥羽(遠藤電機) 藤岡

6月23日 ラジオ放送録音を白川電機にて行う。幸田, 白川。

6月26日 ニッポン放送にて録音。小倉。

7月2日 県庁伺候県知事と面会。今日付にて補助対象団地に指定された旨正式文書受領。幸田, 樋口, 白川, 小倉。

7月20日 山下寿郎設計事務所訪問配置計画につき相談。幸田, 樋口, 白川, 小倉。

7月30日 山下設計江川, 五十嵐両氏を案内村役場訪問と現地調査。中村。

8月6日 県鈴木農地課長と農政局伺候。中村。

9月11日 山下設計訪問設計打合せ。幸田, 樋口, 白川, 久保田, 田原, 小倉。

9月20日午後1時半虎ノ門電気ビル。

第二回協議会

欠席 大石電機, 神奈川大理石, 富士製作, 遠藤電機。他は出席。

第一回以降の状況報告及山下設計との団地配置計画と工事概算。

共同受電について。特高か6Kvか?

各社の暖房設備

厨房及び共同浴場

共同給水及び消火栓

ガス供給について

便所と浄化槽

排水設備(メッキ工場は吸込式とする)

塗装工場の換気除塵について

10月23日 建設業者への現地説明, 山下設計, 江川, 五十嵐両氏, 組合 中村。

業者 清水建設, 鹿島建設, 大林組。

10月26日 県庁伺候企業庁, 県庁組合との合同打合せ。企業庁斉藤, 高井両係長, 県庁

萩原商工指導課長，郡司係長，大津主事，振興課，開発課，組合中村，水戸泊。

10月27日 上記の方々を現地案内。

11月7日 山下設計にて三業者入札を行う。

11月12日 虎ノ門電気ビル。役員会。入札結果を一覧表に作成して山下設計より説明あり。県内及び現地附近の施行量を参考に三社を選定し入札結果鹿島が適当と認め推薦した旨発言あり全員了承。

11月14日 発明会館。第三回協議会。

欠席 富士製作。神奈川大理石脱会の申入，上記の経過説明後鹿島に落札した旨報告，この間宇賀神社長より三社ではおかしい大手五社とし大成，竹中を加えるべきである旨発言あり。山下設計より既に入札済みであり重役会議を開き附近に現場を多く持っている為経費仮設費等の軽減を考慮したので山下設計の権威上その様なことは芳しくないとの理由で却下された。全員了承。

農転については37年6月7日事前審査を提出したが企業庁，通産局，県庁間の連絡不十分のため当団地が首都圏整備による工業開発地域の指定に洩れその為関東農政局，県農地課，開発部，首都圏整備委員会，企業庁，通産局等の各部署を4ヶ月に亘り歴訪陳情し9月末を以て37年度補正地域に繰入れ11月中に準工業地域に補足指定される見通しとなった。

神奈川大理石脱会の件は代替社を探すことで了承。

11月22日 第四回協議会レストランゴルファー。欠席 宇賀神電機，田原電機，遠藤電機，神奈川大理石。

(1) 鹿島との値引交渉の結果報告全員了承。

(2) 団地正門が現況では車の出入に差しつかえるので地主福島政満氏と交渉約200坪を単価2,000円で契約した旨報告全員了承。宮田，中村。

(3) 金融委より商工中金，中小公庫よりの借入について報告。

(4) 工場診断について。

(5) 団地地鎮祭を12月10日頃行う。

(6) 神奈川大理石，遠藤電機より正式に脱会の申出ありその処置について。

(7) その他。

企業診断 茨城県庁は助成金貸し出しに当り企業別に現況を把握し計画の妥当性と団地経営のあり方を検討し，団地造成を支援指導するため各企業への立入り検査を行う。

特別診断員 公認会計士 市吉庸浩

〃 技術士 平田元哉

〃 会計士 田村敬之

一般診断員 県商工指導課

工政係長 郡司正要

県商工振興課

組合団体係長 来栖平造

県中小企業指導所

工業課長 大串健之介

調査部 班長 郡司正要

班員 県庁内前記各課係官

診断班第一班集団化企業の特質と問題点（技術関係及レイアウト）

平田元哉

第二班集団化計画の妥当性（総括）

市吉庸浩

第三班団地経営のあり方（企画金融）

田村敬之

予備調査 10月上旬～下旬

現地診断各企業現場診断（6企業）11月下旬個別診断4企業

組合診断 12月下旬

現地〃〃 12月中旬

診断勧告会38年3月下旬

12月1日 鹿島建設と初年度工事契約完了。

12月13日 地鎮祭。

県庁より岩上二郎知事、担当課長係官の出席あり盛大に挙行された。

ブルドーザーで荒削りした土地に盛土の山を作り県知事、幸田理事長、山下設計、鹿島建設の方々の鍬入れを行ひ式後直会には岩上知事よりお祝いの詩吟を頂戴した。村役場地主、附近住民の参列もあり特にこの地方へ県知事の来訪は始めてとの事で村民に多大な感銘を与えた。

12月21日 レストラン立山第5回協議会。

欠席 遠藤電機、大石電機、神奈川大理石。

(1) 神奈川大理石遠藤電機の脱会後の処置（大石電機も脱会の申出あり）

補充参加者、東京特殊工業（板金プレス）㈱日幸電機製作所（NFB）日光工業
㈱（メッキ）

補欠 石井板金

- (2) 工場土地区割 くじ引とする。
- (3) 電話 現在申込待時通話なるも来春より準即時になる予定。
組合として10本申込
団地協組仮設 総和176番
- (6) 積立金制度 返済資金として38年1月より毎月積立てる。
A棟10万円、B棟5万円、C棟3万円
- (5) 電力 建設委へ一任
- (6) 従業員採用、組合として中卒50名申込む、その方法は企画委へ一任
- (7) 組合診断について検討

昭和38年

いよいよ東京オリンピックが来年に迫り建設関連の吾々業界にとっては多忙の一語につきる年であった。団地建設も農転のすすまぬまま進行し工場建家は10月末には完成しいよいよ稼動を待つのみとなった。工場用地の田畑1万1千余坪の農転は難行し関東農政局では「君達は通産省に許可してもらったらいだろう」と皮肉られる始末であった。それも少しづつ前進し6月に正式書類が受付られ8月に許可された。久能住宅地のうち田畑合計4,800余坪は田原、樋口、宇賀神の3筆に分筆し柳橋地区の1万余坪は白川、宮田、大口、幸田、組合と5筆に分筆されそれぞれ農転申請がなされ提出後1ヶ月以内に許可された。当時の農業は増産が最大目標であり1筆5,000坪以上は関東農政局経由農林大臣許可を必要とし、それ以下の場合県知事許可で事が足りた。そのためこの様な分筆がなされた。

1月4日 県庁へ新年の挨拶に伺候、幸田、白川、宇賀神、樋口、久保田、宮田、小倉、中村。

1月18日 第6回協議会郵政会館。

欠席 富士製作

- (1) 工場建家の構造及び入口の決定。
- (2) 工場土地の区割をくじ引する、現在の形。
- (3) 電力の契約38年零39年より申込む。電話準即通となる今年度末迄に各社1本ずつ申込む。

- (4) 従業員採用の件 1月25日総和村役場総和中を訪問現地の状況を調査，全社の希望を取まとめる。

当日出張者 白川，古川，藤岡，三ヶ尻，宮田，中村。

- (5) 富士製作より脱会の申出あり。代替者を探す。

1月25日 従業員採用についての調査

中卒者動向，高校進学50%，就職42%，在家8%，賃金月額最高1万円住宅手当1千円最低8,500円3ヶ月後皆勤手当月2千円東京就職は住込手取り6千円～6,500円。

高卒大学進学30%弱就職は殆どホワイトカラー志望。

職安へ120名申込む（内男子68名訓練校10名）

2月21日 緊急協議会八芳園。

- (1) 建家Aブロック6棟鉄骨組立完了屋根葺進行中。
- (2) 第二次計画について山下設計，鹿島との打合せ。
- (3) 自己資金第一回払込準備金，A300万円，B200万円，C100万円を3月末，残6月末払込

3月4日 緊急幹事会八芳園。

出席 幸田，宇賀神，白川，久保田，宮田，田原，大口，小倉。欠席 樋口。

- (1) 団地移行の手順
- (2) 共同事業の内容
- (3) 各社の資金分担計画

尚この頃2月20日付県知事名で37年度中小企業工場等集団化資金貸付金額の通達があった。

土地（整地）	750万円
共同受電所	1,070万円
汚水処理槽	400万円
防火設備	280万円
工場等建物	4,600万円
計	7,100万円

この通達の中で特に留意事項として茨城県中小企業振興資金等貸付規則を遵守することとあった。この項は県の軍司商工労働部長は団地の土地を県へ第一順位で差し出せと要望して来たが幸田理事長は他県の助成団地で県が担保をとった所は一ヶ所もないと数次にわたり交渉したが県としてはゆづれぬと宣言しこの項の挿入となった。

4月2日 建設委員会工業会2階。

出席 宇賀神，樋口，白川，建設委員長，久保田，委員，中谷，北川，村田，造成田
原委員長，土地宮田委員長，欠 幸田，古川，三ヶ尻。

(1) 37年度の共同施設と38年度施設。

6月3日 協議会電業会館。

欠席 久保田，田原，村田。

(1) 県及び商工中金との担保問題

(2) 組合共同施設について

6月7日 工場用地農地転換正式書類を関東農政局に提出受理される。

6月12日 緊急協議会 八芳園。

欠席 古川，北川。

(1) 県より6月6日付細田副知事名にて商工中金営業部部長藤原道太郎殿宛に抵当権
設定につき下記の通知あり。37年度貸付7,100万の担保として工場用地から13,301坪
住宅用地（柳橋）9,900坪を第1順位で取り38年39年の貸付分については第二順位と
する考えのあることを示し37年度工場用地13,301坪についても将来適当な時期に東
京通産局と協議のうえ順位譲渡の考えのあることを示し商工中金へ対し貸し出し方
の協力を要請した。

この結果商工中金よりの融資1億円は団地土地42,715坪を第一順位として提出，
その外役員6名の個人担保を提出する。但し役員の個人保証分は団地建物の登記完
了時に解除する。

38年39年の貸付は団地土地建物の評価替を行い充当し不足の場合は協議すること
とした。

共同施設，電力の件

近々設立される総和工業会へ全員加入と当日出席 幸田，藤岡，宮田を決定。

従業員住宅建設委員会を置く

委員長 宮田，委員 藤岡，古谷野

6月13日 総和村工業会創立総会（役場）この席上宇賀神電機を会長に選出する。

7月29日 建設委（住宅建設委も含む）工業会。

(1) 37年度共同施設と附帯設備。38年度共同施設（組合事務所電話交換室食堂診療所
等）の検討。

(2) 久能従業員宿舎の建設

世帯持用は木造平家建12.5坪，台所，風呂場，水洗便所付とする。

独身寮は鉄筋コンクリート建 6 畳10室とし 1 室は共同浴場とする。

その資金を年金福祉事業団より借入，各社に必要戸数を問い合わせる。

8月26日 関東農政局より，工場用地農地転換許可の通達あり。

9月7日 緊急協議会レストラン立山。

- (1) 工場建家の間仕切を自己負担で行う。代金は商工中金に預託してある 3 千万円を一時流用追って各社より徴集。
- (2) 電力委共同受電方式で進め関電工90%施行。
- (3) 従業員社宅福祉年金事業団より融資決定7,980万円償還18年利率6.5%半年賦償還。世帯向け80戸単身向け 7 棟。
- (4) 各建物に対する火災保険を茨城県火災保険共済組合と契約する。
- (5) 借入金返済の資金計画について。
- (6) 39年度従業員採用について。
- (7) 機械設備は県の中小企業近代化資金を借入する。

9月25日 2月より開始した工場用地所有権移転登記完了。

9月26日 役員会 工業会。

理事 9 名の外電力委，古川，中谷参加

- (1) 久能宅地造成を鹿島より見積書をとる。
- (2) 各社間仕切，及び構内道路について。
- (3) 37年38年の共同施設。

10月17日 協議会現地集合。

久能柳橋宅地視察及び工場内照明。

午後 4 時より古河栃木屋にて懇親会。

10月24日 住宅建設委。工業会。

造成委員長出席あり。

- (1) 久能住宅の区画
- (2) 柳橋住宅地の整地
- (3) 久能住宅給排水汚水処理について

11月4日 緊急役員会三田福祉会館。

- (1) 37年度の工事完了検査

県萩原課長郡司係長大津西川両主事施設課，建設課より各 1 名

11月6日立会者宇賀神, 白川, 大口, 宮田

11月7日立会者宇賀神, 樋口, 久保田, 田原

- (2) 第二期(38年度)建設計画について組合事務所, 食堂診療所資材マーケット車庫, 共同試験所守衛所正門, 裏門, 西門
- (3) 久能宅地割当について
- (4) 久能柳橋の地鎮祭11月14日午前11時現地。
- (5) その他

11月4日 協議会三田福社会館。

午前中の役員会協議の件決議。

B5工場(富士製作跡)を三国工業㈱に補充加入を認める。

11月14日 午前11時久能柳橋の地鎮祭。

12月 第2年度建設に係る事務所外共同施設設置の具体案を決定。鹿島建設㈱と工事契約締結し, 茨城県へ昭和38年度中小企業近代化資金貸付申請, 昭和39年3月4,652万円の貸付を受く。

12月 第一次従業員宿舍建設につき鹿島建設㈱と契約, 工事着手, 昭和39年3月商工中金より年金福祉事業団代理貸付金7,980万円の融資を仰ぎ鉄筋コンクリート造独身寮9棟, 木造一戸建所帯向住宅81棟を建設, 同年9月竣工。

昭和39年

この年は東京オリンピックが開催され新幹線が開業し一見華やかに見える年であったが経済的には年初早々に値上げムード鎮静のため公共料金値上げ1年間停止金融引締めが始まり年間企業倒産4212件負債金額4,631億を超え中小企業は求人難にあえいだ。又東京の夏は水不足のため1日15時間断水と言う困難に直面した。池田内閣は首相病気のため辞職し佐藤内閣が成立した。

吾々業界は年の始めこそオリンピック投資の残作業で多少忙しかったが4月を過ぎると手持ち受注もなくなり閑古鳥がなく有様であった。だがなんとなく3,4年つづいた好況の残影で楽観気分が漲っており, 9月から団地移入が始まるのだが冷い不景気風に気づかぬ傾向があった。

2月10日 協議会。三田福社会館。

- (1) 団地前道路舗装について

かねて県へ対し国道4号より団地に至る間の道路はすこぶる悪く4号より東へ向け約200米位の舗装だけで, 他はすべて砂利道であり特に団地前県道は雨の降るたび

に水溜りとなり車の通行及び荷物の運搬に不便を感じており度々陳情を繰り返していた。それが予算がとれて原山十字路から500米は県の予算で行い、更に140米延長すれば丸登化成入口まで舗装が出来、その140米の舗装費は180万円かかり3分の1は村で60万円を負担し残70万を丸登化成、50万を当組合で負担してほしいと相談あり。全員了承。

(2) 柳橋宅地隣接地1,100坪単価1,300円で買入れてほしいと地主より要請あり。全員了承。

(3) 食堂の厨房設備富士厨房より1,800万円の見積あり他に2,3社見積徴集する。

(4) 団地評価格決定

不動産研究所査定(土地家屋共)3億2千万円。

(5) 県へ組合が指定業者になる様申請

(6) 県労務近代化推進委員に白川、宮田を選出

(7) 工場団地内道路舗装について

(8) 38年度共同施設131,871,000円

久能柳橋造成費 21,250,000円

団地電気設備 8,600,000円

3月30日 協議会。蔵前工業会館。

(1) 38年度助成金46,520千円決定

(2) 久能住宅年代より前借金39,900千円の交附

(3) 其他

4月7日 協議会。三田福祉会館。

(1) 電力、共同受電中止、各社別受電とす

(2) 久能柳橋宅地の区割を行う

5月 第2年度建設工事に対する商工中金並に中小企業金融公庫の協調融資各4,150万円の融資を受け工事順調に進行、同時に工場設備機械の購入資金として商工中金より3,650万円、中小企業金融公庫より3,475万円の融資を受け夫々組合員に転貸実施す

6月24日27日 労務委員会(仮)工業会

白川電機 白川一郎(代白川昇)

宮田電機 宮田 優

日幸電機 大條駒雄(代総務課加藤)

キムラ電機 藤岡成吉

就業規則の原案作成について討議

7月17日 協議会。新日本会館。

(1) 操業開始に伴う古河職安への名簿届出

(2) 構内電柱を東電に売渡す

支払39年7月16日一括払

1,687,525円

(3) 其他

(4) 各委員会の構成

配電盤茨城団地協同組合

昭和39年度委員会構成員(敬称略)

39～7～17決定

委員会名	構成人員	委員長	副委員長	委員
総務企画	6名	幸田 秀一 (幸田電機)	宇賀神 金四郎 (宇賀神電機)	樋口 重蔵, 白川 一郎, 大矢 武雄, 三ヶ尻隆治, (樋口製作所)(白川電機) (大矢化学) (三ヶ尻工業)
財務金融	5	大口 慶次郎 (大口電気)	樋口 重蔵 (樋口製作所)	幸田 秀一, 宇賀神 金四郎, 白川 一郎, (幸田電機) (宇賀神電機)(白川電機)
文化厚生	6	白川 一郎 (白川電機)	田原 一郎 (田原電機)	古川 高光, 北川 末二, 藤岡 成吉, 羽田 伝一, (旭日電機) (三邦電機) (キムラ電機)(三国工業)
業務	配電盤業者にて別に月番制として決める。			
労務	7	宮田 優 (宮田電機)	幸田 秀男 (幸田電機)	白川 昇, 藤岡 成吉, 寺内庄一郎, 加藤 (白川電機) (キムラ電機)(宇賀神電機)(日幸電機)
技術	6	久保田 正 (荏原電機)	久保田 吉男 (宇賀神電機)	樋口 重蔵, 武藤 任, 渡辺勝次郎, 阿部 (樋口製作所)(東京太田) (渡辺製作所)(日幸電機)
施設運営	9	吉川 高光 (旭日電機)	中谷 俊衛 (港工業所)	久保田 正, 田原 一郎, 宮田 優, 村田 清 (荏原電機) (田原電機) (宮田電機) (光商工) 大矢 武雄, 古谷野 武, 師岡 政雄, (大矢化学) (東京特殊) (日光工業)

8月18日 定例協議会。新日本会館。

(1) 共同施設と運送事業について

(2) 団地就職希望者

藤田正, 吉原芳衛。組合守衛に採用

男子2名樋口, 大口へ, 女子1名白川へ

(3) 労務委員会顧問依頼

日大講師岩吉松之助先生

8月2日 協議会。新日本会館。

総同盟幹部早矢仕，椎木両氏を招き労組の組織状況について受講

40年採用学卒者の賃金決定

中卒 { 配電盤器具部品月額 12,500円

男子 { 板金プレス，塗装 “ 13,500円

高卒男子普通高校 15,000円

“ “ 工業高校 15,500円

“ 女子普通高校 14,500円

9月15日 役員会。新日本会館。

理事会員と古川施設委員長出席

団地竣工式10月3日(土)午後1時開会。招待者関係官庁100名，地主100名，配電盤工業会150名，各社関係1社20名として約400名合計大略1,000名費用概算 120万円。

運送を東営梱包と協議

共同給食オリエンタル給食より見積徴集

朝45円，昼55円，夕60円

会社負担 15%

9月22日 協議会。新日本会館。

9月15日役員会協議の件決定

10月3日(土) 午後1時 団地開所式

現在の野球場へ大天幕を張り桜内通産大臣（代理）岩上茨城県知事其他大勢の来賓の臨席を仰ぎ秋晴れの好天の下盛大に行われた。

10月8日 施設運営委員会新日本会館

白川，久保田，中谷3氏が他社の食堂を見学し尚かつ富士給食とオリエンタル給食を喰べ較べ価格，量等を検討の結果富士給食に決定。

10月19日 古河保健所の検査をうけ富士給食にて給食開始を決定する。

10月26日 協議会配電盤工業会館

総和電話局は現在東京回線1回線しかないが今年中に2回線になり，又古河電話局が現在改造中で41年度完成予定それと同時に即通になる。商工中金人事部より元浦和支店長伊牟田繁氏を推選され当組合金融，経理担当者として迎える旨幸田理事長より知らされる。

12月17日 協議会団地事務所

- (1) 39年度共同施設用助成金21,541千円申請
- (2) 年金福祉事業団より11月18日を以って住宅資金32,900千円貸し出し決定世帯向木造10戸、世帯向け防火10戸単身向け4棟分。
- (3) 診療所へ日赤より医師派遣。看護婦雇入。
- (4) 年末年始の休日を決定。12月30日～1月3日。始業式1月6日。
- (5) 1月7日一日理事長当番制を施行、1日正副2名、午前10時～午後5時。

12月24日 文化厚生委員会主催、団地内従業員のクリスマスパーティ。会費500円。全額会社負担。

昭和40年

この年は過去最大の倒産と言われる山陽特殊鋼の倒産があり、昨年に引つづき不景気風が吹きまわった。

吾が団地も昨年10月の開所式後各社操業に入ったが受託減になやみ開店休業の状態がつづいた。

1月19日 午後1時より診療所開設。

日赤医師派遣毎週火曜、午後1時～4時迄主として内科、外科
看護婦（団地採用）毎日午前9時～午後5時、応急手当のみ施行

2月17日 事業部技術部を置く

事業部長 鳥羽清
技術部長 佐藤純雄

3月16日 協議会。配電盤工業会館

団地建設費の経理処理案説明

田村公認会計士

組合共同設備と各社設備の経理処理

- (イ) 共同施設は総て組合の資産とする。
- (ロ) 各社の工場は各社の所有物として経理処理する。
- (ハ) 共同施設に対する諸経費は賦課金により元本償還は出資徴収による。
- (ニ) 共同施設用土地及び道路用地は組合所有としその醸出金は出資に充当する。
- (ホ) 共同施設に対する不足金を各社醸出の建設資金の内から増資に充当、出資総額1,970万円となる。

3月24日 工場責任者会議。団地事務所。

(1) 食堂の運営と給食内容

(2) 日用品マーケットについての注意事項、品物が同一種類にかたよっていて品種が少ない。値段が安くない。

(3) 診療所の件

週1回の医師来診では少なすぎる。

(4) 運動部の設置

(5) 安全衛生管理部会の設置

この会合が今日の工場長会議の母体となる。

3月27日 労働省より中小企業集団労務改善事業の指定を受けた旨県より通達あり、改善実施計画を樹立、5ヶ年間継続補助金を受ける。

5月14日 39年度申請助成金21,541千円交附決定。

6月 臨時総会。配電盤工業会館。

(1) 組合借入限度を7億円とす

(2) 商工中金より季節融資を受け、中元、年末融資を実施する。

6月 商工中金、中小公庫の協調融資1250万円を受け第二年度共同施設完成。

6月11日 労務委員会起草による団地協組共通就業規則の実施を決定。

7月6日 厚生施設完成修祓式。団地

プール、野球場、テニスコート、バレーコート完成午前9時現地にて修祓式を行う。

8月27日 役員会。配電盤工業会館。

(1) 組合の水道料金を1立米15円とす。

(2) 監督者訓練を定期的に継続して実施。

9月4, 5日 第一回文化祭。

第一日 (1) 式典

(2) 運動関係 水泳、バレー、庭球、野球

(3) 文化関係 華道実修展示、絵画、写真の作品、レコードコンサート。

第二日 野球大会A, B級共決勝戦

文化関係前日に全じ

9月22日 協議会。配電盤工業会館。

(1) 団地運営診断説明

県郡司課長補佐、鈴木係長、安川主事

診断員商工中金長田氏 財政及び金融

- 〃 市吉公認会計士 } 組合総合診断
- 〃 田村 〃 〃 }
- 〃 託間 〃 〃 (県)共同施設
- 〃 県経営課係官 労務問題

(2) 長期運転資金 1 億 2 千万円の転貸

(A)－700万円, (B)－650万円, (C)－500万円, 1 年据置 6 ヶ年返済年利9.2%

(3) 組合増資1260万を決定

10月21日 食堂を組合直営に切替

10月27日 年末融資

限度 1 社500万円迄期限 6 ヶ月月賦償還, 金利日歩 2 銭35, 信用保証協会保証付。

10月28日 県郡司課長補佐に同行を願い水戸, 日立, 勝田の 3 市を共同受託の件で訪問
白川, 久保田, 宮田, 及び鳥羽事業部長。

11月25, 26日 共同受託の件で北茨城高萩, 笠間(一泊)下館結城古河 6 市訪問, 県郡
司課長補佐, 白川, 久保田, 宮田, 各委員鳥羽事業部長。

12月 8 日 理事会, 協議会, 配電盤工業会館。

(1) 共同施設利用料を決定。

A 級15万円, B 級10万円, C 級 6 万 5 千円

(2) 年末年始の休日

12月30日～1 月 4 日, 始業式 6 日

12月24日 団地従業員クリスマスパーティ

以上昭和36年度より40年迄の団地建設過程を当時の記録を基とし取り纏めました。

従業員宿舍用土地委員会について

宮 田 優

通称土地委員会と呼ばれ発足は昭和37年6月8日の配電盤茨城団地協同組合第一回協議会の席上で生れた。

配電盤茨城団地協同組合は昭和36年6月以降数次に亘り東京配電盤機器工業会の有志で会合を持ち、参加者の変更を重ねつつ、昭和37年2月15日の創立総会の決議を経て同年4月6日登記完了を以って誕生した。その間に現在の茨城県猿島郡総和村下大野字原山の地42,294坪を買収し、組合員に区割配分して各社工場、及び共同施設を配置し稼働にこぎつけるべく努力中であった。

最初工場団地の中に従業員宿舍、管理人宿舍を設置する計画で進めていたが、工場敷地内の住居は助成対象になりにくく又将来禍の種となるおそれもあるので専用宿舍用地を求めることがこの会議で決定され、企画、金融、造成、建設の委員会と共に生まれた。

委員長 宮田電機㈱ 宮 田 優

委 員 キムラ電機㈱ 藤 岡 成 吉

〃 遠藤電機㈱ 鳥 羽 清

以上の3人でスタートし37年12月21日遠藤電機が脱退し、その代替社として38年1月30日より東京特殊工業㈱が加入し、社長古谷野武氏が引きつづき委員として協力した。

37年6月29日 午前7時30分出発総和村役場着午前9時45分。宮田藤岡鳥羽、藤岡社長愛車を運転して参加、東配工中村部長東電古河営業所へ立ち寄りして共同受電の件打合せ後午前10時半より参加、高橋村長、亀田商工課長(後の助役)不在、浅井主任(現民生商工部長)と面会村内全図 $\frac{1}{25,000}$ を全員に配り候補地4ヶ所を提示される。

- (1) 旧桜井小学校跡地2787坪(村役場払下げの意あり)。
- (2) 久能畑地約20,000坪(久能十字路南下現北利根団地へ向う道の東側畑地)。
- (3) 柳橋畑地約20,000坪(現柳橋住宅地)。
- (4) 駒羽根山林3,000坪(現駒羽根団地)。

浅井主任の話しによれば住宅用地では値が高くなるだろう1段歩当り30万円位と思えばよいだろうとの話。又畑地でも1筆5000坪未満で農転申請し村農地委の副申をつけて県農地部へ申請すれば無条件で許可になる旨教示される。

その後4地点現地視察。

(1) 桜井小学校跡地 現桜井小学校と県道を狭んで南側旧木造校舎がそのまま残っている。村役場での薄価350万円。

(2) 久能畑地（久能交又点北利根団地方面へ向う東側畑地）団地南門予定地より700米、約20,000坪まとまる見込があるが、その間に農家点在し、その移転に問題あり。予想価格段当約30万。

(3) 柳橋畑地（現柳橋宅地）。

工場団地より約1.5軒、南傾斜の畑地環境よし。予想価格段当り30万円。

(4) 駒羽根山林（現駒羽根ショッピングセンター附近）。

団地西側、水田をへだてた山林、約500メートルの距離にあり。但し敷地接近して火葬場、墓地等あり、あまり気すすまず。

午後村役場に帰り高橋村長に会う。既に工場用地を世話したのであまりその他の用地については気がすすまない様子。当方では無理に村内でなくても安い土地で道路さえよければバスを購入して、その費用は福利厚生費で償却出来るので一向さしつかえないが、団地の東京勤務の従業員の住民税は1千円以下の者は1人も居らず、又社長1人移住すれば30万円以下の住民税の者はいない。それら何所へ住むかはこれからの土地選択にある旨説明した。村長はキツとなり「そうだ自衛隊が当村にはいるが幹部は皆古河に住み、村の道路を痛められるだけで何の見返り収入がない」と言われ、優先して住宅用地の幹施を承諾して下さった。又村当局でも宅地開発の必要を認め、37年6月1日付で開発公社を発足させた旨お話があった。（因に仄聞する所に依るとその当時の全村での村民税収入が300万に充たない様な話を伺った。）

帰路隣町境町の知人を訪ね、参考に近隣の土地状況を聞かせてもらったが、近いうちに境大橋が架ることになっておりこの近くは地価が高騰し段当り60万位三和村では18万との話を聞く。帰路は利根川に架る舟を横ならべにして板を渡した仮橋（有料）をゴトゴトと藤岡氏の運転するダットサンの後について歩いて渡る千葉側の土手に上ってヤレヤレの思い。

7月6日 幹事会報告

(1) 学校跡地もっと価格を下げて買い取りを申入れる（全用地で100万以下）

(2) 他の土地は7月15日迄仮申込を取て村へ申入れる。

(3) 主として久能地区を先行させ、不足した分を柳橋畑地の買収を申入れる。

8月1日現在申込坪数柳橋7千坪久能1万6千坪

8月4日第二回総和村行，午前8時15分発，10時30分着，宮田，藤岡，鳥羽，中村現地にて三邦電機北川社長合流。

- (1) 柳橋地区1万坪 } の申入れをする。
(2) 久能地区2万坪 }

(3) 桜井小学校跡地 値を下げてもらうことと払下げを重ねて要望。この用地は訓練校としたい旨申そえる。

村よりの回答

- (1) 柳橋地区は大体了解得られる見込。
(2) 久能畑地は少し不足するかも知れない。その時には駒羽根ではとの話があったが前述の様に火葬場墓地等のためおことわりする。
(3) 久能畑地不調の折の候補地として久能山林（現久能住宅）を浅井主任に案内される。小山あり谷あり起伏に富む山林。

9月11日東京事務所にて打合せ

先日村役場より久能畑地不調につき，久能山林を斡旋する旨電話あり。

9月15日第三回総和村行，宮田，藤岡，中村，宇都木助役，亀田商工課長，浅井主任高橋仲平開発公社課長。

- (1) 柳橋畑地 これまでの推移を説明されこの地区は区長が熱心に纏めてるので可能性大きいとのこと。
(2) 久能山林 目下難行中との事。

午後各地区の有力者を高橋課長と同行して訪問。

10月9日 東京事務所にて土地委員会を開く。柳橋畑地の接渉についての下打合せ。宮田，藤岡，中村。

10月11日 第四回総和村行 宮田，藤岡，鳥羽，中村。総和村公民館にて柳橋畑地地主との最後の取りきめを行う。これで1万坪は確保出来る。

平行して久能山林の地主との交渉も行う。

11月7日 総和村行，宮田，藤岡，鳥羽，中村，総和村公民館にて久能山林の取まとめを行う。高橋村長，粕田村会議長(故人)，宇都木助役，亀田商工課長浅井主任，高橋開発公社課長の方々が熱心に行って下さる。午後6時から始めて夜11時すぎ迄かかり全員の納得が得られた。だがとうとう帰りの列車がなくなり古河市の旅館花園泊。一晚中鳥羽委員の雷の様な鼾と，歯ぎしりのオーケストラになやまされる。

11月10日柳橋地区第一回内金支払（40％）宮田，藤岡，鳥羽，小倉，中村。

11月20日工場団地正門あまり狭いため地主福島政満氏と交渉2百坪を単価2千円で買い取る。

38年1月30日 柳橋地区第二回内金支払30%宮田, 藤岡, 小倉, 中村。今日より古谷野氏土地委員に加わる。

2月以降 久能地区畑及び水田4800余坪を樋口, 宇賀神, 田原の三社名儀。柳橋地区畑9108坪を大口, 白川, 幸田, 宮田の四社名儀に分筆し, 県単で農転可能面積に分筆作業を行う。中村。

5月31日 久能地区第二回支払40%

宮田, 藤岡, 小倉, 中村,

6月7日工場団地農用地の正式な農転申請書を関東農政局へ提出受理さる。

7月20 総和村農地委員会へ, 柳橋, 久能両地区の農転申請書提出。宮田, 中村。

7月25日 両地区を村, 農地委の副申をつけ下館市所在県西事務所伺候農転申請する。宇都木助役同行。宮田, 中村。

7月28日 県西事務所の副申をいただき県農地部伺候。宇都木助役同行。宮田, 中村。

8月1日 県開発局伺候農転了承を得る為局長, 及び次長と面談。農地部再度伺候。宇都木助役同行。宮田, 中村。

8月15日 久能, 柳橋共に農転許可さる。

8月26日 工場団地も農転許可さる。

8月30日 久能, 柳橋共に残金を支払う。

8月 久能地区内にある墓地5ヶ所を村の共同墓地へ移転する件につき供養料とお酒を供えてお清めしていただく。1ヶ所につき1万円とお酒1本。

地主船橋又男様他5名。宮田, 中村。

39年2月10日 柳橋地区吉原芳衛氏外2名の畑1100坪を単価1300円で買増す様要請あり。協議会にて了承を得る。この土地は組合名義として農転申請。

39年5月30日

} 二回に分けて上記分を // 6月8日支払う。

5月上記の土地の作物(主として麦)の青作補償の問題起きる。

7月~8月青作補償を支払う。

以 上

土地委員会座談会

対談者 藤岡成吉、宮田優

藤岡 もう20年も経ったんですね。古い話になりましたね。

宮田 ついこの間の様な気がしているんですが、今手記を書く為整理していますが、随分忘れていていることが多いのです。

藤岡 一番最初に思い出すのは私がダットサンを運転して帰り道、今の境大橋の所に舟橋がかかっている、その上をおそるおそる渡った事が忘れられませんね。向う岸へ渡ってホットした事を覚えています。

宮田 あの橋は気持ち悪かった。車が橋にかかると舟がスーッと沈み板がギシギシになって、後を歩いていて心配しながらついて行った事を思い出します。

もう一つ忘れられないのは久能をまとめる時、村長、村会議長、助役さん方全員で先立ちになり、地主さんを説得され、私達は桜井小学校の小使室で小さな火鉢一つを囲んでガタガタふるえながら事の成行を心配していたのが忘れられません。記録を見ると11月7日でまだそう寒い時期ではない筈なのに大変寒かった事を覚えています。

藤岡 浅井さんが時々伝令にやって来て状況を知らせて下さったりね。

宮田 もう一押しでまとまるから一度地主さん達に顔を見せて挨拶をしてくれと言われ吾々全員が会場へ行って深々と頭を下げましたね。

藤岡 久能の名義変更の出来ない土地はどうなりました。

宮田 まだなんです。船橋又男さんの土地です。あの方は最初売ることに反対で、何回か通って話し合ううちに大変話が合う様になり、逆に皆さんを纏める方向に動いてくれたので大助かりでした。あの方をお訪ねするといつも一升瓶が置いてあり先ず冷酒を湯呑でグイーッとあおってから話を始めるのです。ですからお土産には何時もお酒でしたね。

あの方の土地は田が二筆、畑が一筆、山林一筆、池一筆、の五筆に分かれていて、そのうち久能海道畑、1235～4 山林84坪（船橋熊次名義）。久能西原1369、池14坪（船橋禎太郎名義）。この2ヶ所は代金が支払われていて名義変更が出来ない物件、もう一つは久能海道畑1236、墓地32坪（船橋禎太郎名義）でこれはどう言う訳か代金の支払がなされていないのです。

何故こんな事になったのかと言うと禎太郎さんも熊次さんも故人で死後相続がされていなかった。その為現行の相続法では、子、孫、曾孫と言った関係者全員の権利放棄の承諾をいただいてからでないと組合との間で名義変更が出来なかったのです。その方々

をお尋ねして歩いているうちに行方不明の方がおられ、アチコチ所在を探したが判らないので、種々証拠を揃えて下妻区裁で失踪宣告をしてもらったり、関係者は茨城の地元だけでなく東京にいたりでその方々の居所を一つ一つ探して膳本をとったりして権利放棄の印をもらうのを手伝ったのですが、そのうちに又男さんが自動車事故でなくなられその財産を息子の船橋正男さんが相続されたのだがその為ますます関係者がふえて行ったのです。それをやっと全部すませたのが55年でした。そしたら今度は現地主の船橋正男さんはその後の手続に関して種々骨を折って働いているが親父が全部金を握ってしまい自分は一銭の金の顔も見えていないから団地の名義変更には応じられないと頑張っています。もう少し時間をかけないといけない様ですね。

それに墓地の移転問題ですね。

これは船橋又男さんが先になって話を持って来られ5ヶ所の墓地のうち1ヶ所につき1万円のお清め料と酒1本を供えてくれと言って来ました。それを支払って手を打ちました。

それから組合の記録を読むと委員がまとまって行動したのは書いてありますが、僕と中村所長、僕単独、又は中村所長単独で行動したのは記録にないんです。唯私の古い日記のメモからある程度引っ張り出しました。だけど全体で何回位動いたのか判然としませんね。交渉の始めから全体交渉に辿りつくまでその部落の目ぼしい人々を次々と訪ねて口説きおとし、もういいだろうと思って全体交渉を開くとガラリと様変わりして交渉が難航しましたね。柳橋は割合楽でしたね。久能はスタートが同じ頃から始めたのに随分あと迄かかりました。

藤岡 農転も厄介でしたね。

宮田 そうです。特に工場の土地の場合何も判らず、通産省の指定があるからすぐにでも、工業用地に指定がえをしてもらえんと思ひ、中小企業庁とか通産局県商工労働部等をウロウロしていたものだから埒があきません。山林部分はそれでも1年半位で地目変更が出来ましたが、田と畑1万1千余坪は関東農政局経由農林大臣認可である事が後で判って、農政局通いを始めたのですが、その頃の主食事情が供給不足の時代で容易に田畑を減らす事を許可されない時代でした。私は工場地農転は後半のほうでお手伝いしましたが、正式書類がなかなか受け付けてもらえず、小倉、中村の3人で夏の暑い頃なのでビールを持って伺ったら係の人に「こんなビール苦くて飲めるか」と木箱を蹴とばされた思い出があります。この農転で一番苦労したのが中村所長ですよ。

久能、柳橋の時は最初から村役場の浅井さんから5千坪以下に分筆することを教えら

れていたのが割合楽でした。村の農地委員会へは当時の宇都木助役さんが話を通して下さり、又私を委員長の土生さんに会わせて下さり委員会開催の2、3日前に書類を提出し副申をもらって県西事務所へ行って持ち廻りで通してもらい心算がやはり5日間位かゝった様におぼえています。提出の時は宇都木助役が先導して下さるし、あの方には大変お世話になりました。県西事務所から県農地部へ上げたら農地部だけでなく開発局へも顔出しせよと言われ宇都木助役同道で前後四回位お願いに行きました。一度は水戸市の黄門祭りにぶつかり水戸市長さんの黄門様の行列を眺めた事をおぼえています。でもさすが県単独で許可されることなので正式書類提出後1ヶ月位で許可になりました。

藤岡 あとは土地の分割と造成ですが久能は今でこそ平らになっていますが、今のロータリーのあたりは小高い山があってその下の谷間を細い農道が通っており藪だらけの中を全体を見て歩くのに骨を折りましたね。

宮田 そうでしたね。道案内は亀田商工課長（後の助役）がゴム長をはいて完全武装で藪をこいで歩きましたね。それにあの頃の猿島郡の草むらにはアオバアリガタハネカクシと言う小さい虫が雑草の葉裏にひそんでいてそれにさされると腫上ってとてもかゆく、高い熱を出す、その様な被害が「いばらき新聞」等に大きく出ていたりしましたね。

藤岡 久能も柳橋もすっかり様変わりして昔の面影がなくなりました。

宮田 土地委員会の思い出の中には土地契約と代金支払でおわりにしていますが、また後処理が続いています。土地とは厄介なものですね。

おわり

文責 宮田

委員長座談会

昭和57年6月24日

出席者宮田社長（編集）渡辺社長（金融）宇賀神社長（業務）大矢社長（施設）幸田社長（労務）白川社長（技術）藤沢（組合専務）

（記録一寺内。商工中金会議室）

（思　い　出）

藤沢—団地20周年記念誌発行にあたり、本日は各委員長に集って戴き、色々話を伺う席談会を持つ事としました。先づ建設当時の思い出から、渡辺社長より順々と御話を伺いたい。

渡辺—私は社長ではなかったが、第一次建設の時から会議に出席して来た。団地造成の時は、田原社長の下で造成委員としてタッチして来た。

宇賀神—私も特別どのような事か考えていなかったが、10年程前よりタッチした。稼働当時より知ってはいた。道路事情は大変悪く、随分遠い処へ来たなぁと感じた。オイルショック以前の10年と、私がタッチしてからの10年とは大部変った。10年すぎて各々の会社も発展し落付いて来た。当時同じ志しを以ってスタートした各社が、得意先も割と違っており、それ程波風立たず、現在でも良くまとまっている。

幸田—造成については父がたずさわって来た。父が動いていると言う感覚で見えていたが、父から団地を見てこいといわれて見に行った。こゝだと言われて車から下りた処が雑木林の中で、なんでこんな処へと思った。10日程たって団地へ行ったら、全く変ってしまった。全くなかった空間がいっぱい出来た。急に大事業になるのではないかという気持。これでは随分環境が変わり、大企業なみになるのでは—と思った。

大矢—37年ではないかと思うが、私は父と、今は亡くなった宇賀神さんの先代と、一諸に団地に来たが、大変広いので驚いた。私は始めから専務として来ており異和感はない。団地の会計監査をキムデンさんとずっとやって来たが、今日迄一社も落ちずに来た。すばらしい団地と思う。それは団地へ来た企業が皆立派であるからと思う。感じたまゝ。

白川—私は18年位前に団地へ行ったが、それから第一号社員として6年位団地で生活をした。今日迄、社長となっても父（会長）が健在であり、これと変ったものもない。

(委員長として)

藤沢—渡辺さん文化厚生委員長として、

渡辺—当時5年位は、素人演芸をやったり、お華、写真の展示会をやったり、事務所の横の芝生では野立てをやったりした。私は委員長としては3代目である。私は厚生委員長としての役目はしないで、殆んど現在は、工場長がやっている。

藤沢—宇賀神さん業務委員長として。

宇賀神—私は名前だけで、ろくな事はしていない、業務委員長3代目である。団地の中に仕事を取ろうとすると、皆同じ業態であり忙がしい時は何処も忙しい。暇の時は何処も暇になる。団地で受注した仕事はみんなでやるには数社しかない。現在も、団地で受注して皆んなで仕事をするとする事は余りない。例に日立に適時で仕事を出して下さいと御願いしても、日立にも下請企業があり結ばれない。あく迄下請仕事で工賃仕事である。今迄共同受注の成果と言うものは少い。今後どうやって行くか考えている。

藤沢—労務委員長の幸田さん。

幸田—その前に元委員長の宮田社長に。

宮田—いや今の委員長の幸田さんから。

幸田—私も労務委員長は3代目。企業は人なり、大変大事な事であり、労務管理は仲々むづかしい。団地が出来て始めの10年。好況の時代と、オイルショック後の10年と分けると、団地求人最初は集団求人、集団就職で、当時のご他聞にもれず求人難であった。迎える方は20社で就職者は数人で、学校へ出向して求人活動した。始めの10年は大変だったと思う。あとの10年は不況の関係から、集団求人は各企業単位の活動と変った。遠距離と言う事で求人はむづかしいが、昨年を考えると、求人活動はそれ程活発ではない。20年を経て、当時就業規則を作るのに苦労した思い出がある。団地全体で一つの規則にまとめるのに努力した。企業には各々就業規則がある。それを一本にするのである。結局最大公約数的なものになる。次に給与規定を作ろうとしたが、給与規定はお金がかからむ事でこれこそ大変、給与体系が違うので、各々お家の事情もあり、今日迄作るに至っていない。只、新卒、学卒の初任給と、入社一年間の賞与についてのみ、労務委員会にて決めている。20年の流れもあり、今後一つ一つ解決して行きたい。

藤沢—施設の方で大矢さん。

大矢—私も施設委員長3代目、先づ中谷社長に色々とお教え戴いている段階で、先輩の苦労があって今日に至っている。施設も二つあり、工場に関する福利厚生関係、運動場や

プール、野球場、テニスコートなど。もう一つは社宅に関するもので、この方は現在各社に任じてしまっている。

団地には大きな給水設備を持っておりこれは強い事だ。又工場団地で運動場（室内を含め）を持っている企業は少ない。工場も、社宅の方も今後10年後にはすばらしい価値が出て来ると思う。

藤沢—技術委員長の白川さん。

白川—私は技術委員長5代目。4代目の宇賀神さんの時に技能検定を始めた。他社に見ない多くの技能士を出している。団地21社他所に比較してこんな立派な団地はない。名門の5代目。現在団地で共同で、コンピュータの開発をしている。

藤沢—金融委員長の渡辺さん。

渡辺—私も委員長4代目、私も初期の頃の事はわからない。私が引受けてからも、前の10年とあとの10年とを分けると、前の金融委員会はそれ程問題もなく、すごされた事と思う。後半の10年は金融委員会が活発に開かれている。

団地建設仮勘定の大部分は残っていたが、2代目の専務理事が色々と整理された。

藤沢—私は2代目なのか3代目なのか。

幸田—いや初代は小倉事務局長(亡くなられた)。次の伊牟田さんが専務理事初代で、藤沢さんは2代目。

藤沢—私がそのあとを引継いで専務となった。私は何時も和を第一と考えている。経理の方は部門別独立採算制にし、収支をわかりやすくした。私は基本的には組合事務で人より後ろゆびを指されないようにと頑張っている。組合でもうける方法がないかと考えているが、収入とつながるものはそうない。

(新風会について)

宮田—我々の団地には、二世の人達の新風会なるものがあるが。

藤沢—私は新風会を3年位見ているので、経過を申し上げますと、色々勉強をしている。勉強会をやりながら、非常になごやかにやっている事は讚美したい。

幸田—私は現在新風会々長をおおせつかっているが、感覚的に申し上げますと、初めは社長のせがれ達が集ったと言う事で、飲み会では、と思った。最近の新風会は、皆んなが社長になった。皆んな責任を持った。そして実権を持った。そんな事で成長した形の新風会になった事と思う。近き将来3代目の新風会が出来るのではないかと思う。

初代があれだけの団地を作ったの事業、これを維持し、大きくして行く責任が、私達新

風会の責任である。

宮田—大体新風会なるものの構想は、東配工で、私や白川さんが二世会をやろうと言いつ出したが、仲々東配工ではまとまらなかった、それでは団地の二世会を作ろうと言うのがきっかけで出来た。

渡辺—団地の社長連中はわかっているが、二世の連中は御互いに分らない。一つ団地の二世会を、と言われた時、白川さんも二代目だから白川さんより声をかけてほしいと言ったら、いや君達若いのだから、君から声をかけろと言われた。第一回の集いを椿山荘で発会式をやった。それからのむ会、遊ぶ会、ゴルフや夫婦同志の懇親会、勉強会を持つようになった。遊ぶ事は良いが新風会の会長として、結婚式に招かれてのスピーチは本当に弱った。最後の方になり人数が多いので、スピーチも出来ず弱った事がある。先程幸田さんとも言われたが、新風会も大人になったと思う。

(今後の団地を)

藤沢—配電盤団地をどうやって行くか、白川さん一つ。

白川—低成長時代を迎えて、配電盤団地はどうやって行くか、今迄我々配電盤メーカーを、盤や、盤やと言っていたが、我々業界のイメージアップのためにも、最近新聞などでは我々を配電盤システムメーカーと呼んでいる。技能検定に於いても、配電盤組立のみでなく電子機器組立、板金組立、電気製図の合格者も段々多くなって来た。従って技術水準も段々上って来ている。

昔当団地に「長期計画策定委員会」と言うのがあった。そろそろそうした委員会を作つて、目標を立ててその目標に向つて推進すると言う事が、必要になって来たと思う。

大矢—そうだ。そうした委員会を作つて、長期計画を立てる必要がある。

当団地は立地条件が良い。私の処は八王子にも工場があるが、土地は既に坪30万となっている。坪10万の我々の団地が、何時かは30万になる。そう考えると力強い。

私達の塗装量が増加して来た。団地発展に大いに寄与していると思う。

宇賀神—先程申し上げたが、協同組合が、20社とまとまっている。各々の企業がコンピューターを取入れている。私共でもメルコンを導入して3年になるが、充分活用していない。組合でコンピューターを入れるとか、或はパソコンをもっと入れるとか、何か共同で使えば安くなるものを、もっと入れるとか、配電盤の企業で自動製図機を入れている処があるが、団地で入れたら何かメリットのあるものを、団地企業10社位で設計を全部一つにするとか、団地企業が1～2名出して、共同設計が出来るように。うちでは工場より2名

程、設計の見習いのため本社へ寄しており、来年は団地に戻す。そして団地で設計をやらせる。

幸田—ここで先程の「長期計画策定委員会」を作る機運が出て来た。

藤沢—先っきの共同事業に対して、組合より高度化資金の貸出しも出来ると思う。

宇賀神—そうしたものを入れる前の問題として、各社で勉強をする事が必要である。共通の使用書を作らないと出来ない。又専門のコンサルタントを入れて——

宮田—今後はFA（ファクトリー、オートメーション）に力を入れてお客様と一諸になって「ソフト」考えてあげられる様な企業になりたいですね。OA（オフィスオートメーション）よりずっと利用が多い様な気がします。

大矢—半自動の塗装機もロボットの一步手前になって来た。うまく行ったら団地でも使いたい。

宮田—孫のこととなるが、親父よりせがれの方が、パソコンに詳しい。

白川—求人では高校卒のみでなく、大学を廻る事が必要である。

宮田—パソコンは高校でも専門的に教えれば、高卒で先入観のない者の方が良い。そして学歴より、本人の趣味で好きであれば。

幸田—今FAの話しが出たが、何かFAの情報があったら教えてもらいたい。

白川—標準分電盤などは2年位で、面倒なものは外注し、それから制御盤をやるが、自分のところで、そうしたものを組立、仕上げる人が何人いるか？——。

藤沢—この辺で時間も来たのでマトメと問題点を。

渡辺—当面の問題として団地の行事分担金の割当を簡単に頭割りにしないで、各社の利用率、規模を考えてやってほしい。今でもその考えはあるが単純に組合負担と言わない様にしたい。

藤沢—他に何か。

宮田—いろいろありがとうございました。始めた当時の不自由さを思うと今の状態は大変めぐまれていると思います。

皆さん二世社長でお若いのですからこれからのことはよろしくお願いします。

20 年 に 想 ふ

光商工株式会社

取締役会長 村 田 清

昭和37年頃のことである。幸田秀一氏から電話があった。

君から団地の申込みがあったが、君の会社は商社だし何か工場をやるのかね——と云ふ。

先に漏電火災防止器の特許を得、発明協会関東地方賞、東京都知事賞を受賞し、併せて紫綬褒章も受章していたので、之が拡販の為め蒲田に工場を作っていたのと、工場を増設する必要が予見されていたのです。

団地は坪価1,000円位であり、いけなければ値上りで売れば儲るから1,000坪だけを申込みました。行ってみれば駅から遠く、道路も未舗装でしたが近所には立派な林があり、此の地所は坪1,000円で良いとの事で、これを買取る交渉を町役場に担当のSに申付けました。これは俺の地所にするのだからと、木の下で立派な苔を車のバックヘ一杯につめ、東京の家に引きつめたものです。然し立派な苔も東京ではすぐ枯れてしまいました。当時河野一郎氏等の発言で地方の地価が上昇し、交渉した役所でも坪2,000円だといきなり倍額に言はれたので買収を止めてしまいました。誠に先見の明が無かったと言はれても仕方ありません。住宅団地の方は1,000坪申込み、従業員対策にもと手に入れました。

39年10月第1次工場完成、これ迄幸に高圧接地保護装置も特許を得ていましたので、この製作も必要となりました。御陰で40年にはアカデミー賞42年渋沢賞を受けました。

あれから20年、工場への道路も完全舗装され、従業員も自動車で乗り付けるようになり、明るく動いているようです。私共の会社は商社であり電気、施設、商品、機械、継電気等の各部があり、他に光広産、光舗道、光不動産、光和製作所等があり、多忙のため工場へ余り伺ふ暇がなく常日頃申訳なく思っていました。従って工場団地で立派になればなるだけ、何の御手伝いも出来なかった自分をかへりみて恥ずるのみです。

工場の製品も電設工業協会より東京都知事賞、労働基準局長賞、東京電力社長賞も頂く事が出来ました。

私も49年藍綬褒章、70才には勲3等瑞褒章を頂き、満70才をもって会長となり以後は各社長を長男次男家内に譲りました。

只今は日本電設工業協会常任理事兼公報委員長、東京配電盤工業会理事、日端会会長として多少でも皆様に御礼を返へすつもりで、その他の役職はなるべく年令上御断りしてし

まいりました。

配電盤茨城団地協会組合も、行って見ると実に立派になりましたが、既に第二世の時代に入っているようです。之も関係各位の御努力の結果と、心より感謝申上げて居る次第です。

配電盤茨城団地20年に思う

驚客ジョンソンコントロールズ株式会社

顧問 間宮 正夫

配電盤茨城団地創立20周年、本当に御目出度う御座居ます。20年と云う月日は一口で言ってしまうと簡単ではありますが、考えて見れば、0才の子供が20才に成長する年月であります。20才と言えば、人間では成人式を迎える年令に当たります。

即ち、社会へ一人前の人間として第一歩を踏み出して行く時ではないでしょうか、当社でも20周年のこの期を第一歩と思わせて頂き尚一層頑張っていく所存で御座居ます。当社はこの地に来て今年で15年目を迎えます。思い起せば昭和42年に古河工場として当配電盤茨城団地に御世話に成りました、当時は雑草の中に工場が有り道路は砂埃りが立ち、冬ともなれば名物の関東の空っ風に悩まされました。しかし、春ともなれば廻りの林の木々は生き生きと青葉を付けこの時期になると皆、生甲斐を感じ、今年も“やるぞ”と云う闘志が燃えて来るのでした。

又、配電盤茨城団地内には、すばらしい野球場、テニスコート、体育館、プール等の厚生施設が段々と整備され、毎年野球大会、バレーボール大会、テニス大会等が盛大に行われる様になり各社々員間の親睦に非常に役立っています。

仕事の面でも来た当時は資材の調達のために毎日毎日東京定期便を出さねばならなかったので非常に不便でしたが、現在では資材マーケットも出来、又、団地内各社との取引も順調に推移してまいりましたので仕事のスピード化と経費の節減に役立って来ていることを考えますと、この団地の一員として席を置かさせて頂いたことは誠に有意義であると考えております。

しかし乍ら経済は、低成長時代に突入し、尚一層のコストダウンと結束を必要とする時期ではないかと考えます。

これからは団地内の各社間の横の動きを一層親密且つ綿密にして、この期を第一歩とし

て歩み続けて行こうでは有りませんか。

我社も一層の努力をし微力乍らこの配電盤茨城団地の一員として創立20年の伝統に恥ない様頑張る所存で御座居ますので今後ともよろしく御願い申し上げると共に会員皆様様のこれからの層々の御発展と御健勝を御祈り申し上げます。

団地工場、この20年

株式会社大口電気計器製作所

取締役社長 山 田 稔

いつごろ、どういうことから団地建設の話ができたのか、そもそもの出発点は知りませんが、はじめて国道から総和の地に入った時のことは、はっきり覚えています。車の窓はしめきったまま、まい上る土ぼこりの道を、右に左に、凹凸をえらんで走っていました。

そして、今は亡くなられた秋山さんの奥さんに、お茶をいただきながら、これからこの地に工場団地ができるといわれても、全く考えられないことでした。

次に訪れたのは、たしか役場で土地代金の受け渡しの何回目だったかと思います。和服の姿の、年輩の方が、新車で役場に着かれるのをみていました。中でも腰の曲った手に杖を持ち、草履で車から下りられた老人をみたとき、長い間、親しんで来た土地が、ここで工場用地として売られて行く——どんな気持だろうかと推察され、複雑な気持ちになったものでした。ふと若い頃、郷里の内灘村での接收する側と接收される側との土地をめぐるはげしい対立を思い出していたのです。

しかし、役場での用事が終って、建設中の工場団地に向うとき、この考えがまちがっているのではないかと思ったものです。

前回には気がつかなかった事です、どの家にもとっていいほど、テレビアンテナが立っており、新しい洗濯機も見られます。

町中が一つの方向に動いており、団地周辺の農家も一変しているように感じました。

工場用地としての土地の売却に反対してたものはいなかったのではないかと思うほどでした。「内灘」では考えられない近代化への動きを感じました。

しかしその後、工場の建設、稼働と、表面に見えるものしか知らず、たまにお客様のように訪れる者にとって、その裏にある関係者の御苦勞は、後になって聞くまで本当に知りませんでした。笑い話の中に当時の苦勞を聞くにつけ「協同」でなかったらとてもできな

かったな——と痛感し、深く感謝しております。こうして39年8月、工場が稼働します。何しろはじめての事ばかり、なかでも工場へ転出する者は大変でした。とりわけ、春先の風の運んでくる土ぼこりには苦しめられました。新らしい土ぼこりとなって舞いこんでくるすさまじさは、経験のないもので、本当に驚きました。風の強い日には、このほこりの侵入が何より頭の痛いことでした。そのうちに各社も進出して来たり、まわりの用地も緑の芽に覆われるなどして、この悩みは薄らぐのですが、今もこの思いがけない客の来訪には少なからず困惑しております。

こうして3年、5年とたつうちに問題になって来たのが、組合と、当社個有の資産、共同施設、等の経理上の末整理のことでした。自己資金、借入金、資産、費用化したもの等、判然としないものがあり、その度に事務局の指導を得ていましたが、後日整理がついた時は本当にすっきりした気がしました。これも当方の未熟も含め、はじめての経験だったと今考えています。

工場創業以来、社員の入社、退社とはげしい動きがありました。これも一つには企業側のいたらない点があったと反省していますが、進出前には考えられないものでした。こんな中で、とりわけ嬉しく思うことがあります。それは、創業以来20年の社員はもちろん、一時在社して、家庭に入った社員が、子育ての一つの過程を終えて復職してくれていることです。さらに親子、夫婦という社員のいることです。どんな理由があるにしろ、再びもとの職場を選び一しょに働くことに定めた事に感謝すると共に、責任を感じております。自己の権利主張を優先する人の多い今の世の中で、企業中心の考えに立って働いているこの人たちには、他人事と考えられないものがあります。

これからの一年一年は、この20年にはなかった変動があると考えられます。これに対処するため、全社員が一丸となってあたねばならないと思います。内にはまずメーカーとしての体質強化、それも世の要求に即したものでなくてはなりません。創業以来50年の経歴は、ともするとこの際ブレーキになってはなりません。前向きに、たえず前進しなくては進歩がないと思います。この20年の協同の考え方を基にして、実に団地の進展に向って何をなすべきかを考えると共に、自らの覚悟を新たにする日であると考えます。

随 想

三ヶ尻工業株式会社

取締役社長 三ヶ尻 隆 治

幾人かが上野駅に集り鈍行の東北本線に乗り古河駅に向った。今日はこれから造られる工場の現地見学であった。約1時間後に古河駅に到着した。昭和38年3月関東名物の空風の吹く寒い午后であった。

一行はまだ見ぬ総和村の工事現場へと車を飛した。通路はこれか県道かと思われる程悪く時々自動車の屋根に頭がぶつかる事も度々であった。駅より6kmと言う短い道のりなのに道路の悪いのには実に驚いた。程なく現地に着いた、現地では早くもブルドーザーが入って盛んに山林を切り開き乍ら造成の真っ最中で有った。5万坪と言う広い土地が目の前に広がり何如にも21企業が集団で移転するのに相応しい広大なものだ。現地作業所の事務所に入り鹿島建設の職員達から現地の事に就て種々説明を聞き指差す方を見ながらあの辺りが社内の道路であるの辺りが工場の敷地と聞いては居たが何かしら感ずる事が無かった。

こんな山林と畑の真中に来て近々に工場を建設し作業やるのかと思うと一抹の不安を感じざるを得なかった。従業員は幾人が東京から来るにしても、後々募集が出来るのか、又来た工員も生活環境が大分違うので果して勤めて呉れるのか色々な問題が矢継ぎ早に考えられた。工場が移転した場合やってゆかれるのか判断に苦しむ程で、たとえば東京に完成品を運ぶにしても、又東京から材料を持って来るにしてもあの道路では果して製品を満足に輸送出来るのか悪い事が後から後から考えられ、何共言い知れぬ気持ちで一杯だ。資金は全部借入金にしても月々の返済はどの様にするのか膨大なる借金はどうの様に返済するのか考えるだけでも大変だ。

鹿島建設の職員はさも誇らしげに話しを続けて居た。あの辺りが事務所でそこは食堂で野球場はあそこですよ、振り返り乍らあの辺りは全部住宅ですよと念入りの説明して呉れるのだが余り身に入らなかった。幾月か過ぎて現地に来た時は悩みも不安もよそに工事はどんどん進行して居た、古河駅から団地迄の距離は非常に遠い道のりだ。食事は、又色々な買物はどの様な処を利用するのか、何にかに付けて頗る不便だ農家は広い畠の真中に点在して居るだけで全然商店はなく総和村役場付近迄行けば商店も有り日用品の買物も出来るとの事だ、雨上りの日など道路一杯に水が溜り茨城では道路で金魚が飼う事が出来るよ

と迷言を残したのも6月或る日の事だった。

昔先駆者達が、見知らぬ土地に来て、開拓に従事され、田畠を開墾された事は精神的にも肉体的にも、これ以上の苦しみを味い乍ら活躍され、完成を目指して努力された結果ではないだろうか。其れを思うとこれ位いと考える事も度々であった。どの社長も同じ考えでは無かったろうか、21企業が幸田理事長を中心に間近に完成され様とする団地を中心に、対話がかわされ、皆と真剣な眼差しで話しを聞き入る事も度々であった。

昭和39年10月3日通産省指定と中小企業高度化政府助成団地として配電盤茨城団地協同組合の竣工式が茨城県内各分野の代表者を始め総和村高橋村長多数の有名人の方々の御出席を載き秋晴の好天に恵まれ盛大に取り行われた、次々に代表者より祝辞が述べられ茨城県代表の一人は県内にこの様な団地が完成された事は県の誇りだと述べられ高橋村長は長期に亘り団地の為に活躍された人だけに自分の事の様な喜びで此の様な立派な団地と隣組になったのだから今後共村民一体となって、団地の為に尽力を惜しまないと声高々に申された。幸田理事長はこの団地は、我国団地の先き駆けとして全員一致協力の許に本日堂々と完成された事は前途洋々たる事と強調された。折柄上げられた花火と共に祝典はクライマックスに達し出席された社長達を始め会場の人々は興奮の坩堝と化し感激一入におおわれた。永年に亘る理想がここに報われた事を喜び合いこれからは緊蹙一番団地の発展を誓い合い重大なる決意を痛感した。

東京配電盤工業会会員160社より分離して21企業が第2の故郷総和村へ来て生産の第一歩を踏みだしてより早くも20年幾度か味った苦しみも哀しみも固い団結で乗り越える、一社の落後者もなく本日を迎える事の出来たのも感慨無量だ。

光陰は矢の如しと言われるが月日の立つのは実に早いものだ而し乍ら20年の間に団地建設に精根こめて活躍され途中病に侵され他界された7氏に対し心から哀悼の意を表する次第だ。竣工以来7氏は団地の為に尽力し一方ならぬ貢献された功績に対し一端を伸べて見たいと思います。

株式会社田原電機製作所社長田原一郎氏は温厚篤実な人物で容姿風貌が良く似て居るので、会員一同から今天皇という愛称で親しまれ会議の席上でも謙虚な気持で応対し適確な発言力で会議を好転へと導き良き理解者として尊敬され理事として理事長を補佐し団地発展の為に尽力された事は人後に落ちない人物と言え様。

宇賀神電機株式会社社長宇賀神金四郎氏は港区会議員として27年の長きに亘り港区民の代表として良き理解者となり東奔西走寝食を忘れて活躍された功績により従5位を受章された。政治と事業を両立せられ現在の宇賀神電機の揺ぎなき地位と礎を築かれた社長で団

地に於ては常務理事として理事長の良き相談相手として公私共々寄与し揺ぎない努力を続けられた人物と言えよう。

株式会社大口電気計器製作所社長は謡曲の道20年のベテランで結婚式の席上で良く聞く事の出来た思い出の一人だ。団地に於ては金融委員長の一職に有り団地の御意見番に相応しい曲った事の大嫌いな人で意志の強い事と几帳面の所は業界一で21企業の資金ぐりには人知れず悩み続けられた事と思う然し聡明な人柄だけに誰れにも何等非難される事なく公平な処置が好感されたので重要な要職を完うされたのではなかろうか。

三国工業株式会社社長羽田伝一氏は六本木ライオンズクラブが昭和48年10月結成されるや第二副会長として奉仕活動に参加され社会の為に貢献された事はひめられた功労者と言えよう。団地に於ても良き理解者の一人で協力的で何事にも率先垂範にして実行され顕著なる功績を残された人物だ。事業にも頗る意欲的で近代機械の導入には相当関心も強く現在使用されて居るNC工作機械ワイヤーカットは我が国が誇る最新精密機械で君が病床に臥れて居る時に契約を調い諸手続きも完了されて居たとの事、今は完全稼動し立派な製品を作り上げ多大なる成果を上げられて居る由、如何に君が先見の明の偉大であったかが伺われる。

荏原電機工業株式会社社長久保田正氏は茨城団地協同組合が結成されるや理事を経て副理事長の一職に就任せられ長期に亘り立派な成績を上げられ完遂されるので有る。あらゆる面にも活躍され現在団地の基礎を築かれ其の功績は顕著なりと言えよう、昭和54年5月東京配電盤工業協同組合が結成されるや初代理事長に就任せられ持前の聡明で計画性に富んだ能力を十二分に発揮されたのも人徳のある故か。これからも何かと今後大きな期待をかけられて居る人だけに、まだ若いのに誠に惜みある人物と言え様。

大矢化学工業株式会社社長大矢武雄氏は立志伝中の人物として高く評価され又家庭でも良き父でも有ったとの事だ。団地に於ては会計監査として温厚なる君は、誠実をモットーに長期に亘り役職を遂行されたので有る。事業には率先して革新を図られ、塗装工場としては関東一日本一としての規模と偉容を完成させ、強い意志の持主で団地有数の人物の一人と言え様。会社百年の大計を図られ磐石の大成を調えられたのも、長期に亘る弛まぬ努力の賜のか偉人と言うべき人物ではなかろうか。

東京配電盤工業会専務理事小倉敏秀氏は昭和25年4月僅か拾余社で配電盤機器工業会が発足するや早速専務理事に就任せられ会員増強を図られ持前の能力と才知を十二分に発揮せられ従横無尽に活躍せられ僅か数年にして会員数160余社と堂々たる大工業会に成長させたので有る。其の努力ぶりは賞賛に値いするのではなかろうか。

君は都内に於ける工場騒音、拡張等困難なる事を感知し工場移転に関心を持たれ地方県に於て工場誘致して居る事を知り事務局長として同じ考えの人々と共に見知らぬ土地に行き場所の選定価額の交渉等に関係せられ下大野地区50,000坪久能地区20,000坪柳橋地区10,000坪計80,000坪の土地の成立を見たのである其れが今の団地の全貌で有る。君が如何に苦勞を重ねられたか君の独特の社交性を十分に發揮せられた結果ではなかろうか。

以上7氏の数々の功績に対し心から感謝申上げると共に貴殿達の意志を無にする事なく必ずや永く後世に受けつがれる事を確約し草葉の陰より何時迄も見守って下さる様御願い申し上げ謹んで7氏のご冥福をお祈り申し上げます。

団地創立当時の思い出

株式会社港工業所

代表取締役 中 谷 俊 衛

思い出せば昭和36年、現幸田理事長より工場団地用地についてのご相談を受けました。当時我が社は、現本社所在地にあった東京工場においてエポキシモールド製品を製造しておりました。その頃産業界には技術革新が叫ばれつつあり、当社も合成ゴムの圧熱成形加硫によるゴムモールド製品の開発を企業目標と考えておりました。併し、東京工場においては設備・環境条件などから今後の運営は困難と考え、地方進出の計画をしていた時であり、喜んで工場団地に用地視察に参加させて頂くことになりました。

貸切バスで集団現場視察となりましたが、現地は森と田畑の織りなす広大な関東平野の真中にあり、雑木がうっ蒼と茂っている有り様でした。

この工場団地は、通産省の集団化助成団地として、国や県その他多くの公共団体のご支援と各社のご努力により発足し、次第に基盤を固めてまいりました。

工場団地の発足に伴い私も建設委員の一員として、完成のために微力を捧げてまいりました。この間完成を見るまでには苦しい事も多かったように思いますが、改めて思い出してみますと、ユーモラスな懐かしい一面もありました。

“総和村の郵便受は茶色だった”ことが記憶に残っています。

総和村の郵便受は、なぜ茶色でしょうか…。日光街道から配電盤団地に通ずる道路は舗装もされていないため、一度雨が降るとぬかるみとなり、この悪路を工場団地造成のトラックが頻繁に走り、泥水は郵便受や民家の生垣などに飛散し、赤い郵便受けも、緑の生垣

も茶色に変わったという事です。

各社の社長さんや委員さんの乗用車も泥だらけで工場に到着してすぐ洗車、東京に帰って又洗車、更に車の中には何時もゴム長靴を用意しなければ……といった状態でした。

今日では総和町の郵便受も屋根瓦もカラフルに、緑は生き生きと輝き、20年前のことがユーモラスな一コマとして思い出されると同時に、感慨無量なものがあります。

山林の造成から工場建設、社員住宅建設と一時も目の離せない状態の中で、各工場の電力設備においても特別高圧60 kV の共同受電が話題となり、私も建設関係委員の一人として設計事務所、鹿島建設、関東電気工事等の関係機関との協議、或いは通産省の施設課長のもとにお百度参りをしました。併し最終的には保守、経費等の経済性を考えて高圧6 kV の各工場単位の個別受電となりました。

各工場、各家庭へ供給する水源についても、何度か水槽塔に昇り水槽タンクの内部点検等を行ったこともあり、今更ながら若さの貴重さを思い知らされております。

高い水槽塔には雷の多い地域のため落雷が多くポンプに損傷を受けたこともあり、豪雨の中を走り回ったこともありました。当時通産省工業技術院電気試験所の雷研究の先生方が当社に工場の敷地内で雷頻度の測定を行い、その雷頻度の多い事にも驚かされると同時に避雷針に対する認識をあらたにしたものです。

昭和38年、愈々茨城工場の操業に向けて製造設備、試験設備等の移動が開始されました。社員も将来への夢と希望に満ち溢れ、本当に張り切ってやる仕事ぶりには目をみはるものがありました。

丁度その頃台湾電力公司との貿易による受注も決定し、新しい工場の中に15 kV 級のPT, CTを数百台並べての立会検査の様子は東京の工場では全く考えられないことでした。特別高圧60 kV 級の大形PT, CTを何台も並べて試験検査の出来る工場完成に満足と喜びを感じたものでした。

20年を経た今日、工場団地への道路環境も整備され、団地内の厚生施設も完備され、各企業の繁栄ぶりに、当時泥にまみれ、虫にさされ、努力してきたことがまるで夢のように思い出されます。

今後30周年、50周年に向って、若い次の時代を担う皆さんと共に、心をあらたにして邁進し、益々の発展を祈りながら筆を擱きます。

配電盤茨城団地協同組合

株式会社樋口製作所

取締役会長 樋 口 重 蔵

団地組合設立20年を振り返って見る時、吾々配電盤製造業者にとって、日本の製造工業が、いかに大きな発展を遂げたか、はかり知れない程であります。

当団地を建設する最初の目的は、東京配電盤工業会の40数社が、キュービクル式高低圧配電盤の認定品を作る目的で、協同の板金工場を作ったらとの意見が出て、東京都内での工場拡張は1,000平米以上の規模は、都条例で禁止されてゐたので、隣接の神奈川県下の土地を物色中、東京商工会議所に茨城県の総和村で工場誘致の申出がある事を聞き、幸田電機白川電機樋口製作所の3社長と東京配電盤工業会の小倉事務局長の4名が、総和村役場を訪れて高橋村長に面会し同村長より、工場受入れの希望を熱心に説明され、直ちに助役に命じて同村の工場地としての候補地を同村下大野・元飛行場跡・他1ヶ所の3ヶ所を案内されて視察の結果、下大野の現在の配電盤団地が、同村の中央にあって大雨が降っても洪水の心配もなく、国鉄東北本線古河駅より7軒程度の平地で交通至便、地質も大部分が山林の爲め非常に良好で重量物の製造、運搬等何不安なきことを確かめ、工場団地としては最良の土地と見て村長に交渉し、直ちに団地建設を進めることとなったのであります。

幸田電機社長より団地として進めるには、協同組合を結成し国の資金を借入れて立派な団地を造ろうじゃないかと励まされ、直ちに多数の希望者の中より選別して配電盤業者と関連業者計21社で協同組合を結成することとして発足したのであります。

建設に当っては21社の社長が各自共同事業。担当項目を決定し、理事長には幸田電機の社長幸田氏に決定して直ちに団地の事業を進めたのであります。

敷地総面積15万平米の大団地建設については工場設計で国内随一の大家山下寿郎建築設計事務所に依頼して団地内の建物道路その他全団地の配置を設計され、建設については鹿島建設株式会社に全工事を依頼し昭和39年10月全工場が操業を開始したのであります。

(色々困った事)

1) 土地買収について

土地は大別して農地(田・畑)と山林(雑木林)で山林は簡単に工場団地として認められたが農地は食糧生産の高め農林省の許可を得る必要があつて茨城県知事より農林省の許可を取った上でないと工場団地としては許可がなかなか下りないで困った。

- 2) 久能住宅の地内に居住していた地主が他に転出してその子孫達の住所を調べて売買登記するのに大分日数がかかった。
- 3) 全地内に元地主等の古い墓場があって売買価格移転登記等に多くの日数がかかって困った。
- 4) 団地工場の地割の坪数によるABCの広さと場所をくじ引で決定することとし場所の良否に坪単価に差を付けたらと提案したが却々むずかしい問題で、悪い場所に当たった会社は運が悪かったと諦めることとして全部くじ引で決定した。
- 5) 共同食堂の経営は材料を仕入れて喰べる様にするだけと簡単に考えていたが、毎日の食事は各自の好みがあって、却々むずかしい問題で自然と好むものが多く出るからこれは食堂で常に考えて無駄にならぬ様注意して段々良好に進んで行った。

思い出すま20年の人々

株式会社大口電気計器製作所

元工場長 儘 重 男

昭和39年7月夜空にきらめく星を見た時、都内より来た夜の最大の感激であった。悪路の土埃を浴び乍ら車で着いた夜、これがほんとうの清浄の空気なのだ！社宅群の内電灯の灯って居るのは日幸電機の社宅と港さんの先遣部隊の下條さんの家だけ、お近付きの挨拶に下條さんと日幸電機の鶴谷さんへ参上したが少々心細かった。聞かった。もう少し電灯の明りが慾しかった。然し開拓者としての希望と期待に胸ふくらまして荷物を解いた。

翌月下大野分校の盆踊に行つて夜空に浮ぶ提灯を見、又踊りの輪に入つて故郷の盆踊りもこうであろうかと望郷の念にかられた。

その後漸次社宅の住居も殖えたが道路の悪さは直らず、土埃に悩まされ、雨天には汁粉の様な路面で自転車のハンドルは自由にならず古河への日用品の買出しは国鉄バスの回数少ない事で台所も随分苦労した模様であった。本社との連絡電話も朝申込んで昼前に接続すればよい方で、昨今の直通電話の事を考えると今昔の感一入である。

その中で殊に嬉しかったのは、白川社長が従業員一同を連れて工場、社宅を見学に来られた時、立寄つて下さった事。あの磊落な風格で空いている社宅にお招きし風呂を湧して差上げ、裸で涼をとられ心をきなく寛がれて頂けた事であった。嬉しかった。

その時社長の紹介で中野工場長と名刺交換し初対面の挨拶ができた。

開業当時の工場長諸氏への思い出は、実によく各自の連絡のとれて居た事で、お蔭で団地内外の事情もその後の動きも聞かれた事で、殊に当時最大の難事であった求人活動では私は諸氏の一方ならぬ御厚意に縋りばなしで、港工業の鶴田氏、三国工場の羽田氏、三邦電機の高橋氏、白川電機の藤倉氏に、例えば各中学、高校に求人活動に行かれた時御自分の会社では不向だが、大口さんでは使えると思うから学校訪問する様にと云はれ、早速バイクで飛んで行って人員の補充をさせて貰った事も再々であった。

毎朝必ず短時間でも組合事務所で顔合せ、各種の情報交換したものだった。この事が私が工場長在職中無事勤め得られた原因であると感謝している。

バイクと云えば、下妻、水海道の職安廻りは辛かった。鬼怒川の土堤を走れども走れども水海道に着かず、途中のだんご屋で一休みするのが通例となってしまった程遠かった。工場へ帰る前一風呂浴びて頭からの土埃を洗はなければ顔を出せない有様になって居た。八千代中が下妻職安、逆井中学が水海道職安で工場には両中学卒が比較的多かったので仕方なかった。然し鬼怒川土堤のだんごはうまかった。

20周年を迎えるに当たり惜しい事は鬼籍に入られた幸田電機の小林氏、光商工の吹野氏日幸電機の阿部氏、キムラ電機の尾島氏、渡辺製作所の田中氏の各工場長で開業当時の苦勞を共にして仲だけに思い出される。

開業式、5周年、10周年と経過するに付いて、社長さん方への思い出は数々あるが、式典の都度、理事長の国内の経済情勢、国際の情勢を蒔蓄を傾けられた論旨で演壇より言語明浙にお話下され、御高令を感じさせぬ御気力には我々一同発奮させられた。又宮田社長の元気溢れる講話に酔いしれ大口社長の君ヶ代斉唱の音頭取りは毎回楽しく唱和させて頂いたが先年物故された。もともと荒蕪の地、総和町に偉大なる団地を造成された社長さん方の御決断は勿論感謝しているが、建物、電気、水道、道路、消防施設等の難事業を担当された中谷社長の御努力の結果も思い出の一つである。社長さん方今後益々御自愛、我々を叱咤鞭撻を！

20年の思い出の締めくくりに社長と工場長のパイプ役渉外の衝に当り我々工場長の先駆となって活躍された中村所長も思い出の中の忘れてはならない人と思ふ。

私とはよく意見を闘はせ、苦言も呈したが、苦言を浴びせられた仲であったが今になって考へると思慮深い言行の人であった。

^{きゅうり}酒遊利会 この会は幸田電機の小林氏の発案で当時酒豪の人々の酒量調節に役立てばとて、小林氏の命名で小林、鶴田、羽田、大矢、中野、鳥居、中村、儘、諸氏が儘宅に毎月1回集まって、日頃の愚痴話しの発散場所とし、歓談、漫芸に一夜を過したが思い出も懐

しいが短い寿命であった。

思えば20年苦しい年も多かったが記憶に残って居るのは楽しい事の方がより鮮明に浮んで来る。団地の皆さんよ、今後の発展は皆さんの双肩にある。頑張ってくれ。

工場長座談会

於団地事務所二階会議室

出席者（発言順）敬称略

宇賀神電機㈱	渡辺 稔	㈱日幸電機製作所	小倉 徳次
光商工㈱	浜野 光隆	㈱港工業所	中谷 俊一（社長二世）
㈱渡辺製作所	中村 一	荏原電機工業㈱	伊藤 光夫
ハイデン工業㈱	森 恭次	大矢化学工業㈱	大矢 三次
㈱幸田電機製作所	杉浦 盛治	三邦電機工業㈱	高橋 登
司会 宮田電機㈱社長	宮田 優	㈱白川電機製作所	鹿島 勝利
当団地事務所長	中村 宣夫	㈱大口電機計器製作所	鈴木 邦夫

司 会

今日はお忙しい所皆様に御出席いただきまして有難うございます。

団地も今年20年を祝う所まで参りました。当団地開所当時の工場長さん。又前任者を受けつがれた方等おられるわけですが、開所当初の御苦勞とかと引継いだ頃の苦しさとか、種々おありかと思いますが、思い出話をおひとつ聞かせて下さい。

日幸さんあたりが39年6月頃から稼働なさったんではありませんか？

小倉工場長（日幸）

39年7月頃一応本社から30名連れて若干の現地採用者を混えてスタートしました。最初の感じでは会社の中に灯がついたと云う感じでした。残業をやっていると「ハト虫」が飛んで来て残業にならずに帰った事などありました。道路は悪いし、商店はないし、品種も品数も少ないし、仕事を終ってから途中の酒屋さんで立飲で一杯やりインスタントラーメンを喰べて帰りました。

中谷工場長（港工業所二世）

私は学生時代に連れてこられて、やはり食事ですね。先ず四号線を車でやって来てバンを買い砂利道を走り、夜は1戸建ての社員住宅にとめてもらう。いやだったのは帰ったからの車掃除でした。今の様に洗車装置のない時代に泥落しが一番嫌だった。

伊藤工場長（荏原電機）

先代社長につれられて39年9月に来て、えらい所に来てしまったなーと思いました。下山から来る道路ではバスの中で跳び上って頭をぶっつけた事をおぼえています。道路がいくら砂利をまいて呉れても洗濯板のようになることが3、4年続きましたね。

残業では虫が多く窓をあけたりしめたりの繰り返しです。通勤はどろんこ道を自転車通勤が殆どでした。それにバス通勤です。これに工場長会の役員ばかりやらされて運営委員とか、どんな事をやればいいのか少しも判らずこまりました。クリスマスパーティーでは本を買って来て1週間位勉強したり、自分達で駆けずり廻り、社長には何をやってるんだと言われました。

大矢工場長（大矢化学）

39年8月の盆休みを利用していただき引越してまいりました。暑い日で家族一同の他2名家族持ちが1世帯と独身1名でした。以前建設中に資材の持込で1回又本社の方々の希望者と団地見学をやり帰り路ヘルスセンターへ寄った事を思い出します。当時吾々サラリーマンで東京で一軒家が持てない時代に一戸建ての家へ家族と一所に住めたのは運が向いて来た様に思えました。日常生活では子供達の転校問題が印象に残っています。4月に目黒の小学校へ入学、8月に転校。下大野小学校へ転入学第一陣だと思います。何しろ地つきの勢力が強くて淋しくなり学校へ行くのがいやだと言うのです。校長先生、担任の先生と話し合い、どうにか手を打ってもらい、それから子供が喜んで行く様になりました。子供の為にはマイナスだったのではとの思いもあります。

東京から出される時は故社長から、あそこは米も野菜も果物も何でもある所で生活には困らないだろうと聞かされましたが。何もいい物がなく、生産者だけのここでは良い品は全部東京方面へ出し、ここに残るのは等外品しか店頭にない。古河の町まで長い時間かけて買物し経費も随分かかりました。

仕事の面では工場が出来たとは言え、オーナー同志が集って笑顔で話し合い出来る時代ではなかった。仕事で朝から晩迄どなられて家へ帰って頼るのは酒でした。

又土地勘もなく知人もなく現在と違い情報集収が困難で新規採用には骨が折れました。それに人の新陳代謝が激しく当時の人で残っているのは1.5%か2%位です。その当時は仕事をあげることが手一杯で採用については責任者として土地の勉強などする余裕がありませんでした。

高橋工場長（三邦電機）

39年9月後半先に10名程よこし私は東京で年末迄整理にかかり正月単身赴任で来て、寮が出来ていないので独身者は倉庫を寮として住み私も一緒に住みました。土曜の夜は東京へ帰り、若い連中と騒げない時などは工場の庭で月を眺めて独り朧月夜に家族を思い約半年後、子供達を納得させ、8月の夏休み社宅も出来たので中学3年の子には音楽好なのでステレオを買ってあげる条件つきでした。なけなしの金をはたき1セット買っ

た事、環境的には厳しかった。

苦労は従業員の定着で1, 2年ですぐやめられる。この様なことが6, 7年続きました。東京からの人はかけていないが地元採用は開所当時の者は殆んどいません。又20年近くいる人は昔の悪い癖であげ膳, すえ膳の癖が未だに抜けきれず, これからの人に悪影響を与えているのではと思います。それに仕事の無い時代で毎日の仕事をどう与えどう過させるか苦勞しました。配電盤さんは草むしりばかりしていると近所の人から言われた。又キュービクルを発送しても無事に現地に着いたと連絡がある迄落つかなかった。慰めは社宅へ帰る途中呼びとめられては冷酒をあおる位が楽しみで, お互いに慰めあい乍らなんとなく20年経ち, 今では多勢の知り合いが出来て喜んでいます。

鹿島工場長（白川電機）

私が一番若くて, 四代目工場長です。本社では責任感もなく, こちらへ来る時は東京へ憧れて就職したので又田舎へ来るのは嫌だった。同年の人では大分やめて行きました。よくよく考えた末に家が持てるんだと, 東京ではアパート生活しか出来ないのにとふんぎりをつけました。

第一便として機械の据付けや配電盤を組立てするのにやって来た人達の話では店もないし, 遊ぶ所もないとの事で, こちらへ来る1週間前にはパチンコ屋へ通い, 歯ブラシ, 石鹼, 煙草等を集めたおぼえがあります。又足がないと言うので運転免許をとり, 車も買いました。道路の整備は悪いし, バスは古河へ3回位しかない。こちらへ来れば金は必要ないと言われた記憶が有るが, それ以上に金がかかる気がした。

20年たって私個人としてよかったし, 会社としてもやって行ける事が非常によかった。こちらへ来ても東京への憧れはあり, 毎週日曜東京へ行き, 新宿の地下街などへ入ると息苦しく感じる, こちらへ来れば空気がよかった。来たばかりの頃夜は寒いので手袋靴下, マフラーをつけて寝ていた思い出があります。

鈴木工場長（大口電気）

最初からだ二代目です。39年7月に来て東京から男7人で8月1日始業です。先づビックリしたのは8月のお盆休みです。8月13日か14日朝来たら東京からの7人だけで他は誰も来なかった。理由が判らなかつたんです。単身赴任で来て吾々のお盆は7月でした。

それに自炊でしたが長く続かず1週間に何回か朝昼抜きで夜は何所にもないので古河へ車で喰べに行きました。

渡辺工場長（宇賀神電機）

私は3代目ですが最初から来ていました。8月の初め6名来て下旬に7名、約1年間は12～3名で働いていた様に思います。その後第3陣7～8名が来て計20名でやりました。

食事については寮に食堂の設備がないので農家の人が作って、リヤカーで運んで来ました。休みの日は北利根団地へ山菜取りや田圃のザリガニとりを寮生と一緒にやったことをおぼえています。

仕事では本社にいる時は不足部品はすぐ手に入ったがここでは2～3日たたないと揃わずとまどいました。

現地採用しましたが当時5年間位は2年位でやめられる事の繰返しでした。

こちらへ来た当座は田舎へ戻った様な気がしましたが、東京ではベットの上にいる様な生活でしたが、こちらへ来て、立派な寮で6帖の広い部屋に住わしてもらい、各自の生活が出来た事は私だけでなく全員よかったと思われたのではないのでしょうか。東京ではアパート生活しか考えられなかったのに建売住宅とか小さくとも吾家が持てた事は、社長さん方にそう言う形をとっていただきよかったじゃないかと思います。

浜野工場長（光商工）

私共の会社が来ましたのは40年の1月29日引越して来ました。私の結婚式の日でもありました。社宅があると言う事で急遽結婚して30日赴任と言う事で慌ただしく新婚旅行をして来ましたので印象に残っています。又私共の新しい門出が総和町でスタート出来た喜びでもありました。

私は四代目工場長です。初代吹野工場長で15名位でした。その当時漏電警報器が法制化されて忙しくなり、現地採用の女性を約50名程採用しましたが、知らぬ土地で人を指導するのには苦労しました。

あと印象に残っているのは道路が凸凹道で又2、3月頃の西風に砂嵐が舞って、製品が埃をきらうので防ぐのに頭をなやませました。東京から来た若い人達は淋しいのか毎晩酒盛りをやっていました。1年位続いた様です。又古河へ自転車で遊びに行った様です。

人数は増えたり減ったりでしたが現在50名位です。又結婚等で入れ替りもあるが何人かの人は勤続20年の人もいます。東京から来た人は転勤等で少なくなり小堀課長と2名で後は現地採用の人ばかりです。憧れの1戸建は今は空き家で独身寮も今は入っている人もなくもったいないと思います。結婚して表へ家を持つ事は喜ぶべき事でしょう。

最初知らない所で不安でしたが沢山知人も出来たし、会社もマアマアで地元へとけ込

んでお役に立つのではと思います。

中村工場長（渡辺製作所）

私は42年8月に来たと思います。会社は39年11月に操業開始です。初めは会社をこちらへ移すと言う話もありましたが様子を見てからと言う事で、組合から配分のあった現地採用の事務員を採り留守番として男子2入、古い工場長さん方は御存じかと思いますが会議には岡安と言う事務員が2、3回位出たと思います。半年位でやめました。40年の夏初代の田中さんが来て54年迄15年位頑張ってもらいました。一番最初引越しの時ですが、42年頃の話です。食べ物屋が1軒ありましたが店が休みで東京から応援に来た人々の食事も自分の所で用意した。刺身なども真黒なのを買って来て喰べた。刺身好きの私にはつらかった。

その頃の創立記念日はバレーボールと野球の大会等があり文化祭が楽しみでした。たしか5年位つづいた様に思います。

森工場長（ハイデン工業）

43年5月に採用していただき一番感じたーは福利厚生施設が整った団地だと思いました。プール、野球場、テニスコートとそろっており文化厚生事業が活発に行われ、クラブ活動が盛んでした。この様にやれたことはやはり各工場長さん方が骨を折って苦勞されたからでしょう。

杉浦工場長（幸田電機）

森さんと同じく、福利厚生施設環境の良さを思います。仕事に携って見ても工場長会の組織がしっかりしているチームワークのとれた理想の団地だと思います。友達にも茨城団地は非常に良い所だと自慢しています。個人的な話ですが女房が体が弱く占ってもらったら東北へ越す様にとありました。茨城は田舎だなーといいやや単身赴任で来ましたが皆親切で周りに暖い人情味を感じ娘の結婚式を終らせて4ヶ月後に女房を呼び今では夫婦2人で楽しく過しています。

司 会

皆さんのお話で苦勞の程がよく判りました。大矢さんからありました、工場として隣り近所の付き合いがかけていたが工場長会を通じてのコミュニケーションがよくなった。工場長会をこれまで組織するのに種々御苦勞があったと思います。過去の工場長会と現在の工場長会のあり方等について古い方から、お話し願へませんか。大矢さん、高橋さん、伊藤さん如何です。

大矢工場長

昔と今の比較とか未来はどうあるべきかの話題はいつも出るんです。最初のうちは工場長は全員久能住宅に住んでいましたが今では殆どが外へ家を買って出てしまい、残っているのは数名しかいません。皆さんが此所へ来てそれだけ幸せになったのだと思います。昔催物をやる時は老若男女を問わず全員参加しましたが、現在ではそうはいかなくなりました。工場長とその家族の構成も違い又住んでいる土地柄の問題もあります。クラブ活動でも年間行事を工場長会で計画していますが昔より情熱が薄れて来ました。今現場の一番働き盛りの、第2のリーダーを探して昔の施設を生かしてどう有効利用するかがこれからの工場長会の問題だと思います。もう20年も経ったのだから娯楽とか人の和とかの問題は各社でも工場長さんの間でも卒業したのではないですか。

これからは社長さん方がこの団地を造った時の基本に戻って各企業間に利益を生み出す方向を探る様にかわって行かなければいけないでしょうね。それには各工場間の疎外感とか業種別感をなくし、どこかがいい仕事をとったらこの協同体を生かして共同生産するとかがこれからの工場長会議の問題になるのではないですか。これがこの団地を造って下さった社長さん方への恩がえしになるのだと思います。

高橋工場長

今迄は工場長は従業員のリーダーとして団地を纏めて行くと言う考えが強く、それで工場長会できめた年間行事など全員参加させてまとめて行くことを望んでいました。私が先程話した労務管理や定着性の事を福利厚生施設を100%生かしてその方向の中でそれぞれの発展を考えていました。

これからは福利厚生1本槍ではなくてこと工場長会議では技術面の交流とか業務上の交流とかを議題にしお互の利益を計る工場長会にならなければいけないと思います。

伊藤工場長

器具とか配電盤の負荷端子とかを各社共通にしたらと思います。今は各社バラバラで器具部品が足りないと東京から取り寄せていては費用の無駄です。電線とか器具の統一を考えたら一番よいと思います。

鹿島工場長

大矢さんの考えと皆同じことを考えています。団地全部で何かひとつ物が出来ればよいのですが。

渡辺工場長

技能検定はよかったですね。これを東京で各社バラバラにやっていたら今の技能者の数にはならなかったでしょうね。これは大変有難い事だと思います。

司 会

工場長会に対し何か注文はありませんか？

中村工場長

格別ありません。

司 会

工場長会の現在を見て将来に対するお考えを一言ずつ聞かせて下さい。

小倉工場長

技能検定も大変よいが先程出た厚生施設では中小企業では出来ない物を持っているので外へ向って結束を誇示出来るので大変よいと思う。共同受託の問題が出ましたが何か一つのテーマをきめて皆で検討してやってみればと思います。

鈴木工場長

こう言う組織では第一段階があり第二段階と進み現在では第三段階位ではないでしょうか。工場長会議ですが大体厚生関係が多いので少し意味の違った工場長会議のようですね。

浜野工場長

先輩の作ってくれた工場長会へ仲間入りして一番先に感じたのは文化厚生委員の方々に手をひばられるのは負担になっています。

最近の若者は価値観の多用化を言うが、工場長が先立ちになりお膳だてて、さあ遊んで下さいと皆をかき集めています。それで喜んでくれるのならいいですが案外義理でつきあっているという感じがします。準備からあと片づけまで工場長がすべてやり、あげ膳据え膳で遊んでいただくのが毎年です。何か方法を考えて自主的にやらせる方法はないのでしょうか。

もう一つは構内の交通問題です。せめてこの構内だけでもルールを守る様態たいと思うのですが、毎年工場長会で決議しそれだけでおしまいになっています。講師でも呼んで講話でもしてもらったら如何でしょう。又各社それぞれ配電盤の外にも業種があるのでそれぞれの技能とか技術の交換の場に使えないかと考えています。先程技能検定の話が出ましたが、これからはマイコンの時代になるのでマイコンの技術を持っている所が講師になって勉強するとか、そんな企画が工場長会にほしいですね。

杉浦工場長

総合して感じる事はこれからの社会が急速に省力化、ロボット化しコンピューター化していくと思います。

工場長会も今迄は文化厚生を主体としてやって来たが技術講習会などが大半を占めるのではないのでしょうか。各社共に省力化ロボット化しても経費の件も大変ですし協同組合を利用して共同で使えるコンピューターを設け、リースで皆が利用する。設計製図もマイコンを使いボタン一つで出来て手間が半分以下になる様考える。この様な共通設備によって利益を生み出すことを考えないといけない様な気がする。

大矢工場長

私共にもっともっと各社長さん方より御指導をいただく事が必要だ。

宮 田

種々御意見を伺い大変参考になりました。皆さんから御提案のあった厚生施設の利用のあり方、確かにあげ膳、据え膳で遊んでいただくの感あります。もっと自主的に同好者が集って相談し工場長がその推進の補助的役割を果たす位になればと思います。共同受託の問題、技術革新の問題等これからの企業の変革について行く為にこれだけ大きな集団があって単なる一企業では出来ない事がやれそうな気がします。

技能検定などは最もはっきりと集団の力を発揮したものではないのでしょうか。こんなに多勢の技能検定合格者を出せたと言う事は。東京都住宅局では指名の条件として1級技能者の数を書き入れ出す様に言って来ました。これは大変大きな効果でした。皆様長時間ありがとうございました。

配 電 盤 団 地 音 頭

白川一郎
小倉敏秀^{作詞}
中村宣夫
藤沢右門
古河盆唄替唄

一、古河の駅から東南一里

雑木林や田畑をならし

明日の世代の明日の世代の街づくり

チャツチャカ トツチャカ 配電盤

トツチャカチャツチャカ配電盤

(嘶子以下くりかえし)

二、団地づくりのかんなんしんく

心あわせて三年みつき

中小企業の中小企業の心意気

三、筑波高嶺に阪東太郎

これにおとらぬ総和の団地

明日の世代の明日の世代のパラダイス

四、国に団地はかずかずあれど

自慢できるよ オープン団地

中小企業の中小企業の 新天地

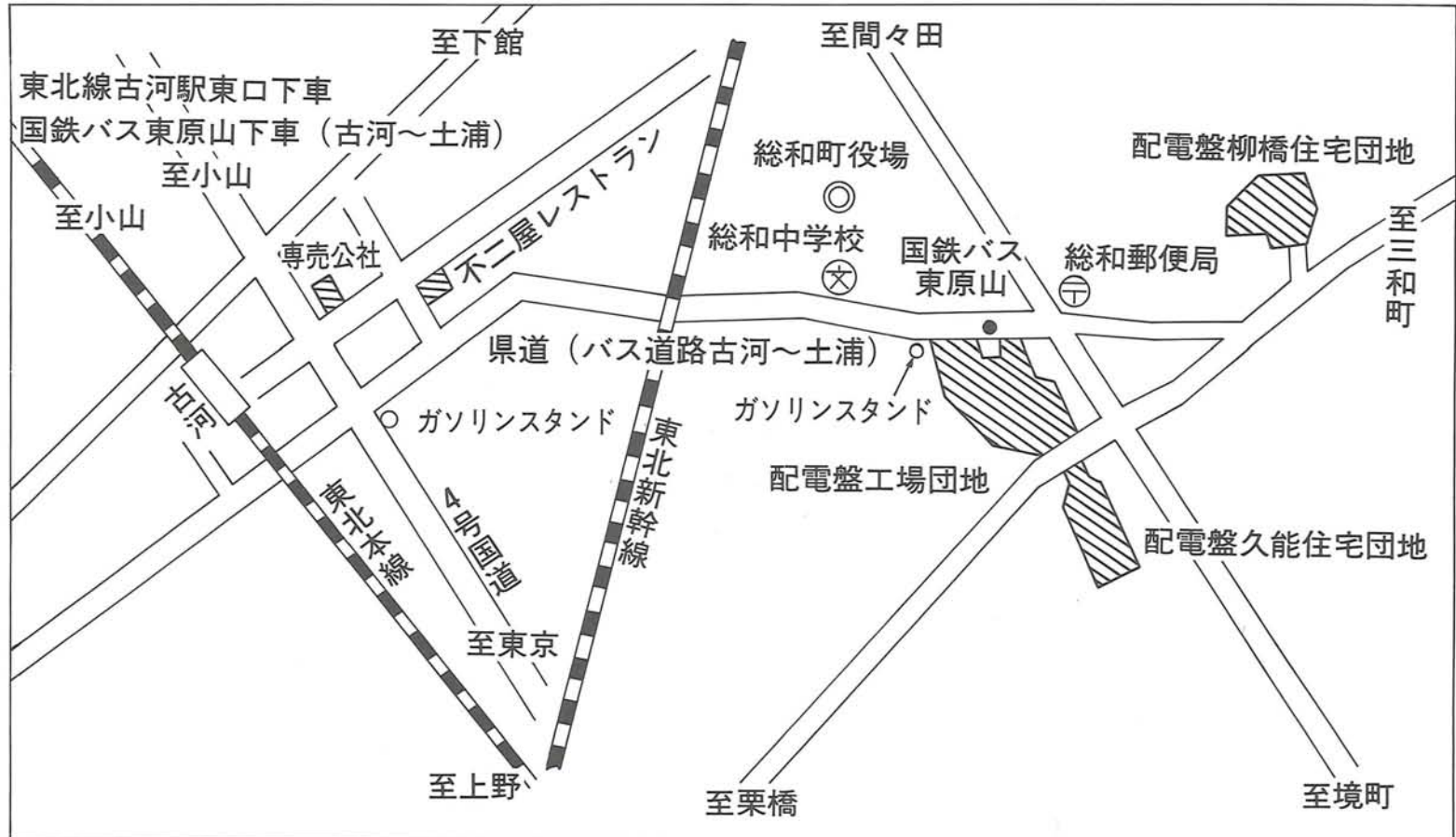
五、団地の年輪年毎ふえて

今や数えて二十年

明日の世代を明日の世代を開く意気

注 5番2行目の「二十年」とある処は、年を重ねるに従い年数を多くして行きます。

団地への交通略図



組 合 員 名 簿

(順不同)

組 合 員 名	代表者氏名	所在地(本社工場)	電 話 番 号		業 種
			本社工場	団地工場	
㈱ 白川電機製作所	白川節太郎	〒152 東京都目黒区 目黒本町2-7-1	(03) 714-2131	(0280) 92-0340	配, 分電盤, 自動 制御盤, キュービ クル受電設備
荏原電機工業株式会社	久保田勝三	〒141 東京都品川区 上大崎3-13-21	(03) 441-0211	(0280) 92-0239	〃
㈱ 樋口製作所	樋口 友作	〒105 東京都港区 芝大門2-4-6	(03) 432-7731	(0280) 92-0246	〃
宮田電機株式会社	宮田 優	〒106 東京都港区 南麻布1-24-6	(03) 452-8531	(0280) 92-0243	〃
㈱ 幸田電機製作所	幸田 秀男	〒152 東京都目黒区 八雲3-10-3	(03) 718-9211	(0280) 92-0926	〃
三邦電機工業株式会社	北川 末二	〒130 東京都墨田区 本所3-22-3	(03) 624-3511	(0280) 92-0755	〃
宇賀神電機株式会社	宇賀神 正	〒106 東京都港区 南麻布2-3-21	(03) 455-1611	(0280) 92-0566	〃
㈱ 旭日電機製作所	古川 高光	〒153 東京都目黒区 下目黒4-23-4	(03) 793-8811	(0280) 92-0358	〃
㈱ 渡辺製作所	渡辺 義男	〒141 東京都品川区 小山1-8-3	(03) 782-4111	(0280) 92-0230	〃
㈱ 田原電機製作所	田原 博	〒183 東京都府中市 本町2-30	(0423) 65-0611	(0280) 92-0255	〃
鷺宮ジョンソン・コント ロールズ㈱	間宮 成夫	〒165 東京都文京区 後楽1丁目1番8号 後楽ビル	(03) 813-4151	(0280) 92-0346	〃
㈱ 港工業所	中谷 俊衛	〒108 東京都港区 三田5-18-4	(03) 440-2221	(0280) 92-1727	計器用変圧器, 変 流器, 変成器
光商工株式会社	村田 光章	〒104 東京都中央区 銀座西7-4-14	(03) 573-1351	(0280) 92-0355	接地継電器, 電気 火災警報器
㈱ 日幸電機製作所	大条 駒雄	〒158 東京都世田谷区 奥沢3-4-1	(03) 729-1171	(0280) 92-0233	ノーヒューズブレ ーカー
キムラ電機株式会社	藤岡康太郎	〒141 東京都品川区 西五反田1-33-10	(03) 492-8511	(0280) 92-0522	表示灯, 端子台, 接続器, 電気部品
㈱ 大口電気計器製作所	山田 稔	〒108 東京都港区 三田5-6-3	(03) 452-5271	(0280) 92-0352	電気計測器, 切換 開閉器
大矢化学工業株式会社	大矢 英男	〒153 東京都目黒区 上目黒1-10-14	(03) 462-2251	(0280) 92-1526	パーカーライジン グ加工, 塗装加工
三ヶ尻工業株式会社	三ヶ尻隆治	〒108 東京都港区 三田5-11-12	(03) 451-1535	(0280) 92-0361	板金加工
三国工業株式会社	羽田 健一	〒106 東京都港区 元麻布1-3-22	(03) 455-1441	(0280) 92-0392	プレス, 板金加工
東京特殊工業株式会社	古谷野 武	〒106 東京都港区 南麻布2-2-11	(03) 451-6206	(0280) 92-0750	〃
ハイデン工業株式会社	幸田 秀一	〒105 東京都港区 芝大門2-11-1	(03) 434-1305	(0280) 92-0014	板金加工

② 団地工場の所在地は21社全部、茨城県猿島町総和町下大野2000番地(〒306-02)です。

株式会社 白川電機製作所



- 本社 〒152 東京都目黒区目黒本町2丁目7番1号 Tel 03-714-2131(代)
資本金 9,900万円 取締役社長 白川節太郎
- 工場 〒306-02 茨城県猿島郡総和町下大野2000番 Tel 0280-92-0340
- 支店 北海道営業所 札幌市白石区菊水八条1-1-3 Tel 011-811-6866
東北営業所 仙台市蒲町字北谷4-1 Tel 0222-88-6265
広島営業所 広島市東区中山西2-5-15 Tel 082-280-3622
九州営業所 熊本市尾ノ上1-1-7 Tel 0963-81-1477
- 代理店 沖縄総業株式会社 那覇市久茂地2-20-8 Tel 0988-67-4446
- 工場敷地 本社工場 780mm² 茨城工場 6621mm²
- 建物面積 本社4階建 1548mm² 茨城工場 2579mm² (鉄工場1棟・組立工場2棟)
- 沿革 大正7年創業, 昭和23年合資会社設立, 昭和29年株式会社変更, 昭和39年
茨城工場操業開始, 昭和44年工場増築, 昭和55年本社社屋新築
- 役員 取締役会長 白川一郎, 取締役社長 白川節太郎, 専務取締役 白川龍弥,
常務取締役 山本昌恒, 取締役 藤倉 修・菊地行雄・小俣昌久・鈴木正
人・石川英治, 監査役 白川 昇
- 従業員 男子103名 女子13名 計116名
(内団地勤務者 男子57名 女子6名 計63名)
- 生産加工品名 キュービクル高低圧配電盤, 自動制御盤, 分電盤, 各種監視盤
- 有資格者 1級組立技能士4名, 2級組立技能士13名, 1級鈑金技能士4名, 2級鈑
金技能士3名, 1級金属塗装技能士1名
- 主要機械設備 直結ボール盤8台, ベンダー2台, シャーリング2台, トンブル1台, コ
ーナーシャー1台, 切断機2台, アイアンワーカー2台, セットプレス2
台, セレストッカー1台, アーク溶接機10台

荏原電機工業株式会社



本 社 〒141 東京都品川区上大崎 3-13-21 Tel 03-441-0211(代)
資本金 2,000万円 取締役社長 久保田勝三

工 場 〒306-02 茨城県猿島郡総和町下大野2000 Tel 0280-92-0239

工場敷地 本社工場 2,498mm² 茨城工場 6,600mm²

建物面積 本社1,063mm² 茨城 1,650mm²

沿革 昭和10年創業, 昭和13年株式会社, 組織として設立, 昭和39年配電盤茨城
団地第一次工事竣工, 昭和45年第2工場増設

役員 取締役社長 久保田勝三, 専務取締役 野上 武, 常務取締役 落合 中,
取締役 伊藤光夫・北原兼男・後藤勝夫・御厨文武

従業員 男子49名 女子14名 計63名
(内団地勤務者 男子16名 女子6名 計22名)

生産加工目名 高低圧受配電盤類, 分電盤類及び制御盤類

有資格者 配電盤電気機器技能士3名, 配電盤電気製図技能士1名

主要機器設備 旋盤5台, フライス盤4台, ボール盤29台, シャーリング5台, 電気ドリ
ル27台, クレーン3台, 油圧圧着器8台

株式会社 幸田電機製作所



本社 〒152 東京都目黒区八雲3丁目10番3号 Tel 03-718-9215(代)
資本金 800万円 取締役社長 幸田 秀男

工場 〒306-02 茨城県猿島郡総和町下大野2000番 Tel 0280-92-0926

本社営業部 〒141 東京都品川区上大崎2丁目24番18号-1101 ストックビル11F
Tel 03-490-7701

工場敷地 茨城工場 9,900㎡ 建物面積 3603㎡

沿革 昭和2年創業, 昭和13年株式組織, 昭和39年茨城工場完成, 昭和42年本社ビル新築, 昭和45年茨城第二工場竣工

役員 代表取締役会長 幸田秀一, 代表取締役社長 幸田秀男, 取締役 大條駒雄・幸田和男・杉浦盛治, 監査役 福島一雄

従業員 男子70名 女子35名 計105名
(内団地勤務者 男子60名 女子30名 計90名)

生産加工目名 高低圧配電盤, 分電盤, 自動制御盤類, グラフィックパネル, 端子盤等,
気送管設備, 一般鈑金, プレス加工, 電気工事

有資格者 配電盤組立二級技能士12名, アーク溶接士3名, 電子組立二級技能士4名,
電気通信工事士1名, 電気工事士3名

主要機械設備 スケアシャーリング1台, プレスブレーキ1台, アングルカッター1台,
パワープレス1台, 旋盤1台, ラジアルボール盤1台, アーク溶接機2台,
油圧式端子圧着器1式, クレーン設備1式

宇賀神電機株式会社



本社 〒106 東京都港区南麻布2丁目3番21号 Tel 03-455-1611(代)
資本金 4,700万円 取締役社長 宇賀神 正

工場 本社工場 同上
古河工場 〒306-02 茨城県猿島郡総和町下大野2000
Tel 0280-92-0566(代)

支店 茨城営業所 同上
千葉営業所 〒272 千葉県市川市市川3-4-10 Tel 0473-25-2456

工場敷地 8,430mm² 住宅用敷地 6,100mm²
建物面積 2,300mm²

沿革 昭和2年創立, 昭和22年株式会社組織, 昭和37年配電盤団地に工場建設,
昭和39年第一工場, 45年第二工場稼動, 昭和47年千葉営業所開設, 47年第
三工場稼動

役員 取締役社長 宇賀神 正, 専務取締役 寺内庄一郎, 常務取締役 久保田
吉男, 取締役 成宮寛治・鳴原一男

従業員 男子93名 女子12名 計105名
(内団地勤務者 男子53名 女子3名 計56名)

生産加工目名 コーコンス2000(コンピューターシステム製品), 監視盤, 制御盤, 高低圧
配電盤, 分電盤, キュービクル他

有資格者 電気主任技術者2種1名, 3種1名, 社会保険労務士免許1名, 衛生管理
者2名, 配電盤電気製図技能士(設計)1級3名, 2級5名, 配電盤電気
機器技能士(組立)1級5名, 2級13名, 配電盤板金技能士(板金)1級
1名, 2級1名, 電子機器組立技能士2級3名, 職業訓練指導員設計2名,
板金1名, 電気工事士13名, ガス溶接技能士7名, アーク溶接技能士11名

主要機械設備 油圧ベンダー2台, アイアンワーカー1台, コーナーシャワー1台, シャ
ーリング2台, バイブルシャー2台, セットプレス1台

株式会社 樋口製作所



本社 〒105 東京都港区芝大門2丁目4番6号 Tel 03-432-7731(代)
資本金 1,200万円 取締役社長 樋口 友作

工場 〒306-02 茨城県猿島郡総和町下大野2000番 Tel 0280-92-0426

工場敷地 4,702mm²

建物面積 1,155mm²

沿革 昭和12年創業, 昭和28年株式組織, 昭和53年1,200万円に増資(授權資本4,800万円)

役員 取締役会長 樋口重蔵, 取締役社長 樋口友作, 取締役副社長 樋口偉之,
取締役 川村毅・富永セツ江

従業員 男子21名 女子6名 計27名
(内団地勤務者 男子13名 女子4名 計17名)

生産加工目名 キュービクル式受電設備, 各種配電盤, 端子盤, 自動制御盤, 各種分電盤,
開閉器類, 配線用遮断器

有資格者 電気主任技術者一種3名, 技能検定合格者二級2名

主要機械設備 ボール盤12台, パワープレス10台, 切断機2台, エアーコンプレッサー1
台, 電気溶接機3台, 電流電圧過負荷試験装置1式, ベルトコンベアー3
台

株式会社 渡邊製作所



本 社 〒142 東京都品川区小山1丁目8番3号 Tel 03-782-4111
資本金 3500万円 取締役社長 渡辺 義男

工 場 本社工場 東京都品川区小山1丁目8番3号 Tel 03-782-4111
茨城工場 〒306-02 茨城県猿島郡総和町下大野2000番
Tel 0280-92-0230・0953

工 場 敷 地 本社工場 952mm² 茨城工場 6,798mm²
建 物 面 積 本社工場 723mm² 茨城工場 825mm²
沿 革 昭和5年創業, 昭和13年合資会社組織, 昭和35年株式会社組織, 昭和39年
茨城工場新設, 昭和47年本社工場新築

役 員 取締役会長 渡辺勝次郎, 取締役社長 渡辺義男, 専務取締役 渡辺昭夫,
監査役 水島軍治・谷口真吉

従 業 員 男子40名 女子11名 計51名
(内団地勤務者 男子10名 女子6名 計16名)

生産加工目名 受変電盤, 配電盤, 制御盤, 分電盤, 端子盤, 液面リレー自動制御箱, 水
位開閉器, 真空開閉器他

有 資 格 者 電気機器技能士二級3名

主要機械設備 旋盤5台, 形削盤2台, ミーリング盤2台, フライス盤2台, 各種ボール
盤11台, プレス8台, 鋸盤2台, グラインダー4台, 切断機2台, 電動
ホイス2台

宮田電機株式会社



本社 〒106 東京都港区南麻布1丁目24番6号 Tel 03-452-8531(代)
資本金 900万円 取締役社長 宮田 優

出張所 福島県郡山市

工場 〒306-02 茨城県猿島郡総和町下大野2000番 Tel 0280-92-0243(代)

工場敷地 6.773㎡

建物面積 825㎡

沿革 大正9年創業，昭和9年現在に移転，昭和20年株式会社組織，昭和36・37
年増資，昭和39年茨城工場新設，昭和40年更に増資現在に至る

役員 代表取締役 宮田 優，取締役 宮田泰孝・宮田 元・佐藤 清・篠原 実，
監査役 前田 元

従業員 男子33名 女子7名 計40名
(内団地勤務者 男子25名 女子6名 計31名)

生産加工目名 工業計器盤，高低圧配電盤（屋外・屋内），各種分電盤，各種自動制御盤，
各種監視盤，計装用パネル，各種キュービクル

有資格者 電検2種1名，3種1名，配電盤組立1級技能士3名，2級技能士5名，
電気製図2級技能士2名

主要機械設備 プレス3台，ボール盤9台，堅型ミーリング1台，模型ミーリング1台，
旋盤1台，プスパーベンダー1台，高速切断機2台，クレーン2基，試験
設備一式

株式会社 旭日電機製作所



本 社 〒153 東京都目黒区下目黒 4-23-4 Tel 03-793-8811(代)
資本金 1,200万円 取締役社長 古川 高光

工 場 〒306-02 茨城県猿島郡総和町下大野2000番 Tel 0280-92-0358

工場敷地 3,109㎡

建物面積 1,129㎡

沿革 昭和24年創業, 昭和31年株式会社組織, 昭和34年目黒工場新設, 昭和38年
茨城工場建設, 昭和43年大型機器専用工場完成

役員 取締役社長 古川高光, 専務取締役 畑山倉太郎, 常務取締役 竹村 茂・
乙部昭行, 取締役 古川哲志

従業員 男子25名 女子4名 計29名
(内団地勤務者 男子15名 女子2名 計17名)

生産加工目名 各種配電盤, 電熱機器, 換気扇

有資格者 電検2種2名, 3種2名, 電気工事技術能士1名, 配電盤組立技能士2級1名,
玉掛技能士1名, アーク溶接技能士1名, ガス溶接技能士1名

主要機械設備 施盤, ボール盤, ミーリング, フライス盤, シャーパワープレス, 5 t ク
レーン, 5 t 走行クレーン, 塗装具一式, 工作機械類一式

三邦電機工業株式会社



本社 〒130 東京都墨田区本所 3 丁目22番 3 号 Tel 03-624-3511(代)
資本金 2,000万円 取締役社長 北川 末二

工場 茨城県猿島郡総和町下大野2000番 Tel 0280-92-0755

支店 水戸営業所・宇都宮営業所

工場敷地 6,500㎡

建物面積 2,283㎡

沿革 昭和15年城東製作所として創業，昭和22年株式会社組織として現在の社名
に変更，39年茨城工場建設，昭和41年水戸営業所開設，46年宇都営業所開
設，また第2組立工場建設

役員 取締役社長 北川末二，専務取締役 北川 真，取締役 高橋 登，監査
役 関口 武

従業員 男子82名 女子18名 計100名
(内団地勤務者 男子54名 女子7名 計61名)

生産加工目名 キュービクル式受変電設備，配・分電盤，監視盤，制御盤

有資格者 1級配電盤組立技能士4名・2級11名，電気工事士7名，2級電子機器組
立技能士1名，2級工場板金技能士2名，プレス機械作業主任者1名，有
機溶剤作業主任者3名，衛生管理者免許1名，ガス溶接技能士12名，アー
ク溶接技能士6名

主要機械設備 コピーニブリングマシン1台，油圧ペンダー2台，パンチングマシン1台，
アイアンワーカー2台

鷺宮ジョンソンコントロールズ株式会社



本 社 〒112 東京都文京区後楽 1-1-8 後楽ビル Tel03-813-4115(代)
資本金 3 億円 取締役社長 間宮 成夫

工 場 〒306-02 茨城県猿島郡総和町下大野2000番 Tel 0280-92-0346

支 店 大阪, 名古屋, 福岡, 東北(仙台) 営業所/北海道(札幌)ほか出張所/
全国18ヵ所

工 場 敷 地 6,402㎡

建 物 面 積 1,679㎡

沿 革 昭和46年株式会社鷺宮製作所と米国ジョンソンコントロールズ社の合併会
社として設立現在に至る

役 員 代表取締役社長 間宮成夫, 常務取締役 松村芳太郎, 取締役 税所正邦・
宮崎隆典

従 業 員 男子333名 女子87名 計420名
(内団地勤務者 男子13名 女子2名 計15名)

生産加工目名 空調制御盤, 総括制御盤の設計, 製作

有 資 格 者 危険物取扱主任者第4類1名, 電気検定第3種1名, 配電盤技能士2名,
玉掛技能講習修了者2名, ガス溶接作業主任者2名, アーク溶接主任2名,
フォークリフト運転士2名

株式会社 田原電機製作所



- 本社 〒183 東京都府中市本町2丁目30番地 Tel 0423-64-3033
資本金 4,000万円 代表取締役 田原 博
- 工場 〒306-02 茨城県猿島郡総和町下大野2000番 Tel 0280-92-0255
- 工場敷地 6053,35㎡
- 建物面積 827,97㎡
- 沿革 昭和11年創業, 昭和25年株式会社組織, 昭和35年府中工場建設
- 役員 代表取締役 田原 博, 取締役 鈴木栄一・田原道夫, 監査役 安部 守
- 従業員 男子88名 女子9名 計97名
(内団地勤務者 男子0名 女子0名 計0名)
- 製産加工目名 配電盤, 制御盤, モノコンシーケントローフ, シーケンスタイマ, マイクロコンピューター
- 有資格者 電気製図技能士1級5名, 2級2名, 衛生管理者1名, 電気主任技術者(第3種)3名, 危険物取扱主任1名, 電気機器技能士1級5名, 2級4名, クレーン運転免許1名
- 主要機計備 自動半田槽1台, 恒温恒湿室1基, CMCターレットパンチプレス一式, 油圧式プレスブレーキ1式, コーナーシャー1式, 油圧式シャーリングマシン1式, スポット溶接機1式, レーザートリマ装置1式, 超音波ワイヤーボンダ5台, チックフィルムスクリーンプリンター2セット, チックフィルムファイリングフォース2セット, リードフレーム挿入機1式

株式会社 港工業所



- 本社 〒108 東京都港区三田5丁目18番4号 Tel 03-440-2221(代)
資本金 2,400万円 取締役社長 中谷 俊衛
- 工場 〒306-02 茨城県猿島郡総和町字下大野2000番 Tel 0280-92-1727(代)
工場敷地 6,033㎡
建特面積 2,382㎡
- 沿革 昭和18年創業, 昭和24年株式会社組織, 昭和34年本社屋完成, 45年5階建
の社屋増築, 昭和46年甲種輸出貢献企業として通産大臣表彰
- 役員 取締役社長 中谷俊衛, 常務取締役 筒浦貞雄, 取締役 鈴木 貴・小出
洋一・中谷俊一, 監査役 西 卓治
- 製産加工目名 計器用変成器, 変圧器, 試験用変圧器, 小容量変圧器, 特殊変圧器, 特別
高圧, 屋外油入室素密封式鉄槽式鉄槽形(11kv~77kv), 高圧, 柱上用 EPT
ゴムモールド形, レジンモールド形
- 有資格者 第1種・第3種電気主任技術者4名, 衛生管理者1名, 高圧電気工事士2
名, 防火管理者3名, 乙種4類危険物取扱者3名, 機械技能士2名, 有機
溶剤作業主任者3名, 仕上技能士1名, プレス機械作業主任者1名, 鉛作
業主任者2名, アーク溶接取扱者1名, ガス溶接講習修了者5名, クレー
ン運転講習修了者4名, 玉掛講習修了者6名, フォークリフト運転講習修
了者5名
- 主要機械設備 工作機械類, 巻線設備, ゴム圧入加硫設備, 絶縁ワニス乾燥設備, 絶縁ワ
ニス真空含浸設備, レジン真空注形設備

株式会社 日幸電機製作所



- 本社 〒158 東京都世田谷区奥沢 3-4-1 Tel 03-729-1171(代)
資本金 1億800万円 代表取締役 大條 駒雄
- 工場 東京工場 本社同上
古河工場 〒306-02 茨城県猿島郡総和町下大野2000番 Tel 0280-92-0233
坂元事業所 〒989-21 宮城県亘理郡山元町坂元字八軒23 Tel 02233-8-1121
丸森事業所 〒981-21 宮城県伊具郡丸森町字下滝17 Tel 02247-2-1431
三月殿工場 〒981-17 宮城県角田市島田字米場105 Tel 02246-3-3321
- 支店 大阪・名古屋・仙台・富山・福岡・新潟・札幌・広島・東京
- 工場敷地 31,334㎡
建物面積 15,082㎡
- 沿革 昭和10年創業, 13年株式会社組織, 39年古河工場完成, 42年坂元工場第一期・第二期の新築に続き第三期新築完成, 43年坂元に電子工場完成, 44年丸森第一期工場完成
- 役員 代表取締役社長 大條駒雄, 常務取締役 根本文司・大條修也・小平 明,
取締役 牧田頼定・白石 哲・高橋俊雄・大條文也, 監査役 渡辺新二
- 従業員 男子400名 女子235名 計635名
(内団地勤務者 男子22名 女子32名 計54名)
- 生産加工目名 FM サーキットブレーカ, 漏電遮断器, 電子機器用各種プロテクタ, 安全ブレーカ, ステレオ, レシーバ, チューナ, アンプ等各種オーディオ機器, 低圧分電盤, 動力制御盤, 船舶用配分電盤
- 有資格者 プレス作業主任者 9名, 危検物取扱責任者 6名, 第3種電気主任技術者 4名, 有機溶剤作業主任者 4名, 衛生管理者 8名, 高圧ガス作業主任者 3名, 防火管理者 5名
- 主要機械設備 エアープレス 9台, スポット溶接機 6台, 自動旋盤 5台, 油圧プレス 1台,

株式会社 大口電気計器製作所



本 社 〒108 東京都港区三田五丁目 6 番 3 号 Tel 03-452-5271
資本金 1,000万円 代表取締役 山田 稔

工 場 〒306-02 茨城県猿島郡総和町下大野2000番 Tel 0280-92-0352

工場敷地 本社 210㎡ 茨城 3,167㎡

建物面積 本社 310㎡ 茨城 432㎡

沿革 昭和2年創業，昭和28年法人組織，昭和39年茨城工場完成，昭和52年大口
慶次郎代表の死去により山田稔が代表取締役となる。

役員 代表取締役 山田 稔，取締役 鈴木邦夫・儘 重男・森野政雄・堀井満
子・芝田光夫

従業員 男子11名 女子9名 計20名
(内団地勤務者 男子5名 女子7名 計12名)

生産加工目名 電気計器

主要機械設備 計器製造，試験設備一式

光商工株式会社



本社 〒104 東京都中央区銀座7-4-14 光ビル Tel 03-573-1351(代)
資本金 1億2千万円 取締役会長 村田 清

工場 〒306-02 茨城県猿島郡総和町下大野2000番 Tel 0280-92-0355

支店 大阪営業所・名古屋営業所・福岡営業所

工場敷地 3,300㎡

建物面積 1,681㎡

沿革 昭和24年港区新橋に資本金30万円を以て株式会社創立，昭和35年大阪，36年名古屋に営業所開設，昭和37年現在地に新社屋完成移転，40年茨城工場完成，41年名古屋，48年福岡に営業所開設

役員 取締役会長 村田 清，取締役社長 村田 光章，常務取締役 山口喜代次・直下英夫，取締役 重宗昭男・竹田博行・村田龍二，監査役 有田耕政

従業員 男子150名 女子50名 計200名
(内団地勤務者 男子28名 女子25名 計53名)

生産加工目名 地絡継電器・漏電警報器・漏電遮断器等保安機器

有資格者 低圧電気工事技術者17名，上級電子機器組立技能士17名，電気主任技術者1名，有機溶剤作業主任者2名，電気製図技能士1名，衛生管理士1名，消防設備士2名，アマチュア無線技士6名，高圧ガス製造保安責任者1名，ガス溶接作業主任者2名

主要機械設備 周波数変換器，恒温槽，振動試験器，耐電圧試験器

キムラ電機株式会社



- 本 社 〒141 東京都品川区西五反田1丁目33番10号 Tel 03-492-8511(代)
資本金 6,500万円 取締役社長 藤岡康太郎
- 工 場 〒306-02 茨城県猿島郡総和町下大野2000番 Tel 0280-92-0522(代)
- 支 店 大阪・神奈川・多摩・九州営業所
- 工場敷地 5,892㎡
- 建物面積 1,822㎡
- 沿革 昭和2年創業, 昭和39年茨城工場完成稼動, 昭和44年九州, 50年大阪, 51年多摩, 55年神奈川営業所開設, 昭和57年9月茨城新工場完成予定
- 役員 代表取締役会長 藤岡雄吾, 取締役社長 藤岡康太郎, 常務取締役 森 昭三, 取締役 関 幸雄・中谷 優, 相談役 村田清・古川雅敏, 監査役 高村輝義
- 従業員 男子81名 女子30名 計111名
(内団地勤務者 男子41名 女子19名 計60名)
- 生産加工目名 表示灯, 端子台, 操作用スイッチ, アナンシュータグラフィック盤
- 有資格者 技能検定2級7名
- 主要機械設備 自動彫刻機, 各種プレス機械, 照度測定器, オシログラフ測定装置, 万能投影機, 振動衝撃装置, 耐圧試験装置, 温度試験装置, 湿度試験装置, 絶縁試験装置

大矢化学工業株式会社



- 本社 〒153 東京都目黒区上目黒1-10-14 Tel 03-462-2251(代)
資本金 800万円 代表取締役社長 大矢 英男
- 工場 〒306-02 茨城県猿島郡総和町下大野字丸山 Tel 0280-92-1526(代)
〒192 東京都八王子市石川町2973~1 Tel 0426-42-8151(代)
- 工場敷地 21,300㎡
建物面積 10,500㎡
- 沿革 昭和7年創業, 昭和16年株式組織, 24年塗装工場復興, 31年本社工場完成,
53年茨城工場の大型化完成, 56年八王子塗料工場・57年粉体塗装工場完成
- 役員 代表取締役 大矢英男, 専務取締役 大矢敦雄, 常務取締役 大矢智伸,
取締役 遠藤広策・加藤良久・大矢三次・阿部尚之, 監査役 大矢コヘノ
- 従業員 男子123名 女子20名 計143名
(内団地勤務者 男子39名 女子7名 計46名)
- 生産加工目名 金属化成処理(パーカライジング処理), 粉体塗装, 金属塗装(吹付・焼付),
塗料製造
- 有資格者 1級技能士(金属塗装)25名, 2級技能士(金属塗装)40名, ボイラー技
士1級4名・2級3名, 危険物取扱者免許8名, 特定化学物質取扱者主任
2名, 有機溶剤作業主任者5名, クレーン運転士11名, 玉掛技能講習修了
者15名, 乾燥炉取扱主任者12名
- 主要機械設備 パーカライジングライン30ton, 45ton, 60ton各1ライン, ボイラー3基,
乾燥炉50基, プース45台, コンプレッサー50基, 塗料製造設備一式, 粉体
塗装1ライン, ホイスト90台, フォークリフト11台

三ヶ尻工業株式会社



- 本 社 〒106 東京都港区南麻布2-8-21 Tel 03-451-1287
資本金 3,000万円 代表取締役社長 三ヶ尻隆治
- 工 場 三田工場 Tel 03-451-1535
〒306-02 茨城県猿島郡総和町下大野2000番 Tel 0280-92-0361
- 工 場 敷 地 4,950㎡
建 物 面 積 1,290㎡
- 支 店 〒340-01 幸手倉庫 埼玉県北葛飾郡幸手町大字内国府間字岸内
- 沿 革 昭和9年塗装店として創業，昭和21年塗装部門を廃し板金専門工場として
三ヶ尻工業設立，昭和39年茨城工場建設，43年拡張工事，46年幸手に貸倉
庫建設
- 役 員 代表取締役社長 三ヶ尻隆治，事務取締役 三ヶ尻隆幸，常務取締役 三
ヶ尻守男，取締役 三ヶ尻光行，監査役 大野俊幸
- 従 業 員 男子13名 女子5名 計18名
(内団地勤務者 男子13名 女子3名 計16名)
- 有 資 格 者 騒音関係公害防止管理者1名，フォークリフト免許4名，板金1級技能者
1名，ガス溶接作業主任者10名，溶接科職業訓練指導員免許1名，玉掛技
能講習修了者11名
- 主要機械設備 シャーリング3台，プレス3台，NCパンチプレス2台，NCベンダー1
台，アイヤンワーカー1台

株式会社 三国工業株式会社



本 社 〒 東京都港区元麻布1丁目3番22号 Tel 03-455-1441(代)
資本金 2,000万円 代表取締役 羽田 健一

工 場 〒306-02 茨城県猿島郡総和町下大野2000番 Tel 0280-92-0392・3

工 場 敷 地 3,300㎡

建 物 面 積 1,320㎡

沿 革 昭和25年羽田製作所として創業, 昭和36年株式会社組織として現在の社名
となる, 昭和37年茨城工場完成稼動, 45年第2期工事の板金棟竣工

役 員 取締役会長 羽田耕江, 代表取締役 羽田健一, 取締役 斉藤秀夫

従 業 員 男子22名 女子3名 計25名
(内団地勤務者 男子22名 女子2名 計24名)

生産加工目名 プレス, 板金

主要機械設備 ワイヤークット, 放電加工機, 150tプレス

東京特殊工業株式会社



本 社 〒106 東京都港区南麻布2丁目2番11号 Tel 03-451-6206
資本金 504万円 取締役社長 古谷野 武

工 場 〒306-02 茨城県猿島総和町下大野2000番 Tel 0280-92-0750

工場敷地 2,469.19㎡

建物面積 841.4㎡

沿革 昭和26年創業, 32年株式組織, 昭和38年茨城工場建設, 39年稼動, この間
昭和36・37・39年に増資, 44年第二工場完成

役員 取締役社長 古谷野 武, 取締役 古谷野孝男・古谷野幸丸・古谷野かつ

従業員 男子16名 女子2名 計18名
(全員団地勤務)

生産加工目名 配電盤, 分電盤, キュービクル制御盤, 電気機器の板金加工

有資格者 工場板金1級免許1名

主要機械設備 コピーニブリング, パンチングコピーニブリング, NC付ベンダ(100t),
ベンダ(25t), シャーリング2台, アイアンワーカー1台, コーナーシャー
2台, スポット溶接機1台, アーク溶接機械8台, スタットウェルダー1
台, 半自動溶接機械1台, 走行クレーン1基, フォークリフト1台, ガス
溶接機1台

ハイデン工業株式会社



- 本社 〒105 東京都港区芝大門2-11-1 Tel 03-434-1305
資本金 500万円 代表取締役 幸田 秀一
- 工場 〒306-02 茨城県猿島郡総和町下大野2000番 Tel. 0280-92-0014
- 工場敷地 1,438㎡
- 建物面積 970㎡
- 沿革 昭和45年4月ハイデン工業株式会社として発足，配電盤茨城団地協同組合共同板金作業所を協業化法人に改組，昭和46年新工場竣工，昭和49年新工場事務所完成，57年メカニカルシャーリング及NCペンダを設置し省力化を計る。
- 役員 代表取締役 幸田秀一，取締役 白川一郎・宇賀押 正・森 泰次
- 従業員 男子11名 女子1名 計12名
(内団地勤務者 男子11名 女子1名 計12名)
- 生産加工目名 配電盤，分電盤，キュービクル，制御盤，外電気機器の板金加工
- 有資格者 工場板金1級免許1名
- 主要機械設備 コピーニブリング，パンチングコピーニブリング，NC付ペンダ(100t)，ペンダ(25t)，シャーリング2台，アイアンワーカー1台，コーナーシャー2台，スポット溶接機1台，スタットウェルダー1台，半自動溶接機1台，アーク溶接機8台，走行クレーン1基，ガス溶接機1台，フォークリフト1台

ふるさとの歴史『総和』

矢 次 京 介

遠い昔からこのあたりを「下総^{しもふきのくに}国」といつていた。

「総和」の名は、昭和30年に4ヵ村（勝鹿・香取・桜井・岡郷）合併の時つけられたものである。

4ヵ村民の総てが和して、明るい、新しい村づくりをとの願いをこめてつけられたものといわれているが、さらにもう一つの意味は、「下総^{しもふきのくに}国の平和郷」をめざした村づくり、即ち、関東一のユートピアの実現を願っての命名としたいのである。

関東平野のほぼ中央、水と緑にめぐまれた猿島台地の一角に、農・工・商調和のとれた近代的田園都市が築かれつつある「総和町」は、まさに現代のユートピア（平和郷）といえよう。

長い歴史の上に、はぐくみ育てられてきた豊かな風土がこの楽園をつくりあげてくれたといえる。これからの益々の発展と充実を願うとき、今日に至るまでの先人の努力と、永々と積み上げられた歴史のあとをふりかえり訪ねてみることは大きな意義があると思う。

歴史を訪ねることにより郷土を知り、郷土を愛する心情を高め、さらに、誇りと自信を強めることができるならば、この地に今生きている、生活していることの幸せをも味うことが出来るものと信じている。

この総和の地に人々が住み始めた遠い遠い原始の昔より今日の近代的町づくりに至るまでの長い長い「ふるさとの歴史」を訪ねさぐってみたいと思う。

〔原始・古代の頃〕

ひたひたと波打ち寄せる海辺に、貝をあさり、魚を取り、草原を渡る風に頬を赤らめて獲物を追う人々は喜々としてこの台地に生活の居を構えた。

総和のあけぼのは、東京湾が内陸深く浸入していた、いわゆる海浸現象の頃に始まる。（渡良瀬遊水池はその名残り。）

海水に満たされた溪谷は、「やつでの葉」に似た猿島台地が南西に広がり、その裾を水にひたしていた。海水の浸入は、ひた寄せる波浪と共に魚貝類を豊かにし、台地の動植物の繁茂をもたらした。

海浜に望む台地には、縄文の集落が点在し、石器をきざみ、華麗な縄文土器を生んだ。

さらに、貝塚の出土をみても、総和のあけぼのが、この臨海集落の繁栄からであるとみることができるのである。

「磯部（辺）」「水海」「辺見」等の地名が当時の地形を示しているように思えてならないのである。

やがて、海退現象が起り、干潟は沖へ伸び、台地のふちは砂浜となり、やがて砂浜は乾き草むらとなり、その草原をぬう如く幾筋かの川が走る。蛇行しつつ流れる河川は、沼沢を残して平地を広げていく。関東平野は、このように黄金の沃土となって形成されていった。「砂井」「前林」「女沼」「大堤」「小堤」等はこの頃の河畔集落と思えるのである。

このような集落の繁栄と共に、猿島台地の草木地帯にも動植物を食の糧として求め、狩猟や採集に生活の総てをかけていた人々の集落も増えていったのである。

「大野」（現上大野・下大野）や「高野」に人々の生活は広がっていった。

牧畜・栽培活動が起ってくると、このあたりは、馬や牛の放牧地として適していたのであろう、「駒羽根（踏）」「牛ヶ谷」の地名にみられるように、名馬の産地であり、牛の放牧地帯として知られてきた。

また、植物の繁茂の地でもあった。「葛生」は、食用として珍重された葛の葉の産地であり。「稲宮」は、稲作栽培の盛んな地であったことを示し、柳の木が河畔に茂り、それを切って橋を作り交通の便をよくした街道筋の集落「柳橋」の地名も残っている。

縄文や弥生時代の集落や地形の分布をこのようにみていくと、先人のこの地での生活状況や生産活動の様子が彷彿として浮んでくるのである。

さらに、日本人の発展形成の経過からこのあたりの様子をさぐってみると、東方より来た香取系統の人間集団と北方より来たと見られる豊城入彦命（彦狭島王といわれる）系統の一族との二大勢力が争った衝突地、接触地点がこのあたりであるといわれている。

香取とは、「かじとり」という意味で、舟に関する神、即ち水神を祀るのを香取神社といったのである。これが、水軍の守護神ともなって、武人の神といわれるようになった。

その系統の一族がいたと思われるのは、香取神社が点々とこの地にも分布していることをみてもわかるのである。反対に鹿島神社は極めて少ない。旧香取村（総和村統合前）の名もあった程である。

北方の勢力は、彦狭島王の名から「猿島」の地名がつけられたといわれている程、一大勢力をもっていたことがうかがえるのである。

この二大勢力が相合し、入り交って、居住し、集落を形成し、発展していった地であるといわれているのである。

国家統一体制の大きな契機となった、大化の改新（645年）の時、郡制が定められた。このあたりが「猿島郡（^{こうり}評）」となり下総国の一郡として定められたのである。

その頃は、麻や綿の播種が北上してきて、このあたりは、良質な麻の産地となった。

麻や綿は、当時の衣服の重要な原料であり貴重品とされていた。

「麻」は布^ふ佐^さとも呼ばれ、「総」^{そう}とも書かれたので、このあたりを「総国」（上総国・下総国）といわれるようになったのである。

同じように、綿（木綿^{ゆうき}）の良くそだった地方が現在の「結城」である。

このような、麻や木綿に関係のある神社も残されている。鷲神社というのが、それで、麻による風邪払いや、麻をお礼返しにするという風習なども残されている。

鷲神社のことは、「お鳥様」ともいい、現在は商売繁昌の神社ともいわれている。（下総国に多い。）

奈良時代の頃には、利根川や渡良瀬川等が関東平野の中心部にあたるこの付近を麻の乱れる如く流れ入りくんでいたようである。

当時、東国のこの辺りを旅する人々は、利根川や渡良瀬川を渡り越えることが仲々大変だったようである。

古河が集落として繁栄し始ったのも、この川を渡る街道筋にあったからといわれている。

渡し場としての港町的賑わいを持つようになったのである。この様子が万葉集の中に歌いよまれているのである。下之巻十四に、次の二首が歌われている。

"まくらがのこがの渡りのからかじの音たかしもな寝なへ子ゆえに"

"あわずしてゆかばおしけんまくらがのこがこぐ舟に君もあわぬかも"

「まだ一夜も共にしたわけでもないのに、評判が（噂話が）かじの音よりも高くこの付近に広ろがってしまったなあ……」の若者の慨歎めいた、また、誇らしげにも思える歌であり、「あわずして……」も恋慕の情を切々と訴えたもので、二首とも文学的ロマンの香り高い、すぐれた歌といわれている。

当時の芒漠たる荒野の中に、川を渡る舟は葦の中に身を没して、その葉かげから揖の音だけが、規則的にきこえてきたことであろう。

後に、中世・近世になって、鎌倉街道、奥州街道等の要衝地点になったことを思うと、この付近が、奈良・平安の頃から交通上の要路であったことはたしかであろう。

河畔から北東の猿島丘陵（台地）にあたるこの付近は、馬の奔逸を防ぎ、水草の豊かな牧場としての最適地でもあった。

駅馬制が始まり、馬の需要がふえてきたり軍団用の馬が重要になると、この地方

は、その供給地となっていたのである。

平将門が石井（岩井）を拠点として、新皇を名のり「承平・天慶の乱」を起したのも、騎馬兵を用い、筑波山麓を縦横無尽に駆けめぐっての勝算があったからであるともいわれている。

馬の産地としては、前述した駒羽根（総和）のほかに、駒ヶ崎（古河）・駒込（三和）等、さらに岩井・猿島地方にも関する地名、牧場あと馬場跡が今も多く残っている。

後に源頼朝もこのあたりを含む東国を根拠地として馬を豊富に持ったことが平家追討に成功をもたらした勝因にもなっているといわれている。馬に関しては、中世になって種々あるのでさらに後述した。

当時、馬のほかに猿島台地の草原地帯は、牛の放牧（牛ヶ谷の地名あり）や鹿を飼う等もあったようで、勝鹿村（総和村統合前の一村）や鹿養という地名が残っていた。

総和の地が、動物を飼育するにも最適の地であったようである。

原始の昔しより奈良・平安の頃にまで河畔の草原台地としてのこの地は、植物や動物等が豊かに繁茂し育ちゆく最良の楽園であったに思えるのである。

[中世（鎌倉・室町時代）]

鎌倉時代になると、軍馬の供給地として、このあたりが一そう重要視されてきたようである。

隣村の五霞村には、名馬といわれた磨墨の池や池月の墓といわれるものが残っている。

富士川の先陣争いで梶原景季と佐々木高綱の乗った名馬といわれている。

それほど、この近くから名馬や頼朝への献上馬が多く産したのである。時には、あまり馬貢の取立てがはげしく領民が苦しくなる程で、古河に居たといわれる下河辺行平は、源頼朝に、軍功の褒賞のかわりに領民のために馬貢の免除を願い出て、聞き入れてもらったということもあった。（養和元年7月20日）

頼朝は、鎌倉幕府の確立と諸国統制のために各地に守護や地頭を置いた。

下総国には、千葉常胤が守護に任ぜられこの辺りを領していた。

下河辺行平は、源平合戦の功により、下総西部一帯を下河辺荘として領せられ、古河にやかた館（後の古河城）を築いて、この辺りの領主となっていた。

また、地頭館やかたの堀の内は、葛飾に6ヶ所、猿島に7ヶ所あったといわれている。総和地内では、前林や大山（古河）の秋庭氏、磯部の堀江氏等がそうであった。

地頭は、年貢を集めては鎌倉へ送ったのであるが、その年貢の輸送路を当時“鎌倉街道”といったのである。従って、鎌倉街道といわれた道筋はいくつもあったのである。

(1) 女沼－磯部－下辺見－砂井－前林－元栗橋への道

(2) 小堤－関戸－下大野－久能－高野－塚崎、
(高野－水海)－境への道。

(3) 諸川－大和田－上大野－柳橋－高野 (2)と
同じ) への道。

(4) 諸川－仁連－谷貝－境への道。

さらに、鎌倉街道よりも古い街道といわれているのは、

○野木－古河 (雀神社付近)－長谷－鴻巣－坂間－中田－元栗橋への道 (古河では、この道筋を鎌倉街道といっている)

これらの街道の発達にまつわる話として、「静御前」についての諸説が、総和の地に伝え残されている。

源義経が東国へ落ちのびた後を慕って、静御前が、侍女の琴柱^{ことじ}を召し連れて、鎌倉を逃れて、この地まで旅を続けてきたという。

栗橋から前林、砂井を歩き、下辺見の弘法水の湧き出る地として有名になっていた現在の境街道との交差点にさしかかった。弘法水わきの茶店で休憩をしていた時。ゆき交う旅人の会話の中から「東北の地で、高貴なる方が戦死した。」と聞えてきた。

旅人にさらにくわしく尋ねると、義経であることがわかってきた。

静の心は乱れ、悲しみに打ちひしがれ、病む身は高じて、生きる心地もなかった。

悲歎やる方なく、この旅を続けるべきか、やむなく、鎌倉へ戻るべきかと、橋の袂で、思案にくれたという。

この地を今も「思案橋」と呼んでいる。

静御前は琴柱と共に砂井の方へ (鎌倉へ向って) 引き返したが、心身共に疲れ果て、かくれるように歩ゆむうちに、道にも迷い、水海、境方面に行ってしまったという。

水海あたりに一泊し、西の伊坂 (栗橋方面) へ向った。途中、道しるべに柳の枝を結んだという「静結びの柳」 (または「静見かえりの柳」ともいう) が、水海の用水堀の側に大樹となって今も立っている。さらに、积水機場の庭には「静の椿」が今も花を咲かせている。

静御前は、悲しみのあまり、鎌倉へ向う途中、高柳村 (現在栗橋町) で、心身共に疲れ果てて、ついに倒れ、琴柱に見とられつつ、その生涯をここに終えたという。(一説には、義経のかたみの懐剣で自害したともいわれている。)

現在、栗橋駅前に琴柱手植の一本杉に見守られるが如く静御前のお墓がある。

最期を遂げられたという高柳寺という寺が、現在、名も光了寺と改められて、古河の中

田宿に移ってきている。この「光了寺」には、静御前の恩賜の舞衣や義経のアブリ等が、今も寺宝とし、文化財として保存されている。

当時の史実を伝える「吾妻鏡」には、「静女鎌倉を出て東国に向う……」と記してあるのみで、その後の消息はさだかでないが、「思案橋」（総和町下辺見）が静御前の足跡、最北の地、ということはまちがいないと思われるのである。

室町時代の後半、関東の地は、下総国「古河公方」をめぐる、いち早く、戦国、動乱期に入った。

永享の乱（1438～9年）・嘉吉の乱（結城合戦－1441年）が相ついで起り、足利方と上杉方の対立・戦乱が続いた。

特に関東管領足利持氏の子「成氏」が上杉方に追われて古河城へ（1455－康正元年）入って以後、「古河公方」と称し、日本全国の武将・豪族が、古河・総和を中心とし、利根の大河をはさんで、東西相対峙するところとなった。

古河公方に味方する関東以北の勢力（結城・小山・宇都宮・水戸・里見等）を従え、古河城を中心に水海城（総和）・柳橋城（総和）・栗橋城（栗橋）・関宿城（関宿）等を根拠の助けとして、対岸の岩槻城、川越城、鉢形城、騎西城等の上杉方とにらめ合っていたのである。古河公方の勢力は意外に強く鎌倉方の上杉氏は、岩槻の太田氏（道灌）に命じて、古河城攻略の拠点として「江戸城」を築かせたのである。（1457）

今日の首都東京の繁栄も古河公方があつての江戸城出現によるものと想うならば、古河総和の歴史的意義の重要性を見直さざるを得ないであろう。

また、この頃の地方文化としては、当時の鎌倉に比するほどで、長谷観音（日本三長谷の一つといわれる－古河）、八幡宮（鶴ヶ岡より）等を勧請し、さらに、医聖といわれた田代三喜や日本一の連歌師・猪苗代兼栽等も住まわせていたほどで、古河・総和のあたりを鎌倉と同じような地にしたいと願っていたのである。政治（軍事）・経済・文化の点で実質上、関東の首府といってよい位置にあったといえよう。

当時、小堤城（現在の総和町小堤の円満寺付近）には、足利成氏（初代古河公方）が古河城へ入って来た時、信州より従えてきた諏訪氏がいた。大永6年（1525年）諏訪三河守頼方を最後に小堤城を去っていく。

昭和56年3月に、小堤城跡より、当時の財宝か備蓄銭か、古銭が約4,000枚程出土されている。（これについては後述する。）

また、柳橋城（現在の総和町柳橋の愛宕神社・龍蔵院付近）には、元弘の末、足利尊氏が下総守であった頃、基氏の従臣の土岐弾正が葛生・柳橋・仁連・諸川・久能・横塚の領

地を賜り、姓も柳橋氏と改めて永くその居城となっていた。

古河公方4代晴氏の頃、公方の力も衰え、下野国小山小四郎朝政の勢が強くなり、天文23年（1554年）柳橋の戦が起った。

小山朝政の勢力は西下総を攻め取るため南下してきた。はじめ2,500余の兵をもって小山を出発、途中、間々田の砦を破り、野木に進み、さらに赤塚、佐川野、牛ヶ谷を経て、上大野に陣を張り、稲宮砦を攻撃する。

防戦する稲宮八郎左エ門（主将）の軍を打ち破り、その間の降人続々と増える。小山軍はついに4,000余の兵力となり、破竹の勢をもって柳橋城へと迫ってきた。

柳橋豊前守（8代目）は諸川・久能・駒羽根・下大野・葛生・矢貝・磯部・山田等の兵9百余を城中に籠らせて小山勢を迎え撃った。

戦は、はじめ柳橋勢の奮戦で、小山勢は龍蔵院の切通しに追い攻められて、夥しい損害を受けたり、北山田あたりで切込み隊に200余人も殺されたりしていた。

柳橋城の守りは堅く、豊前守以下の武将の豪勇振りに小山勢はたじたじとして、長期戦の構えをみせ、遠まきにして兵糧責めにかかってきた。

長期に亘る籠城、ついに柳橋勢は、兵糧つきはて、夜闇に乗り、豊前守一族、妻子200余人を従えて、常州筑波郡の荻間城（野中氏）へ落ちのびたのである。

（今なお、その亡命の地には、柳橋という字名が残されており、子孫一族がいる。）

さらに、この戦の6年後、永禄3年（1560年）、結城晴朝と下妻の多賀谷氏との合戦の折り、古河にいた築田中務大輔が500余騎の兵を柳橋に待ち伏せさせて結城氏に戦いをいどんだ。

晴朝や山川氏らの結城勢は兵力が勝って、築田勢は、200余人も討ちとられ敗北を喫する。

結城氏と築田氏は、もとは、古河公方の縁者同志であり、友軍の仲であった。戦国の世の無常を語る合戦としていい伝えられている。

この二度の柳橋での戦いを浅間塚の大杉だけがじっと見守りとっていたという。（今はその大杉も枯れて切倒されてしまった。）

戦乱に明け暮れた戦国時代の後期に入って、全国を二分するほどの勢力をもっていた古河公方も、5代目足利義氏をもって公方時代に終りをとげた。

古河・総和付近には、当時の公方にまつわる神社寺院をはじめ多くの史蹟が、夢のあとを偲ばせるように随所に残されている。

初代公方足利成氏の墓は、野渡（栃木県）の万福寺にある。熊笹の生い茂るところに、いまにもくずれ落ちそうに、五輪の石が、雑然と積まれている。とうとうと流れる渡良瀬、

思川と芒々と広がる遊水池を眼下にながめ、変転極まりなかった夢のあとを公方は一人淋しく想いにふけっているかのようである。10米程はなれた竹やぶの中に、歌人・猪苗代兼栽の碑が、公方を慕うが如く立っているのも一そう栄華のあとの無常感を味わせられるものがある。

5代公方、足利義氏は、古河鴻巣（現在古河総合公園内）の徳源院に眠っている。堂宇一つない廃寺の墓所である。

他の公方は、他県に葬られている。2代政氏は久喜（埼玉県）の甘棠院、3代高基は、不明（墓所がわからない）千光院と寺名だけしかわからない。4代晴氏は関宿（千葉県）の宗英寺。この他、公方開基の寺といわれる永仙寺や松月院等はほとんど無住の廃寺跡となっている。

古河公方の最も縁の深い築田氏の居城であった「水海城」もいずこにあったのか、その跡形もみあたらない。現在の水海小学校付近であつたらしいともいい伝えられているが、調査は充分とはいえない。

ただ、「水海城」をとりまく、神社、寺院が多く残されていることから、当時の古河公方と築田氏（水海城主）を中心とした、この付近の生活・文化の繁栄は偲ばれそうである。それにしても、15世紀の頃、関東に君臨し、京都、鎌倉に対峙した英傑、古河公方たちの面影は、苔むす地下に埋もれて忘れ去られてゆこうとしている。まさに諸行無常のことわりをあらわし、げにあわれを思うばかりである。

幸いなのは、総和に当時の頃よりの寺院や神社が残されている。

「水海城」との関係では、正蔵寺（浄土真宗）実相寺（日蓮宗）吉祥寺（時宗）普舜院（曹洞宗）等が今なおそれぞれ繁栄を続けている。

神社では、公方ゆかりの深い築田氏の祈願所として、また水海村の鎮守様としての三島神社は、利根の大河を前にして、小高い丘上に、水海城（館）の鬼門除けの地を選んで建られたのであろう。

鳥居をくぐって境内に入ると、他の神社にあまりみられない、御堂が左右に建っている。「朝日堂」「夕日堂」という。

本殿、御神体については色々の説がある。祈願によってそれぞれ本殿であつたり、朝日堂であつたりしたのであろう。

三島神社について、赤松亘著の「利根川図志」には次のように記されている。

水海村に在り。廻国雑記云、下総国こほり山といへる所に、伊豆の三島を勧請し奉りて、大社ましましけり。

かの別当の坊暫逗留し侍りける内に、歌など度 いひすてども、少々書しおき侍る
"たづね来てここにみしまのおなじ名をおもひぞいつの国津神風" 道興准后

標注云、下総国葛飾郡山郷水海村に在り。三島大明神、社領五石、別当満蔵院、古河よりは東の方、栗橋の北東に在る村なり云々。(中略)

日光駅程見聞雑記上巻、中田、条云。又一里に水海村あり、昔梁田家の領せし所なり。その村の名主鰐口を所持す。是は三島大明神へ寄進せし物なり。文亀3年8月、梁田右京亮平宗助と鑄付けて有り。同村に北条氏直が虎の印を居ゑたる掟書を所持したる百姓あり。惣じてこの辺に梁田家臣の子孫多し。この所(中田をいふ)の名高き蕪の葉を売る齊藤源太左衛門も先祖は彼の家の老なり。梁田は五十万石程領せし大名にて有りけるとぞ。(本注、按に右京亮宗助は、康正の頃古河の成氏に属し、上杉と戦ひし出羽守が子孫なるべし。梁田は関宿の城主なり云々。)

この文中にある「満蔵院」というのは、現在の神社の約百米西へ行った所に大きな「いちょうの木」が立っているあたりにあったといわれている。今の宮本家の庭内になっている。

宮本家は三島神社の神官であったといわれ大いちょうは、神木とされている。

伝承によると、この木の枝に、何か光を発するものが懸っているのをみた村人たちが、不思議に思っ、よじ登り確かめてみると、「はけご」(魚を入れるビク)の中に光る石が入っていたという。

この「光る石」をご神体として祀ったといわれている。

今なお、ご神木といわれる大いちょうは、宮本家の人以外は枝一本切り取ることはできないとされている。

なお、文中の「鰐口」の行へが現在大きな問題となっている。

水海の寺社の他に、磯部には、勝願寺(浄土真宗)、安禅寺(曹洞宗)さらに、前木には、東光寺(真言宗)そして下大野に正定寺(浄土宗)長命寺(浄土真宗)また、下辺見に金蔵院(真言宗)等、中世以降より現存している寺院は多く、古河にみる公方の遺跡のような哀感はさほど感じさせないようである。公方以後、関東一円を支配した北条氏は、善政をほどこしたようで後で徳川の政治の手本ともなったといわれている。

年貢なども四公六民と比較的軽く、現物納(米穀類)だけでなく、永楽銭で納めてもよいという貨幣制度をすでに行っていたようである。

また開墾地などは、十年間も課役がなかったし、田で二毛作を行うほど進歩していたようでもある。

農業だけでなく、製鉄関係も盛んで、武具が多量に造られていた。上大野の弁天や関戸等にその遺跡がみられる。

戦国時代には、鍛冶屋を城内において、籠城の時でも武具の修理ができるようにさせていた。上大野（弁天）遺跡が小堤城に近いのは、それらを物語っているといわれる。

北条氏が破れて、豊臣時代になった時、このあたりは、徳川家康の支配する所となった。家康は、北条氏の善政をまねることが多く、ほとんど制度をかえることはなかったようである。

〔近世（江戸時代）〕

豊臣から徳川へと天下支配権力が変わり、いわゆる江戸時代になると、封建制度の完成をめざして、徳川、幕藩体制は着々と固められていった。

古河や総和の辺りは、関東以北の諸大名統制の重要な地点として注目されてきた。

古河や関宿には、親藩級の幕閣の譜代大名が配された。松平侯などは、徳川家の一族である。その中間にあった総和の支配関係は、複雑であった。

近世（江戸時代）の総和を展望するには、「古河藩」「関宿藩」そして「天領」（徳川の直轄地）の三つの支配関係をみなければならない。

旧村別にその藩領区分をみるとつぎのようになっていた。

「古河領」＝勝鹿村（全村）・岡郷村（全村）香取村（駒羽根）・桜井村（下大野）

「関宿領」＝桜井村（久能・高野・柳橋の一部）香取村（水海）

「壬生領」＝桜井村（柳橋の一部）

「天領」＝香取村（釈迦・磯部・前林・砂井・新田・上砂井）

徳川が江戸城に居城するに至って、幕藩体制の確立と支配勢力関係の様相は、変ってきた。

中世、古河公方の頃には東北の勢力を背景に、利根川を前にして西南（上杉方）へ対峙する要衝地点がこの地であり、西南向きをとっていた。

それに比べ、近世、江戸時代には、対する向きが反対になった。東北の外様大名には対する江戸防衛の最大地点として、利根川を背にする格好となったのである。

そのために、将軍家に極めて近親なる大名や幕閣の重職にあるものが藩主として封じられたのである。

ちなみに、古河藩主についてみると、天正18年、小笠原秀政が3万石をもって信州松本より配せられたのを初めとして、280年間のうち、土井家の前後合わせて150余年間、本多家の50年足らずを除いては、各藩主10年前後で交替。11家がサラリーマン大名といわれる

ように次々と交替している。

しかし、初代の小笠原秀政が家康の孫に当たるといわれるのをはじめ、土井利勝（寛永10年、古河藩主となる）は、家康の子なりとも云われている程で、徳川御三家に比適する親藩級の譜代大名が城主となっているのである。なお古河藩主で「大老」となったもの二人（土井利勝・堀田正俊）をはじめ、「老中」であったものが七人もいたといわれている。「二大老・七老中」といわれる。

古河藩の重要な地位は、政治的、軍事的な意味だけでなく、経済的にも大きなものがあったようである。

古河も関宿も、共に物資の集散地としての役割や街道筋における関所としての重要な地点でもあったのである。

ここに、古河、関宿の歴代城主をあげてみよう。

『古河藩主（城主）』

天正18	小笠原秀政	3万石
慶長7	松平 康長	2万石
慶長17	小笠原信之	2万石
	信政	
元和5	奥平 忠昌	11万石
元和8	永井 直勝	7万2千石
寛永10	土井 利勝	16万2千石
	利隆	13万5千石
	利重	10万石
	利久	10万石
	利益	7万石
天和元	堀田 正俊	9万石
貞享2	松平 信之	9万石
元禄7	松平 信輝	7万石
	信祝	7万石
正徳3	本田 忠良	5万石
	忠敵	5万石
宝暦9	松平 康福	5万石
宝暦12	土井 利里	7万石

利見	7万石
利厚	7万石
利位	8万石
利亨	8万石
利則	8万石
利與	8万石

明治2 版籍奉還 利與 古河県知事。

『関宿藩主（城主・代官）』

天正18	松平 康元	2万石
慶長8	松平 忠良	2万石
元和2	松平 重勝	2万6千石
元和5	小笠原政信	2万2千石
寛永16	小笠原貞信	2万2千石
正保元	牧野 信成	2万2千石
正保4	牧野 親成	2万2千石
明暦2	板倉 重宗	5万石
明暦3	板倉 重郷	5万石
寛文元	板倉 重常	5万石
寛文9	一色 右京	代官
寛文9	久世 広之	5万石
天和3	牧野 成貞	7万石
元禄8	牧野 成春	7万石
宝永2	久世 重之	7万石
享保5	久世 暉之	7万石
寛延元	久世 広明	7万石
明和7	小林孫四郎	代官
天明4	宮村孫左衛門	代官
天明5	久世 広誉	7万石
文化14	広運	7万石
天保2	広周	7万石
文久2	広文	七万石

明治元 広業 7万石

近世、江戸時代の古河藩も関宿藩も共に、軍事、経済、文化のあらゆる点で徳川幕府が重要視していたことは、幕閣の大名を歴代藩主にしていることをみてもよくわかる。

古河藩城主の中でも、前期50年間（寛永10～天和元）、後期107年間（宝暦12～明治元）の長きに亘った土井家は、古河の代表的藩主としてその名も高い。

特に、土井家の祖とも云われる「土井利勝」は3代（将軍）に亘る名相といわれている。幼時、家康の側近にあって寵愛を受けてから72才で死するまでの一生を、2代秀忠、3代家光に亘り、終始変りなく絶対の信任を得ており、偉大な功績を残した。寛永の三窮「仁」の酒井、「勇」の青山、「智」の土井といわれたほどである。

利勝は、言行が慎重で誠実で「智略の人」といわれており、古河城主時代「大老」ともなり江戸幕府の基礎を築いたのである。

寛永13年に古河城三階櫓が構築され、その偉容を増し、城下町の発展にも尽した。古河城には、天守閣はなくて、この3階櫓が象徴的建物となっていた。緑の森に囲まれた白亜3層の櫓が、百間濠に映えて、対岸の朱塗の長谷観音堂と共に美しい一幅の絵巻のような景観をなしていたといわれている。今は、渡良瀬の河川敷に殆んどななっしまい、古河城の面影はみるべきものがわずかになってしまったことは誠に残念の極みである。

さらに、利勝は家康のために江戸上野「寛永寺」に鐘楼と五重塔を建立した。

土井家の江戸上屋敷は、神田橋近くにあり、利勝が朝夕、登城・下城の時は必ずこの神田橋を通ったので、この橋は「大炊殿橋」（土井は大炊頭おおい どのぼしといった。）と呼ばれていた。利勝の羽振りのよさを示していたといえよう。

元和2年、徳川家康が没し、久能山に葬られた時、利勝は2代将軍秀忠の名代として埋葬を掌り、さらに翌3年には、利勝によって久能山より日光へ家康の霊柩を移させている。日光東照宮の建立も利勝の総指揮によってなされたといわれている。

寛永21年7月、72才をもって没した利勝は、浅草の誓願寺に葬られたのである。

この誓願寺が、土井家累代の墓所となっていたのであるが、大正12年の関東大震災の時、焼失し、廃寺となったため、古河の正定寺（利勝開基の寺）に改葬されたのである。

現在は、この正定寺が土井家の墓所となり菩提寺となっている。本殿の御廟みたまやには、歴代土井侯の位牌が、そして奥の院には、墓碑がずらりと立ち並んでいる。

なお、この古河の正定寺は、現在の総和町下大野にある「正定寺」より分ち移され建立（利勝が）したといわれている。

土井利勝の出生については、いくつかの説があるが、古河の正定寺の境内に立つ碑文に

は、「家康の子なり」と書かれている。

実は、水野信元の子で、土井利昌の養子となったとの説もあったのであるが、最近、家康の子なり説が強くなり、その論証もされてきている。そのため、古河藩は、徳川御3家（水戸・紀伊・尾張）につぐ、親藩級であったともいわれてきているのである。

利勝以後、利隆、利重、利久、利益、（1681年志州鳥羽へ）と続いた50年間を「前期土井」といい、宝暦12年（1762）に九州唐津より再び古河城主となって帰ってきた、利重より、利見、利厚、利位、利則、利與まで（明治まで）を後期土井家時代といっているのである。

古河城主の中には、土井利勝のほかにも、有名な武将、学者等の殿様が多くいた。

長久手山の戦で徳川家康が天下掌握の機をなした時の最高功労者「永井直勝」（現在、永井寺に墓所あり）

大老職までやったが、江戸城内で刺殺された「堀田正俊」

熊沢蕃山と親交が深く、古河に蕃山を幽閉、預り受けた「松平信之」

日本で最初の雪の結晶を顕微鏡で観察し、雪華図説という本を著した「土井利位^{としつら}」等、数ある城主の中でも傑出した殿様といえるであろう。

特に、土井利位の「雪の研究」は、日本の科学史上でも特筆すべきものといえよう。

利位という殿様は、古河城主となる前に、大阪城代、京都所司代等を歴任しており、大阪城代の時には、有名な「大塩平八郎の乱」取締りの総監として活躍、家老で蘭学者であった「鷹見泉石」をして、平八郎を召し取らせている。鷹見家には当時の召捕り棒が今でも保存されている。

雪の研究は、利位が京都と古河とで観察したものといわれている。

雪の結晶が不思議にも殆んど「六角形」の紋様をしていることが顕微鏡をのぞくたびにわかってきた。その驚きと感動は言語に絶するものがあったといわれている。

顕微鏡をのぞいて雪の結晶をとらえること自体が極めてむずかしい技術が必要であったであろう。

黒い布の上に竹へらを使い雪をすくい、速やかにビントを合わせて、図解（写生）をする。

手をふれたり、息がかかっても雪はすぐ溶けてしまう。科学技術がそれほど進んでいなかった当時としては、全く至難の技といわざるを得ない。

それを見事に成功させて、次々と「雪の結晶」を図説化していったのである。

記録によると、天保3年1月3日までの観測したものの55種をひとまず刊行しようとしたが、印刷に手間どり発刊がおくれた。（印刷技術も版木刷で容易でなかった。）次の冬が訪

れ、12月9日大雪となり、31個の収獲があったという。それまでの86種を第一刊として「雪華図説」を発行した。

続いて観察をした結果、天保11年（1840）2月5日までに97種を収録した。同年4月頃「続雪華図説」を刊行している。

2冊の図説に、実に183種の雪の結晶（紋様）を収めることができたのである。

山野を白一色におおいつくす雪景色に当時の人々は自然の不思議さに驚異をいだいたであろうに、さらに、目に見えぬ1ひらの雪の結晶があざやかに六角形の紋様が描き出された時、あっと驚嘆の声を発したであろう。

それは、雪の紋様の美しさに対するだけでなく、土井利位の真理追求のたゆまざる科学心に、敬意と感銘を得た声であったのであろう。

利位の「雪の研究」のかげに家老「鷹見泉石」の偉大な協力、功劳のあったことを忘れてはならないであろう。

さて、江戸時代の史蹟として現在、総和町に残されている中で、唯一の茨城県文化財指定を受けているのは、大堤の鮭延寺にねむる、江戸時代の儒学者、熊沢蕃山の墓所である。

蕃山は、当時の儒教（中国の学問）を学び文学、経済学にも精通して一世を風びし、天下に名をはせた歴史上の人物である。

国道4号線と県道、古河・境線が交わる大堤の交差点の南角に赤い屋根の寺院が見える。そこが熊沢蕃山の墓所のある鮭延寺である。

正源山鮭延寺は、越前国永平寺末の禅寺である。本堂裏の竹林がその風を一そう高めているようである。その竹林の中を分けるように墓地への道が通っている。

墓地へ入って正面突き当りに、北向きに五輪の石塔が一きわ大きく建っている。

さけのべえちぜんのかみひでつな

鮭延越前守秀綱の墓である。出羽山形の城主、最上家70万石の家老で1万千5百石、智徳、仁義を知る武将であった。その秀綱が最上家の内紛により山形をはなれ、古河の土井利勝を頼ってきた。そして、この大堤に住むこととなった。その時、秀綱を慕って山形より、ついて来た家臣が10人もいたという。（清水・岡野・森川等）秀綱は土井侯に迷惑をかけてはならぬと考え、土井侯に賜った千石をその10人の家臣にそれぞれ百石づつを与え、土井侯に忠勤を励むようにと、自分は無禄となり、隠居の身を大堤に過ごしていた。毎日、10人の家臣の家を訪ねて激励していたという。

秀綱が没した時、この家臣らが、この地に一寺を建立し殿の姓をもって寺号、鮭延寺としたといわれている。

近世武将の真随をその墓前に近づく者をして、ひしと身に感じさせる想いがするのであ

る。今も殿、秀綱を守り従うように、墓前の両側に家臣の墓が並んでいる。

この墓地の北の奥津城に一代の偉人として崇敬される「熊沢蕃山」が夫人と共に静かに安らかに眠っている。

天然記念物になるような美しい紅葉の大樹の下に墓碑が2基並んでいる。(最近、紅葉の大樹は枯れて伐採されてしまった。)向って右が妻矢部チイ氏之墓,左が熊沢息遊軒伯継(蕃山)之墓である。

陽明学者であった蕃山は、朱子学派の徳川幕府とは相入られず、その忌畏に触れて、禁固を命ぜられた。時に貞享4年(1687)である。播州明石の松平侯に保護されたが、古河城に移ってきていた、松平信之が蕃山を預かることにした。信之は、岡山藩で蕃山が活躍していた頃に、その考え方に共鳴し、教えを受けていたことがあった。大学者を古河にお預りしたいと願い、禁固幽閉の地にしてもらったのである。

勿論、幽閉の身の蕃山が、古河での活躍はとうてい出来なかったであろうが、蕃山は単に学者だけでなく、政治・経済の面での識見も高く、特に、土木、治水等の指導業績は極めて大きかった。表面的活躍は出来ない身であったが、古河、総和地方での当時の治水事業等には蔭の指導があったのではないかと思われるのである。古河近くの栃木県あたりに今でも「蕃山^{つづみ}堤」の地名が残っているのをみても、そう思えるのである。

73才、元禄四年(1694)病没する。儒礼をもって、この鮭延寺に葬られたのである。

蕃山を伝えるに一口伝として次のようにいわれている。

「京都に生れ、水戸で育ち、近江に学び、岡山にて功を挙げ、古河に没し、大堤に葬られる。」と、

波乱万丈の人生を伝えているように思えるのである。

見識高き政治家であり、大教育家であり、文学者、音楽芸術家であり、大学者であった蕃山を今もなお信奉する者が全国から墓前に詣でている。その香煙は絶えることがない。

命日8月17日には年々蕃山祭が催されている。(昭和46年10月には280年祭が盛大に行われた。)

“老の身の見むこと難き故郷に春待ち得てや帰る雁がね”

蕃山述懐の一詩である。

大堤村は今総和町であるが、江戸時代は古河領地内であった。この鮭延寺をはじめ、領内で現総和地内にも多くの史蹟が残されている。

磯部の館跡近くに、古河藩家老格の寺田与左衛門の墓所もある。しかし、この墓所については、今、研究解明中である。

磯部には、当時の農民の生活の様子を知ることのできる古い記録、江戸時代の文書類が出ている。

「水帳」(検地帳)「五人組帳」などをみると、身分制度(士農工商)のもとにあって、農民の生活は相当苦しい、きびしいものがあつたようである。

農民は武士にとって都合のよい働き手であり、収入源としての存在であつたわけであるから、いわゆる「生かさぬよう殺さぬよう」にと、ほどほどのきまりをつくっていたのであろう。そのことが、「五人組帳」等をみるとよくわかるのである。

五人組の制度は、古い時代にも中国のまねをして、「五保の制」というのがあつたが、中世の頃一端と絶えて、江戸時代、政策の上に復活してきたといわれている。

寛永14年10月26日関八州及び安房、甲斐、信濃の天領または寺社朱印地に命じたのがこの始まりといわれている。

「五人組帳」或は「条目仕置」といわれ、農民の生活を規制したものである。その条項も少ないので数箇条、多いのでは70条ぐらいのもあつたようである。

磯部の永塚家所蔵の五人組帳は、72条にも及ぶものがある。

磯部はじめ、前林、釈迦、砂井、葛生、柳橋の一部、大山(古河)はいずれも天領(徳川直轄地)であつて、そのきまりも一そうきびしかったとみえる。

名主からは、多いときは毎月1回、少ないときでは年3回～1回位、惣百姓をあつめて、必ず読みきかせたうえで、惣村百姓連判で五人組毎に請印をさせている。

また、五人組といっても必ずしも1組が5人(軒)とは限らなかったようである。寛政7年(1795)頃の磯部の例をみると、三人組が1組、四人組が8組、五人組が10組、八人組が1組であつたという。

平均して五人組が多かつたので、いわゆる「五人組制」といわれたのである。

この掟(条項)は禁止事項ばかりではなく、実践事項、協力事項等も示されているようである。特に、どの条項にも必ず入っていたのは、切支丹禁制のことであつた。

如何に幕府の切支丹に対するきびしい取締、鎖国政策への強化が、すみずみまで徹底していたかがわかる。

五人組帳にみられる条項をいくつか例としてあげてみよう。農民生活の様子をうかがい知る手がかりにでもなればと思って。

1. 切支丹宗門御制禁の儀御高札の表急度相守事。
1. 1俵3斗7升入に江戸へ送る事。(年貢米)
1. 寄合の上割付を銘々請負う。

1. 郷御倉の番をする。火災には駈付ける。弁納する（弁償を協同とする意）

1. 悪党取押の事（悪者は協力してつかまえよ）

1. 盗人の宿禁

1. 荒地は五人組一村にて仕付ける事（共同作業）

1. 朱印伝馬の人足は無滞様の事。

1. 日付刻付を守る（時間厳守）

1. 馬盗を禁ず

1. 博奕（賭博）は法度である

1. 衣類は応分に下女は布木綿の事

1. 百姓の不精、遊事の禁

（他略）

当時の農民の生活規範のようなものがうかがわれると同時に封建制度下の組織の一端を知ることでもあるようである。

天領のほかの藩領には、「古河藩条目」のように藩だけの定書があって統制は相当きびしかったようである。

〔近現代（明治・大正・昭和）〕

明治4年（1871）の廃藩置県は、幕藩期の領地支配の関係を一掃した。それは、明治政府が統一国家をめざすうえでの基礎固めであったからである。

総和地域は、江戸末期（幕末期）まで、古河藩、関宿藩、壬生藩の支配地と幕府直轄地（天領）と旗本領、寺社領が複雑に入り組み、支配者の数も15人を越えていたといわれている。そのため、廃藩置県の時点では、古河県、関宿県、岩槻県、壬生県の4県の管轄地に統合された。

明治4年12月まで、総和は印旛県に入れられていたが、明治6年になると印旛県と木更津県が廃止されて千葉県になった。総和もその時は千葉県の管轄下に入っていた。

明治8年になると、水利や土木関係、あるいは治安行政等の問題で、県境の入りくんでいた茨城、千葉、新治の3県を整理統合して新治県を廃し、茨城、千葉の2県とした。

この時、総和地区は茨城県となったのである。

地理的条件が大きな問題であったと思われるが、行政上の基礎となる管轄地の問題が新明治政府のまだ流動的な姿勢のあらわれとして各地に起きていたのである。総和地区が江戸時代から分割藩政の状態にあった名残りとしてか、完全に茨城県に編入されるまで時間がかかったとみることができよう。

総和地域には、新政府に対する住民の直接的反対運動のようなものは記録にはみられないが、近代国家形成に対する「自由民権運動」が明治20年代頃まで、全国各地に渦を巻いていたので、この辺にもその波は押し寄せてきていた。

当時岡郷村小堤出身の館野芳之助は、古河の自由民権運動家であった小久保喜七や岩崎万次郎らと、古河を中心に自由民権運動を精力的に展開した活動家の1人である。

万延元年（1860）生まれの館野は、その多感な青年時代が、国会の開設や憲法制定を要求する民権運動の裾野が広がりを示した時期でもあったので、自由党に入党し献身的な活動家へと成長していったといわれている。

政府の弾圧も酷しくなってくると、かえって直接行動を伴う急進的な思想と行動へと転進していくものである。

明治17年加波山事件の挙兵計画中、館野は自宅で「爆裂弾」を製造していた。誤って爆発を起し、自分の片腕を吹き飛ばしてしまうという事件を起こしてしまった。

翌18年には大阪事件にも連座し、名古屋に投獄されてしまう。

しかし、彼は自由民権運動急進派の典型的足跡を歩んだように思われるのであるが、名古屋の獄中、内省的なものを含みながら、真の自由と民権の思想を広く世界の思想家たちの考えから学ばねばならぬことを訴えている。

この考え方を「自由東道」という本に著している。教育、宗教、法律、政治上の自由を巾広く書き綴っている書で、彼の思想が脈々と読者に伝ってくるようである。最近（昭和55年3月）古河市史資料第7集として復刊をしているので内容については一読をすすめるにとどめておく。

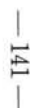
この書は時代を超えた特異な光彩を放つ画期的なものであるが、出版されたときは、すでに明治政府は、市制町村制、大日本憲法を發布して、運動家たちもすいこまれていくような国家体制が吹きあがってきていたのである。

明治22年に施行された「市制町村制」によって、総和地域は、それまでの22ヵ村（別表町村分合表参照）が合併して、新たに「岡郷村」「勝鹿村」「香取村」「桜井村」の4ヵ村に統合されたのである。

この合併統合も地主支配の秩序を確立することに、明治政府のねらいはあったわけであるが、なかば強権的に住民の意志に反することもあってか、新しい村の運営には多くの問題が残ったようである。

いつの時代でも統廃合問題にはつきものの有力者間の対立、旧村落の対立という形になって現われ、新しい村づくりの運営困難に直面するという情況さえあったようである。

〔茨城県史・市町村編IIより〕



色々な行政上の問題、部落間の問題等、それぞれ4つの村自体としてかかえながら、徐々に独立村としてのまとまりと形成を持つよう進展してきたのである。

新しい村のそれぞれの共同体、団結力を強めることに大きな力があつたのは、村自体の特性から「農業生産の増強」をめざす活動の展開に気づいたことである。

日露戦争以降、農村社会の再編成と戦時体制をいつも考えての地方改良計画の一つとして、村の振興対策が実施されるようになってきたのである。このことは、明治末から大正期における総和地域の村社会の一貫して歩んできた姿ともなったのである。

即ち「農業振興対策」に各村（4ヵ村）がそれぞれの努力をすることと協力体制のとれる面は極力交流共同して行うという方向で農業中心の村づくりに懸命な努力がつづけられていったのである。

色々な記録によると、農業生産活動にとって大きな問題点の1つに、自然災害との戦いが常にあったようである。

中でも、水害の問題は、総和、4ヵ村どこでも悩まされたが、特に、低湿地帯を持つ香取村、勝鹿村等はひどかったようである。

利根川近くの水田地帯は「雨期には大海と化し、大舟縦横に航する惨状」あるいは「田は年々の洪水の為に犯されて……此所数年収穫を見ず」（香取村郷土誌）というありさまであった。昭和になっても釈迦沼、水海沼が大海の如くになって小学校が休校というようなこともあった。現在のような积水機場の設置整備により美田と化した姿はまるで夢の様に思っている人も現存しているはずである。

水害とは反対に干ばつとの戦も時にはあったであろうし、桜井村、岡郷村、勝鹿村も多くの畑作農作物を主とする農業構造を考える方向へ進んでいった。改良殖産の増進の研究が盛んに行われるようになっていったのである。

農業対策の変ぼうの中で、総和地域においては、釈迦沼、水海沼の干拓事業を考えてみる必要があるであろう。

茨城県下でも、最も後進的な地域といわれていただけに、この事業は一大画期的なことであり当時も注目を浴びていたものであった。

大正2年3月、大山沼、釈迦沼、水海沼、長井戸沼の測量調査申請が出され、5月には調査が開始された。大正5年4月には、「設計書」が作成された。県や農商務者の技師や土木工学の権威ある学者等が訪れており、国家的事業の様そうを呈していたのである。

長井戸沼地区がいち早く「耕地整理組合」を設立し11月に着工をしている。約4年遅れて大正9年10月に大山沼耕地整理組合、釈迦水海沼耕地整理組合が設立され、大正11年11

月に着工，昭和13年12月に完成をみている（大山沼は9年着工，昭6年に完成している。）

この事業により，大山319町，积水427町の開墾耕地整理がなされたのである。

「沼地悉く美田となり」新らたに366町の耕地が造成され，1万1,800石の増収を達成したのである。その経費も米1石の相場が25円から28円という時期において約150万円の巨額におよんだといわれている大事業であった。

昭和5年以降の農業恐慌が，自然的災害とともに各村に深刻な影響を与えていったのである。経済悪化のため，在外植民地への流出が昭和8年以降増加する傾向にあり，岡郷村も大きな影響を受けた記録が残っている。

これらの救援対策として，昭和7年から9年にかけて，16億円の援助資金が出されて農村振興のために道路建設，河川改修，治山治水，港湾改良などの公共事業を行ったのである。

さらには農民の自力更生に期待するものとして，昭和8年勝鹿村は県より経済更生村に指定を受けている。昭和10年には経済更生特別指導村に，昭和12年に農林省の助成村にも指定されている。

しかし，これらの更生運動も一種の精神運動的なものへと向かわざるを得なかったようである。当時の岡郷村の計画要旨をみても，精神主義を強調しているようにとられて，経済状態切抜け策には至らなかったようである。

当時村の指導者は真剣に更生への努力を続けていったが，そのことが戦時体制を組みあげていくうえに利用される形となってしまった。日中戦争（支那事変）の拡大とともに戦時体制が強化され，戦時色が村をおおいはじめていったのである。

「挙村一致」「尽忠報国」「堅忍持久」などのスローガンとともに村の自力更生の機構は，戦争動員の実施組織に組み換えられていった。

愛国婦人会の組織も強化され，昭和13年から15年頃には各村銃後奉公会も組織設置された。

生産の場から令状1枚で戦場へ，日本全国民が総動員される戦時体制となった。総和地域全域で，満州事変以後の戦没者数は685人死亡認定数は396人となっている。ほかに中国，朝鮮，樺太など植民地で戦争犠牲者となった数も相当ある。（県終戦処理史）

第2次世界大戦の終結は，日本全土に新しい変貌をもたらした。民主的諸改革が行なわれた中で，農地改革は重要な改革の一つであった。

総和地域の各村に農民組合が設立された。

耕作権の確立，悪徳地主の追放，供出，配給割当の適正化，村政の民主化等の要求活動

が活発に展開された。(県農業史)

昭和22年の調査によると、農地改革の過程で、1反未満の家数が多かったためか、地主の貸与面積と小作の借用面積が合致しなかった。それを調整するため山林、原野の買収も行なわれた。その時、未墾地買収反対運動なども起っていたようである。

桜井村の例によると買収地主数は在村地主350人で不在地主が148人となっている。

終戦後もしばらく、農業問題が各村(4ヶ村)の中心的課題であり、その振興政策に向けて、村民一体となつての努力、復興が進められてきた。

混乱と混迷の世相も昭和25年頃より経済成長のきざしを見せはじめ、各地に近代社会への明るい建設の槌ち音が響き渡るようになってきた。

昭和28年10月、町村合併促進法が施行されるや、総和地区の4ヶ村合併の話し合が進められていった。同年11月16日、西部町村合併促進協議会が勝鹿村役場において開催された。各村長、村会議員、地方事務所総務課長ら出席のもと、会長に香取村長、副会長に新郷村会議長を選出して合併作業のスタートを切った。(勝鹿村促進合併協議会日誌)

「総和村」は、昭和30年3月16日、香取、桜井、勝鹿、岡郷4ヶ村の「対等合併方式」により誕生したのである。

新時代の脚光を浴びて、「総和」のあけぼのが訪れたのである。

旧4ヶ村は、猿島郡の西部に一団となつて一地域を構成していたことから「西部部会」と行政上もいわれており、同歩調、同行動をとることが従来も多かっただけに、この統合は、全く自然体のような形でスムーズに行われたものである。その各称も、4ヶ村の総てが和して共同体となり、平和をめざした新しい村づくりを村民の総意によってきめていこう。という願いをもつて付けられたものである。また、冒頭に述べたように、もう一つの解釈は、「下総国の平和郷」をめざしての村であるという歴史的地名説をも加えたいのである。

なおこの合併問題には、当時隣接市町村とのいろいろな組合せ、合併案があったようであるが落着くところに落着いたといえるのであろう。その後も一部古河との合併説や古河と総和の合併論等も起きていたこともあった。

とにかく、新しい総和村の建設が昭和30年より力強く始動したのである。

教育優先の基本方針のもとに、総合中学校の建設、小学校の近代校舎建設、部落公民館の設置等、教育環境の整備拡充に力は注がれていった。

新村建設のモデル村の指定を受けて昭和34年には「新農村建設市町村」に指定された。

地方自治の実績が認められて、全国町村会、及び茨城県知事より表彰を受けるなど、着々

と新村建設は進められていったのである。

しかし、当時の村財政は、国や県の支出金に依存する額が圧倒的であって、自主財政は決して楽ではなかった。(縣市町村合併史)

むしろ村の経済構造からみると新しい転換期を迎えているような状況にあった。

昭和31年の世帯数3275戸、人口2万892人、うち農家戸数2619戸で、ほぼ30%を占めている。産業別生産額も農業が96%で、専業農家が基幹産業を担う典型的な農業構造を示している。

昭和35年頃になると、農家戸数の減少、他業種よりの収入によって生活する農家の増加、次・三男の出稼ぎ労働の増加等、いわゆる三チャン農業への地すべりの傾向をたどり始めたのである。

そこで、村民の経済生活を転換させる手段として考えられてきたものが、「純農村より農工商立の村づくり」である。

このようなスローガンのもとに、平地林などの開発に着手し始め、地域開発をおし進めることとなった。

昭和35年に県では鹿島灘沿岸開発の構想がまとまったところであった。総和町では、それに呼応するかの如く、同年3月、工場誘致対策委員会を設置、7月、工場誘致条例を制定し、積極的に工場誘致が進められていった。

東京から約60キロ、東北本線沿線で村の西端を国道4号線が貫く、交通上も好条件の地にあり、東京都の衛星都市として、昭和37年都市計画区域に、昭和38年首都圏市街地開発区域にそれぞれ指定されたのである。

開発業務の円滑化と促進を図るために昭和37年には財団法人総和村開発公社も設立された。

このような条件が整いはじめた昭和35年10月に工場誘致第1号ともいうべき京浜産業株式会社が誘致された。その後同年6社、36年に45社、37年には13社と2年余の間に64社が誘致されてきたのである。

この間、昭和36年8月には、「通産省指定配電盤茨城団地」が下大野に決定された。

日本で最初ともいわれる工場団地のモデル地区としてこの「配電盤団地」が総和町に来るということは画期的なことであり「緑の中の工業団地」の理想実現が一步ふみ出されたことになったわけで、町をあげての驚きにも似た喜びでもあった。

同系列(配電盤関係)の会社が21社、同一敷地内に、事務所、食堂、体育館等を中央にしてその周辺を放射状形にほぼ同面積、同形の工場(建物)を配した近代的工業団地であ

る。

モデル団地として工場見学者が後を絶たない程であり、団地内の厚生施設（体育館、プール等）の利用を近隣地元住民達に開放しわが町の配電盤団地と親近感をもたれている。

その後町当局も工業団地方式にならって、ともすると乱開発のきらいになりそうであった工場誘致を団地造成による指定地方式をとるようにした。

昭和39年、日本住宅公団の手により「丘里工業団地」「北利根工業団地」それに「駒羽根住宅団地」の造成が開始されたのである。

昭和44年までに55社が進出し、すでに100余社が操業をしている。

「農工商調和のとれた田園都市」をめざす総和町、工場誘致、工業団地、住宅団地の造成等想像以上の発展をみせている。人口は益々増加の傾向にあり、村財政も大規模化してきた。

昭和34年1月、ついに「町制」を施行、当時の初代町長（高橋欣一郎名誉町民）は「海の鹿島」に対する「陸の総和」とわが町を謳いあげ、変貌する総和町に目をみはる程であったと語っておられています。

新しい時代に脚光を浴びる総和町、ますます開発進展の途上にある総和町。

永々として、遠き原始の時代よりこのふるさと総和の地を豊かな平和な里に築き上げてきてくれた先人たちの努力に限りなき拍手と感謝の念を捧げたい気持で一ぱいです。

（昭和57年8月 脱稿）

参考資料

- 猿島の郷土史
- 利根川図志
- 古河市史資料別冊
- 茨城県史市町村編Ⅱ

著者略歴 ^{やつぎ} 矢次 ^{きょうすけ} 京介 昭和3年10月23日生（53才）

古河口市史編纂委員

古河郷土史研究会副会長

総和町文化財調査委員

総和町郷土史研究会顧問

あ　と　が　き

20年という歳月は短いようでもあるが実際には長い。

皆様から戴いた手記の中には皆多少の違いがあり、どれが本当か判らない部分がある。それぞれの方々の記憶の相異である。又記録から見て明らかに相違のある部分もある。皆歳月のなせるわざである。

これからまだまだ30年50年と続いて少しづつ変容して行くであろう配電盤茨城団地協同組合の行く方を想う時私達編集委員一同遠くを眺める霞んだ瞳になる。

それにしても吾々中小企業が厚生施設の面で大企業と伍してそれ程遜色を感じさせない施設を持ち、20年間一社の落伍者もなく運営して来られたのも幸田理事長の私心のない采配と明敏な時勢を察する目にある様に思うと同時に組合員21社のたゆまぬ努力と協力の賜物であろう。吾々編集委員一同幸田理事長の健康とそれを助けるブレーンの方々の益々の御精進を期待致します。

編集委員一同

20 年 の あ ゆ み

昭和 57 年 10 月 1 日

編集・発行 配電盤茨城団地協同組合
20 周年記念史編集委員会
東京都港区芝大門 2 丁目 11 番 1 号
〒105 電話 03 (434)1305

印刷所 今野平版印刷株式会社
仙台市伊在白山印刷団地No.32

<お詫びと訂正（正誤表）>

以下の記載に誤りがありました。関係の皆様には深くお詫び申し上げますと共に、大変ご迷惑をおかけしますが、該当ページについて、差し込んである新ページと差替え（貼りこみ）するか、本表の通り訂正のうえ、お取扱願います。

○ 訂正箇所

38 ページ 「沿革」

（誤）大東セロハン㈱→（正）大東セロファン㈱

「関連（子）会社」

（誤）大東セロハン㈱→（正）大東セロファン㈱

（誤）大東グラビア㈱→（正）大東グラビヤ㈱

（誤）大東加工㈱ →（正）大東化工㈱

（追記） → 大東製袋㈱